

第28回 大好き いばらき 作文コンクール

受賞作品集



大好き いばらき 県民会議 / 公益財団法人 日立財団

第28回 大好き いばらき 作文コンクール

受賞作品集

大好き いばらき 県民会議 ／公益財団法人 日立財団



第28回 大好き いばらき 作文コンクール

【ねらい】

平成31年に本県において開催される「いきいき茨城ゆめ国体・ゆめ大会2019」に向け、未来を担う子どもたちに、茨城の豊かさや暮らしやすさ、伝統文化のすばらしさに加え、家族や地域との絆について考えてもらうことを目的に、「ここが大好き、私のふるさと、私の家族」をテーマに作文を募集し、個性と創造性に富む心豊かな人づくりの一助としたいと考えています。

【主 催】 大好き いばらき 県民会議

【共 催】 公益財団法人 日立財団

【後 援】 茨城県 茨城県教育委員会 各市町村教育委員会 公益社団法人茨城県青少年育成協会
株式会社茨城新聞社 株式会社茨城放送 NHK 水戸放送局 毎日新聞水戸支局
読売新聞水戸支局 朝日新聞水戸総局 産経新聞水戸支局 日本経済新聞水戸支局
東京新聞水戸支局 茨城県学校長会 茨城県高等学校長協会 茨城県PTA連絡協議会
茨城県高等学校PTA連合会

【応募テーマ】 「ここが大好き、私のふるさと、私の家族」

【対 象】 茨城県内に通学する小学生・中学生・高校生

【募集期間】 平成29年6月20日(火)～9月7日(水)

【応募数】

実施部門	応募数
小学校低学年の部	5,251
小学校高学年の部	7,696
中学校の部	9,365
高等学校の部	243
合 計	22,555

【表 彰】

茨城県知事賞	賞状及び副賞	4名
日立財団 小平記念賞	賞状及び副賞	4名
茨城県議会議長賞	賞状及び副賞	4名
茨城県教育委員会教育長賞	賞状及び副賞	4名
茨城新聞社長賞	賞状及び副賞	4名
大好き いばらき 県民会議 理事長賞	賞状及び副賞	35名
日立財団 奨励賞	賞状及び副賞	36名

【審査・選考】

※大好きいばらき作文コンクール審査会（平成29年10月4日及び10月19日開催）において選考委員：19名（専門家及び県民運動推進委員 毎年度委嘱）

委員長：川嶋 秀之（茨城大学教育学部教授）

副委員長：小野寺 浩幸（公益財団法人 日立財団 常務理事）、堤 義男（大好きいばらき県民会議 専務理事）

委 員：照井 康郎（茨城県教育庁総務企画部生涯学習課長）、石井 純一（茨城県教育庁学校教育部高校教育課長）

森作 宜民（茨城県教育庁学校教育部義務教育課長）、大高 茂樹（株式会社茨城新聞社 学芸部長）

大窪 修二（公益社団法人茨城県青少年育成協会 副会長）、潮田 元男（茨城県生活環境部参事兼生活文化課長）

県民運動推進委員：山野辺 勉、爲我井 茂、池田 智子、根本 利隆、寺内 義興

島田 百子、森 賢禧、高橋 寄子、大久保 昌義、福岡 智子

平成29年度

第28回 大好き いばらき 作文コンクール

受賞作品

茨城県知事賞	(4名)
日立財団 小平記念賞	(4名)
茨城県議会議長賞	(4名)
茨城県教育委員会教育長賞	(4名)
茨城新聞社長賞	(4名)
大好き いばらき 県民会議 理事長賞	(35名)
日立財団 奨励賞	(36名)

茨城県知事賞

守谷市立郷州小学校	三年	大平 顕	家族がそろう毎日……………	1
つくば市立桜並木学園並木小学校	五年	遠藤 心咲	私の夢……………	1
土浦市立土浦第三中学校	一年	山嶋陽菜乃	「魅力がない」からこそ魅力？	2
茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校	一年	古谷 滯士	棺に入れた手紙……………	3

日立財団 小平記念賞

水戸市立吉沢小学校	一年	松縄 瑛希	はじめてのいばらきのなつ…	5
常陸大宮市立山方小学校	六年	佐藤慶之介	ぼくの「まち」自まん……………	5
茨城県立水戸特別支援学校	中学部一	石川 宙	私の家族……………	6
茨城県立水戸第三高等学校	一年	本馬ひなた	町と桜と……………	7

茨城県議会議長賞

日立市立宮田小学校	三年	平子 大悟	ぼくの大すきなじいじのパン	10
笠間市立稲田小学校	四年	柳橋 琴音	西茨城百km徒歩の旅にさん加して	10
つくばみらい市立谷和原中学校	三年	橋本 涼	茨城って最高だよ!?!……………	11
茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校	二年	藤枝 彩穂	我が家から発信！茨城県……………	13

茨城県教育委員会教育長賞

守谷市立高野小学校	二年	松丸 美紅	しょうらいのゆめ……………	15
ひたちなか市立平磯小学校	四年	軍司那奈葉	帰るところが二つあるわたし	15
土浦市立土浦第二中学校	三年	米川つかさ	祖父のためにも……………	16
茨城県立常陸太田特別支援学校 高等部一		生天目真弓	将来の夢……………	17

茨城新聞社長賞

つくば市立島名小学校	三年	岩田明香里	私の町のおせんべい屋さん…	19
ひたちなか市立田彦小学校	五年	中村 月花	茨城ってすごい……………	19
茨城県立並木中等教育学校	二年	寺田 美郷	実はすごい茨城県……………	20
茨城県立水戸第三高等学校	二年	玉瀾 南実	最下位脱出作戦……………	21

大好き いばらき 県民会議 理事長賞

阿見町立実穀小学校	一年	中島 悠斗	ことばっていろいろあるんだな	24
筑西市立長讃小学校	一年	渡辺 優月	わたしのおとうとへ……………	24
阿見町立阿見第一小学校	一年	宮原 優菜	わたしのかぞく……………	25
八千代町立中結城小学校	二年	中山さくら	大すきな八千代……………	26
東海村立中丸小学校	二年	打越 隼翔	大すきなおじいちゃん……………	26
鹿嶋市立中野東小学校	三年	小澤 心香	大好きなふうちゃん……………	27
桜川市立樺穂小学校	三年	入江 悠介	お母さんのきゅう食……………	28
筑西市立長讃小学校	三年	武井 晏慈	うけついできたもの……………	28
結城市立結城西小学校	三年	登坂 太晴	おばあちゃんの結城つむぎ……………	29
美浦村立大谷小学校	三年	椎名 実花	夢は日本一の「農ガール！」……………	30
ひたちなか市立長堀小学校	四年	福澤 柚乃	これまでの「わたし」をふり返って……………	31
つくばみらい市立陽光台小学校	四年	山村すずな	私の街の大好きポイント……………	32
つくば市立光輝学園松代小学校	四年	稲垣 貴厚	ぼくと生き物たちのふる里……………	33
つくば市立桜並木学園並木小学校	五年	戸村 昂斗	自まんのおじいちゃん……………	34
守谷市立守谷小学校	五年	松井 智伸	守谷、ぼくを育ててくれているまち……………	34
坂東市立弓馬田小学校	五年	石塚 悠斗	茨城県の高速度道路……………	35
つくば市立北条小学校	六年	町田 礼	ぼくの住む街……………	36
つくばみらい市立小張小学校	六年	松本 愛佳	伝統と共に……………	37
水戸市立石川小学校	六年	渡辺 真彩	おじいちゃん、は黄門様……………	38
ひたちなか市立佐野小学校	六年	砂川 結良	私のお父さん……………	39

霞ヶ浦高等学校附属中学校	一年	根本 優真	茨城ブランドを世界へ……	40
茨城大学教育学部附属中学校	一年	柏 菜々美	伝えていきたい ふるさとの良さを	41
常総市立石下中学校	一年	高橋 紅愛	茨城の自然と共に生きる……	42
常陸太田市立水府中学校	一年	菊池 麻見	茨城は私のふるさと……	43
常陸大宮市立山方中学校	一年	根本 紋	好きな年中行事……	44
つくば市立筑波西中学校	二年	飯村こころ	将来の夢……	45
日立市立助川中学校	二年	佐々木理紗子	様々な人と関わって……	46
水戸市立第一中学校	三年	川上 優月	大好きな茨城を知ってもらうために	47
龍ヶ崎市立城ノ内中学校	三年	大北 あい	私の自慢のふるさと……	49
茨城町立明光中学校	三年	石田 彩華	介護福祉士を目指して……	50
茨城県立水海道第一高等学校	一年	大島りのう	いばらきと私……	51
茨城県立水海道第一高等学校	一年	鈴木 柚南	すきなまち……	52
大成女子高等学校	一年	田所 陽奈	私の家族……	54
茨城県立下妻第一高等学校	二年	大川 真輝	故郷の祭り……	55
茨城県立水戸第三高等学校	二年	大平 夢叶	茨城の誇り……	57

日立財団 奨励賞

結城市立城南小学校	一年	杉山 隼斗	ぼくのおじいちゃん……	59
土浦市立中村小学校	一年	石川 理人	たまにあえたなつ……	59
稲敷市立高田小学校	一年	廣田 心美	やさしいけいちゃん……	60
高萩市立秋山小学校	二年	宇佐美七海	お兄ちゃんのキララベン……	61
笠間市立友部小学校	二年	須藤 美音	わたしのゆめ……	61
北茨城市立大津小学校	二年	大山 詠士	大すき！お魚……	62
筑西市立嘉田生崎小学校	二年	富田 葉月	はこしまゆうすい池のおきにいのこと	62
龍ヶ崎市立馴馬台小学校	二年	甘利 光麗	私のちかばあちゃん……	63
日立市立河原子小学校	三年	叶野 絢桃	わたしのかぞく……	64
常陸大宮市立大宮西小学校	三年	寺門理菜	西ノ内わ紙「紙のさと」をたずねて	64
石岡市立三村小学校	四年	津賀 秋帆	霞ヶ浦をきれいにしてみ力度アップ！	65

筑西市立下館小学校	四年	小島 悠雅	ずっとなかよし三人組……	66
北茨城市立関南小学校	五年	神永 知輝	自然の恵み……	67
結城市立城南小学校	五年	岩崎結芽里	私の家族と合言葉……	68
かすみがうら市立霞ヶ浦北小学校	五年	小松崎大翔	こんなにイイ所があるのにな	69
北茨城市立中郷第二小学校	五年	鈴木 咲々	大好きいばらき……	70
つくばみらい市立陽光台小学校	六年	佐賀 幹	大好きいばらき……	71
常陸太田市立佐竹小学校	六年	助川麻愛弥	私のまち……	72
那珂市立木崎小学校	六年	大川みやび	大好き木崎小……	73
水戸市立渡里小学校	六年	阿久津紗良	兼六園と偕楽園……	74
那珂市立第四中学校	一年	加藤 澄華	私の中の茨城……	75
茨城キリスト教学園中学校	二年	高下 風花	希望をくれたものは……	76
日立市立泉丘中学校	二年	松本 駿佑	ひいばあからの贈り物……	77
茨城町立青葉中学校	二年	高橋 紗良	祖父の三回忌……	78
笠間市立友部中学校	二年	友部さくら	やさしさ。協力。思いやり……	79
水戸市立第三中学校	三年	山田 彩水	茨城で叶えたい、私の「夢」……	80
ひたちなか市立那珂湊中学校	三年	水越 有	家族の存在……	81
つくば市立吾妻中学校	三年	後藤 美穂	世界の縮図……	82
日立市立多賀中学校	三年	小太刀理子	私の大好きなまち……	84
那珂市立瓜連中学校	三年	黒須 結那	十年後の家族……	85
茨城県立友部特別支援学校	高等部一	磯貝 七海	将来の夢……	86
茨城県立下妻第一高等学校	一年	三谷 将平	大いなる筑波山……	87
茨城県立下妻第一高等学校	一年	木村 友乃	茨城の魅力……	88
茨城県立水海道第一高等学校	一年	青島 乃愛	私の幼馴染、私が住むまち……	90
大成女子高等学校	一年	亀井 美紀	これからの茨城に必要なこと……	91
茨城県立常陸太田特別支援学校	高等部一	小又 加奈	「夢」の素晴らしさ……	92

家族がそろう毎日

守谷市立郷州小学校 三年 大 平 顕

ぼくは「姉ちゃん死ぬの?」と聞いてはいけない気がした。元気だった姉ちゃんが、とつ然ガンになったとわかった日の夜、ぼくの心の中はギュツとなつて泣きそうだった。病気がわかった二日後に姉ちゃんは入院した。姉ちゃんが入院した病とうはぼくと弟は面会に入れない所だった。

ぼくより三才上の姉ちゃんは、ケンカもするけれど、ぼくが悪いことをするとおこつてくれる、やさしい姉ちゃんだ。姉ちゃんが入院した後、ごはんを食べる時に姉ちゃんの席が空いていて、話も出来なくて、とてもさみしかった。時々、外はくで帰ってきた時に、「まだ、病気なおらないのかな。姉ちゃんはもう帰つてこれないかもしれないのかな。」と、ぼくの心の中は不安な気持ちであふれていつも病院に帰る姉ちゃんが乗っていた車を泣きながら走って追いかけた。

ぼくの家は五人家族だ。お母さんは仕事の後に病院にいつてかん病していた。帰ってくるのは夜の十一時位。ぼくはお母さんに会えなくてさみしかった。でも、お母さんから姉ちゃんの毎日の様子を聞くことはうれしいことだった。それは、ぼくの三才下の弟も同じ気持ちだった。お父さんは夜に急いで帰って来て、ぼくたちの面どうを見してくれた。サッカーを

大学生に教えているお父さんにとってそれは大へんな事だったと思う。

ぼくは姉ちゃんの入院までは家族みんながそろっているのはふ通だと思っていた。でも、それが当たり前じゃないのに気付いた。四ヶ月後、姉ちゃんがたい院することを聞いた時、「ぼく、がんばった。」

となみだがあふれた。なぜなら、ぼくはずっとさみしい気持ちをがまんしていたからだ。今、ぼくの家族はごはんをみんな食べて、話をして、いつもわらっている。姉ちゃん、楽しいね、家族がそろう毎日は。

私の夢

つくば市立桜並木学園並木小学校 五年 遠 藤 心 咲

私は将来、茨城県の医療を支える医師になりたいと考えています。なぜなら、人の体のことや赤ちゃんから大人へと大きくなっていくこと、病気のことで、病気を治していく仕組みややり方など学問としての医学に興味があるからです。それから、医師という仕事は、自分が勉強したことや身につけた技術を患者さんのために使うことができるからです。自分のためにも他の人のためにもなることができ、とてもやりがいのある仕事だと思います。

最近、私の住む茨城県では、人口十万人あたりの医師の数が全国ワースト二位であることを知りました。医師の数は全国平均のおよそ三分の二だそうです。私の住むつくば市では

比かく的、医師の数が多く私自身もお医者さんがいなくて、困ったことがあります。しかし、私の祖父母が住む鹿行地区では医師不足が深刻で病院の医師がとても少なく、体の調子が悪くてもなかなかみてもらえなかったり、救急車で運ばれても近くの病院に専門の医師がいなかったため、遠くの病院にいかねければならないことを知りました。健康に生きたいという気持ちや痛みからのがれたいという気持ちは、どこに住んでいても同じなのに住む地域によって受けられる医療の質や量が大きく違ってしまふことは、残念です。だから私は、医師になって、茨城県の医師が少ない地域の医療を支えたいなと思います。

ただ、不安もあります。一つ目は、自分が医師になることができるかということです。医師になるためには、大学の医学部を卒業して、国家試験に合格する必要がありますが、とてもむずかしいことだといひます。患者さんから信らひされ、正しい医療をするためには当然だと思ひますが、たくさんたくさん勉強して試験に合格しなければなりません。私は、毎日勉強はしているものの勉強の時間が足りないと思ひます。だから、これからは自分にきびしく、勉強し夢に近づきたいです。二つ目の不安は、医師の仕事の大変さです。お医者さんの少ない病院では、お医者さん一人分の仕事が多いと思ひます。それでやめてしまつたり、お医者さん自身も病氣になつてしまふこともあるそうです。また、女性医師は、結婚して子供が生まれたら仕事との両立が大変だと聞きます。どんな仕事でもそうだと思ひますが、女の人があん心して、ずっと働き続けられる仕組を茨城県や市町村がもつと整えてくれた

らうれしく思ひます。

私は今十さいで、あと十年したら大学生、二十年したら、仕事をしていると思ひます。その中で、とても大変なこと、つらいこともあると思ひうけれど、自分のために、茨城に住む人の笑顔のために、力強くがんばつていききたいです。

「魅力がない」ことこそ魅力？

「茨城県の将来を考へて」

土浦市立土浦第三中学校 一年 山 嶋 陽菜乃

茨城県は「魅力がある都道府県ランキング」では最下位の常連だそうである。日頃、何不自由無く暮らしてきた私は、この事が不思議でならなかつた。私は、この作文を書くまで茨城県について考へたことがなかつたが、色々考へていくうちに「魅力がない」と思われてしまふ、まさにそのことこそが茨城県の最大の魅力なのではないかと思ふようになった。

まず、このアンケートで「魅力がある」と言われる中身は、その県に遊園地や動物園などの娯楽施設がたくさんあり、多くの観光客が訪れることを示しているようである。しかし、これらのレジャー施設を持つことだけがその地域を真に魅力的なものにするのであろうか。全国有数の平野を持つ茨城県は、それらの施設を造ろうと思へば、決して不可能ではないだろう。筑波山に登り、その山頂から広大な関東平野を臨むと、このことが実感される。しかし、これほど豊かで美しい自然を壊し巨大テーマパークを造つて来県者を増やすことが

はたして茨城県をより魅力的な県にするだろうか。徳川御三家の一つとして、石高が高かった茨城県は、現在でも日本有数の品質を誇る米の名産地である。新潟県や秋田県がイメージされるかと思うが、陸稲に関しては茨城県の収穫高は全国トップで、そのシェアは六十七パーセントに及んでいるのである。他にも、栗やレンコン、ピーマンなどたくさんのものである。日本一を誇る農産物がある。都道府県別農業産出額では、茨城県は北海道に続く第二位の農業県なのである。これらも全て茨城県が広大な平野を中心に大きな河川や湖を有する恵まれた自然環境の中に存在している結果なのではないだろうか。現在の美しい田園風景は、テーマパークなどに置き換えられることなく、これから末長く残って欲しいと思う。私は思う。ちなみに、広大な敷地を占める「筑波研究学園都市」は、田畑や人家を避け、農業に適さない土地や赤松林を切り開いたりして、その用地を獲得したのだった。東京からの帰り道、広大な利根川を渡ると、突然澄んだ空が大きく開けて長い夕方に感動することがある。霞ヶ浦上空の大気が安定していることもあって、気候は温暖で大地を風が吹き渡る。長い海岸線は、海の幸の宝庫でもある。

これらの恵まれた気候風土が大いに影響しているのだろう。茨城県の最大の魅力は、県民の人間性なのではないか。人を思いやるゆとりが感じられる。どの店に入っても、店員は本心からのもてなしを提供してくれる。気持ちにゆとりがあるので、人と争うことを好まない。しかし、自信の裏返しとして頑固さも持ち合わせている。

広大で豊かな自然環境、穏やかな気候風土極めて豊かな産

物、そして、これらが育んできた恵まれた人々。こうしたものに勝る「魅力」とは何だろうか。有名な行楽地に暮らす人々は、訪れる多数の観光客によって生活の静けさが破られる場面も多いと聞く。茨城県もその本当の魅力に気付かれない方が幸せなのかもしれない。茨城県は、この先も「魅力がない」と言われ続けるかもしれないが、やはりそれこそが、茨城県の最大の魅力だということをぜひ他の都道府県の方にも知ってもらいたい。

棺に入れた手紙

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校 一年 古 谷 滯 士

僕にとって最も大切な存在、それは家族である。

僕は、母と妹との三人家族である。祖母は近所に住んでいて一緒に過ごすことが多い。最近の僕は、特に祖母と過ごす時間が増えた。僕の母がシングルマザーであるという事情もあるが、僕自身、祖母となるべく一緒にいたいという思いが強くなっているという理由が大きい。それは、二年前の祖父の死がきっかけだった。

二年前、祖父はがんで亡くなった。その祖父の棺の中に、僕は一通の手紙を入れた。その手紙で、僕は祖父に約束をした。「おばあちゃんは僕が守る。」と。

「祖父と祖母はあまり仲が良くない。」それが、祖父が病気になる前の十二年ほどの間、僕が感じていた二人の印象だった。お互い、あまり話をせず、楽しそうにしていると

見た覚えがない。幼い僕は、二人を特に意識して見ていたわけではないが、そのように感じていた。「おじいちゃんとおばあちゃんはケンカしているの？」と母に聞いたこともあったように思う。「仲が悪いのになんで一緒に暮らしているんだろう？」と疑問に思っていた。そんな時、母から祖父の病気を知らされた。がんという病気が大変な病気であることは、小学六年生の僕にも理解できた。僕は、度々、祖父の見舞いに行った。その度にいつも病室には、祖父に付き添っている祖母がいた。無口な祖父は、よく話をするようになっていった。そして、今まで以上にわがままになっていった。小さなことから、看護師さんに頼むようなことまで、全て祖母に言いつけていた。そして、祖母はその全てをこなしていた。仲の悪い二人が、狭い病室で顔を付き合わせている様子は、僕には居心地の悪いものだった。当初は。しかし、見舞いに行く回数を重ねるごとに次第に、もしかして僕が感じていたのは間違いではないかと思うようになった。祖父が言うわがままに祖母は喜んで従っているように見えたのだ。自分でできることも祖母にいいつけ、ナースコールを押すべきことも祖母に頼る、祖母はそんな祖父を全て受け入れ、うれしそうにしているように見えてきた。すると、祖父の見え方も変わってきた。ありのままの自分を祖母にさらし、安心していられた。がんという大病で精神的に苦しいこともあるだろうが、祖母に頼ることで心の安定を得ているように見えてきたのである。祖母は、もしかしたらそうした祖父の気持ちを含めて知った上で許し、受け入れ、支えているのではないだろうか。そして、そうすることで祖母自身の不安や祖父への思いを和ら

げているのではないだろうか。僕の見方が変わってくると、考え方も変化してきた。こうして飾らない自分をさらけ出すことができ、相手を支えるために全てを受け入れることができる。それも家族のひとつのあり方ではないだろうか。

病と闘う祖父とそれを支える祖母を見ているうちに、僕は家族のあり方を学んだ気がする。祖母は持てる力の全てで祖父を支えた。病に勝つことはできなかったが、棺の中の祖父の顔が安らかなのは、祖母の支えのおかげだと感じた。その祖父の棺に僕は手紙を入れたのだ。

偉そうなことを言ったが、今のところ、支えると言うより支えられているということが多いのが現状だ。あまり支えることができなくて悔しいという思いがある一方で、自分が支えられているという実感を持つことができていることに、なぜか喜びを感じている自分がいる。これも家族の形について視野を広げることができた僕の成長の証ということにしてもいい。僕は高校生になったが、未だに寂しがりのところがあり、誰かと一緒にいないといられない。家族からはよく、「かまってちゃん」と笑われる。自分でも自覚しているが、別に悪いことではないと開き直っている。人と人が関わり合い、つながることでは絆は深められていくものだから、高校生になっても思ったように精神的に成長できず、祖父との約束を果たすにはほど遠い今の僕ではあるが、祖父にはもう少し片眼をつぶっていてもらって、祖母に支えられながら徐々に支える側に成長する僕を見守っていてもらいたい。

はじめてのいばらきのなつ

水戸市立吉沢小学校 一年 松 縄 瑛 希

ぼくは、四がつにやまなしけんからみとしに、ひっこしてきました。うみに三十ぷんできけるので、なつやすみにたくさんうみであそび、いろいろないきものをみつめました。

はじめていわばのうみへいったとき、ここでどんないきものがみつえられるかなとうきうきしました。ゴロゴロ、ツルツルしているいわばは、あるきにくかったけれど、うみのなかには、かいやかに、やどかり、ひとで、ちいさなさかながいました。さんかくぼうしのかいは、いわにくつついていて、てにのせたらぬるつとうごきました。くすぐったかったです。かには、つかまえたらぼくのをちくんとはさみしました。でも、つかまえられてよっしゃあとおもいました。やどかりは、つかまえようとしたら、すぽとからだをかいのおうちにひっこめていました。つかまえてみていたら、くろいあしをだしてにげようとしていました。にげちゃだめつ、とおもいました。でも、かえるとき、うみのいきものだからうみにかえしてあげました。やどかりがうみにいっしょうけんめいもどろうとしていました。うみがだいすきなんだなどおもいました。さみしかったけれど、うみにかえしてあげてよかったです。

はじめてのいばらきのなつは、うみでたくさんあそんで、うみのいきものをたくさんみれて、わくわくしました。いろいろないきもののなまえをずかんでしらべていたら、もつといろいろないきものをみてみたくなりました。いえには、つれてかえれないけれど、また、うみにいってあたらしいいきものをさがしてみたいです。ぼくは、うみがたくさんあるいばらきけんをすきになれそうです。

ぼくの「まち」白まん

常陸大宮市立山方小学校 六年 佐 藤 慶之介

ぼくの住むまちは、茨城県の北部に位置する山沿いのまちです。NHKの朝の連続テレビ小説「ひよっこ」のぶ台になった地域です。十年余り前に五つの町や村が一つになって、常陸大宮市となりました。とても自然豊かな場所で、久慈川という大きな川が流れ、初夏から秋にかけて鮎つりの人々でにぎわいます。鮎がたくさんつれるので、まちには鯉のぼりではなく「鮎のぼり」があるくらいです。毎年、夏に「あゆの里まつり」というお祭りがあって、鮎のつかみどり大会や花火などで盛り上がります。山々では春は桜が咲き、芽ぶきのころはそれは美しく、山菜などの山の恵みもあります。夏は緑がおいしげり、夏の太陽に鮮やかに映えるのです。秋は木々が色づき、キノコなどもたくさん採れます。

農業、畜産業も盛んで、米や野菜の栽培、牛やにわとりを飼育し、牛乳や卵を出荷しています。それらは市場や農業協

同組合（JA）などを通して、スーパーマーケットや地元の道の駅などで販売されています。しかし、過疎化、高齢化によつて年々それらにたずさわる人も減っています。ぼくの通う小学校の生徒数も四十年前に比べて半分以下になっています。とても残念に思います。

確かに都会のようにたくさんのお店があるわけではないし、とても便利な場所ではないと思います。電車は一時間に一本ぐらいしか走らないし、ポケモンGOをやっても、ほとんどポケモンは出てこないでポケモンはつかまりません。そうです。ぼくのまちはいわゆる「田舎」なのです。それでも、ぼくは胸を張ってぼくのまちを自まんしたいのです。田舎は田舎の素晴らしさがあります。

ぼくの両親はこの地域の生まれです。ぼくの前祖もずっとこの土地で暮らしてきました。ぼくの家近所の人たちは親切で、ほとんどの人が顔見知りです。学校の登下校のときもいつもあたたかく見守ってくれています。優しい人たちの住む美しいまちなのです。ぼくはこのまちで生まれ育ちとても良かったと思います。だから是非皆さんにもこのまちの素晴らしさを知ってもらいたいです。

私の家族

茨城県立水戸特別支援学校 中学部一年 石川 宙

ぼくの家族は、お母さんと二人です。ぼくのお母さんは、あまりおこらないです。テストで十点でも、テストを見直して、「この字をもっときれいに注意してかけばマルだったのに」と言つてテストをもう一度やりなおしてくる。でも、お母さんがおこる時は、うそを言つた時とゲームばかりやっている時です。

ぼくは、小五の時に学校でたおれました。脳内出血をおこし倒れてしまいました。病院の先生の話だと、「あと少しおくれたら、死んでいた」と言われたそうです。その時からぼくの命のリレーが始まりました。こども病院では、むずかしいと言われました。そして、つくばに連れて行かれました。お母さんは、毎日、ぼくのめんどろをみてくれました。手術の日の前の夜、ぼくは、お母さんに「いままで育ててくれてありがとう。」と言つたらお母さんが泣きながらぼくをすぐおこりました。あんなお母さんをみたのは、初めてでした。お母さんは、「生きるために手術するの。今、負けたら自分から逃げているんだよ。」と、おこられました。二回目の手術が終わり、お母さんに「お帰り」と言われて、ぼくは、「ただいま。」と答えました。ぼくは、一週間してICUに入つて普通の病棟に戻つて「なにを食べてもいいよ」と言われ、お母さんは、半額品が好きなので、時間を見ていつも夜食を買いに行つてました。

それが入院している間の楽しい時間でした。二人でそんな悪いことをしていました。でも、それが楽しくて病院生活が楽しくなりました。

リハビリも最初は、いやだったけど先生がやさしくて、だんだん好きになりました。

そして、水戸の病院に戻った時は、お母さんが毎日病院に来てくれました。リハビリ入院です。

お母さんは、バスをのりついで来てくれました。お風呂に入れてくれたり、リハビリと一緒につきあってくれました。

そんなお母さんは、サザエさんと同じです。買い物に行つて、おさいふを忘れたり、ガードレールとけんかしたり、それで足をぬつたり、笑わせてくれます。そして、ぼくが、おちこんでいる時は、バカなことを言っていやな事を忘れさせてくれます。ぼくは、「お母さんなんで分かるの」と、聞いたら、「お母さんには、目が四つある。」と、言います。うそだとぼくは思います。

後、お母さんは、ぼくがやりたいと言う事をやらせてくれます。ぼくは、料理が大好きです。お母さんは、「イクメンにする。」と言つてとなりについて料理をさせてくれます。ぼくは、カレー作りとマーボーどうふ作りが大好きです。それと、夏休みの間一つまた料理をおぼえました。それは、チャーハンです。「とてもおいしい。」と言つて、たくさん食べてくれました。ぼくは、料理が大好きです。左手がつかえなくても、大人になったら困らないようにいろいろ教えてくれます。

まずは、ちゃんとあいさつする事、そして何かをしてもらっ

たら「ありがとうございます。」と言うことです。されたほうもうれしいし、ぼくもうれしいです。

ぼくの将来の夢は、「リハビリの先生になってふく話じゅつをおぼえて、つらいリハビリをしている子達が、いやがらないで楽しくしてあげる事。」それが夢です。それと、「お母さんを車にのせてあげる事」です。なぜかというと、お母さんがドライブスルーがしたいと言うからです。

ぼくは、大人になったら、車の免許をとって絶対にやらせてあげたいです。

ぼくは、お父さんがいないけど、ぼくが、お母さんを守りたいです。

町と桜と

茨城県立水戸第三高等学校 一年 本馬 ひなた

「今年は雨みたいだね。」

年老いて開花が遅れている八部咲きの桜に、大きな雨つぶが降りそそぐ。毎年開かれるさくらまつりも、これでは人が集まらないだろう。私の地元、日立では駅前の桜が、春になると溢れんばかりに咲くことで有名である。大きな通りの両脇に並ぶその大樹は、いつの時代も人々の心をいやし、そして日立の町を見守ってきた。いや、見守つて、というより「護つて」きた。

今は封鎖されてしまった日立鉾山。元は赤沢銅山という名前だった。明治三十八年末に実業家の久原房之助が赤沢銅山

を買収し、地元である日立村にちなんで日立鉦山と名付けたのが始まりである。

日立鉦山が発展するにあたり、製鉄所から出る煙による被害が拡大していった。農作物が育たなくなり、樹木は枯れ果て、人々の生活に大きな打撃を与えたのだ。そこで植えられたのが、大島桜である。度重なる実験をこえ、大正三年には約百二十万本の苗木が植林された。大煙突が使用され、煙害の状況が一変すると、自然環境回復のため、大正八年春には神峰山へ植林される。これは今日でも、神峰公園から歩いていると生き残った大島桜を見ることができる。その後、住民へ苗木の無料配布が行われ、日立の町は桜で溢れんばかりに彩られた。

大島桜がうまく育つようになると、今度はソメイヨシノを接ぎ木した。市役所の後ろには、当時日立製作所の工場長だった高尾直三郎が建てた「桜塚」があり、その頃、諏訪台などにソメイヨシノが植えられた。諏訪台は鉦山の人達によって植えられ、成長し、日立最初の桜の名所となったのだ。

神峰公園ができ、日立に桜が増えてきた頃平和通りが完成する。ちなみに、平和通りに最初に桜が植えられたのは昭和二十六年四月三日と、最近である。戦争で荒れ果てた土地の再生を目的に植えられたが、実際、土地だけでなく、人々の心も再生していったのだ。

産業革命の時代、公害はあちこちで起こった。しかしそれを取りこえたからこそ今があるのであり、日立も鉦山があったからこそ工場が発展したのである。だからこそ戦争で狙われたのもあるが：（実際に今でも、工場の地下深くには不発

弾が眠っているらしい。）

人の生活が自然を壊し、それによって人の生活が壊れ、新しい資源を求めて争いが起き更に悪化していく。まさに負の連鎖である。たしかに、人間の発展に犠牲は必要なのかもしれない。しかし、地球という全ての生物の財産を人間の都合で消費していいのだろうか。限りある資源を使っていた結果が今の資源不足であり、温暖化である。現在では科学技術が発展し、対策や少しでも食い止めようと様々な活動が行われているが、今後もどんどん資源不足や地球温暖化は深刻になっていくことだろう。そんなにさみしい世界でいいのだろうか。

十六年間桜の下で暮らしてきた私。うれしかった事も悲しかったこともあったけれど、幸せだと思う。

最近、画面の向こうの人と会話し、隣人にあいさつをしなかったり、平気で人を殺したりする話をよく聞く、同じ日本でなぜこんな事が起こるのが、不思議である。私の周りでは、失われつつある近所付き合いも活発だし、知らない人にもあいさつする。そのおかげで、震災の時も互い助け合い、乗り切ることができた。今でも、防災訓練や、小学生の登下校につきそってくれた地域の方々や、何かあった時に駆けこめる防犯の家の方々にはとても感謝している。鉦山のせいでも起こった公害、それで潤った生活、失われた自然、人々が協力して植えた桜。桜がつかないだきずなは、今もお、この日立で受け継がれ続けているのだ。私が生まれるずっと前から育くまれてきた生命の連鎖は、これからずっと先まで続いていくのだろう。

失われつつあるもの、新しく生まれたもの、ずっと続いていくもの。桜はその長い寿命の中で人々の暮らしを見守り、命を護り、人と同じように親から子へと世代をこえ、日立のシンボルとして愛されつづけ、人と自然の共存を実現してきた。桜は、産業革命の礎であり、人とのつながりの象徴なのだ。どれだけ辛い時も、桜はその美しさで私達を元気づけてくれる。日立市民として次の世代へ過去を伝え、桜の魅力を教えることが、私達の役目だと思う。美しさの裏に、何があったのか、桜が何をしてきているのか。そう考えるとまた一段と深い魅力が引き出せる。

私は、桜の元で生きてきた。これから、桜はその花卉で人々に感動を与えることだろう。



ぼくの大すきなじいじのパン

日立市立宮田小学校 三年 平 子 大 悟

ぼくには小さい時からかわらないゆめがある。それは「じいじみたいなパン屋になる」ことだ。じいじのパン屋は、ぼくの大きいおじいちゃんが始めて八十年になる、むかしからの店だ。けいさつかんだったじいじが、パン屋の一人っ子だったばあばとけっこんしてパンを作ることになったんだ。

長い間、じいじは日立市のほとんどの学校きゅう食のパンを作っていた。だから日立で育った子どもたちは、じいじのパンを食べていることになる。いつもじいじのパンを食べていたけれど、小学校に入学してから友だちときゅう食で食べたパンはともおいしかった。「大悟の家のパンはおいしいね。」とみんなに言われて、うれしくてうれしくて「そうだよ。じいじのパンは一番おいしいんだよ。」と自まんして歩きたいぐらいだった。

でも、今は、きゅう食のパンは、じいじのパンではない。去年、工場のきかいが古くなり、たくさんのパンを作るのが大へんになってしまったので、きゅう食のパンを作るのを終わりにしたんだ。もっと学校でみんなと食べたかったのにな。さびしさとくやしきでいっぱいになった。だけどじいじはもつとさびしくてくやしくてかなしかったんだろうな。

「日立の子どもたちのために。子どものせい長のために。」と、いつもじいじはがんばってきた。きゅう食を食べる子どもたちを一番に思い、毎日作ってきた。じいじはきゅう食のパンだけではなく、お店のパンを買いに来てくれるお客さんも思ってたっている。うちのパンを食べて、みんなが「おいしいね。」と言って、楽しい気持ちになってくれることをねがいながら、

大きいおじいちゃんからじいじにわたされたバトンを、今度はぼくがうけとろう。そして、食べた子どもも大人も笑顔になれるパンを作るんだ。

西茨城百km徒歩の旅にさん加して

笠間市立福田小学校 四年 柳 橋 琴 音

わたしは、「百kmも歩くってどんなかんじかな。百km完歩したら、きつととてもうれしいんじゃないかな。楽しそうだな。」と思って、西茨城百km徒歩の旅にさん加したいと思いました。家族に、「さん加していいよ。」

と言われたときはとてもうれしかったです。

最初は、「百kmも歩けるかな。体調をくずして、百km完歩できなくなったらどうしよう。友達ができるかな。」など不安がたくさんありました。実さいにさん加してみると、つらいこともありましたが、楽しかったことやうれしかったことがたくさんありました。

つらかったことは、たくさん歩いて足がいたくなったり、声を出して、のどがいたくなったりしたこと。でもそういう時にこそもつとがんばろうと思えました。

楽しかったことは、ごはんを食べているときに、友達と話したり、プールで遊んだり、レクをしたことです。知らない人となかよくなれるのも、この旅のいいところだと思います。

うれしかったことは、地いきの人から、おうえんしてもらったことです。歩くのがつらくて、くじけそうになったとき、「がんばれ、あともう少し。」

と声をかけてもらえました。そのおかげでがんばることができたのだと思います。

この五日間は、いつもの生活とはちがうふべんなこともありました。でもその中から学んだことが二つあります。一つ目は、自分でできることは、自分でやるということです。今までは、ごはんを運ぶときに、お母さんやお父さんにやってもらっていたけど、この旅では、自分でごはんを運びました。家でもずっと自分でやっていきたいです。

二つ目は、テレビやゲームがなくても楽しくすごせるということです。友達と話したりレクをしたりすれば楽しくすごせました。

この旅でわたしは、さくら川市と笠間市をたくさん歩きまわした。いつもは、車で通りすぎてしまう場所も歩いてみると、しぜんがたくさんあるということが分かりました。とくに、すきになった場所は、あたご山です。ちょう上から見たけしきは、とてもきれいでした。それに、あそぶ場所や、とまる

場所があつて、また行つてみたいと思いました。

家族と会えず、いっしょに話したり、ごはんを食べたりしない五日間は、とてもさびしく長かったです。この五日間、いっしょにいた友達やスタッフさんが家族のように思えました。百km完歩できたのは、友達やスタッフさんがやさしくしてくれた家族や地いきの人がおうえんしてくれたからだと思います。

来年は、ひたち太田やつくばの百km徒歩の旅にさん加して、ちがう地いきも歩いてみたいです。

茨城って最高だよ!?

つくばみらい市立谷和原中学校 三年 橋本 涼

私は、茨城が大好きだ。豊かな自然、地域の人々の温かさ、長く受け継がれている伝統文化、多くの新鮮な食材、住みよい環境……。こんなに恵まれた所に住むことができる私は正直、「幸せ者」だと言ってもよいだろう。

九年前、東京都からこの茨城県に引っ越してきた私だが、正直、抵抗があつた。

「この都会っ子の私が田舎に住むなんて……。」

と。「茨城」……あなたはどんなイメージを思い浮かべるだろうか。都会の近くだから都会なんじゃない?とか、ヤンキーが多いとか、方言が強いとか、様々なイメージがあると思う。その中でも私は「ド田舎」というイメージがあつた。訛りが強い〓田舎くさいという偏見的な見方をしていたので茨城に

慣れるのは大変だとも思っていた。いざ、茨城に住み始めるとまさに私のイメージ通りだ。田んぼだらけで、その頃はマンションなどの建物や施設がなく、とにかく殺風景だった。人口の差はもちろん、小学校の大きさだって違う。憂鬱な毎日が続くと思っていたが、案外そうでもなかった。友達は気さくに話かけてくれるし、近所の人の訛りも思っていたほど強くはない。むしろ話していて盛り上がるほどだった。小学校の行事として毎年行われる田植えや稲刈りがある。それも貴重な体験だったと今は思う。友達とはしゃぎながら、興奮して取り組んでいたことを思い出す。

何だかんだ、充実した小学校生活を終え、中学校へ入学した。小学校の頃は周りにほとんど田んぼがない道を徒歩で通っていたが、中学校へ行く時は下り坂から田んぼ道に出て自転車を通っていた。そこはまさに「田園風景」だった。それが、茨城が私を大好きにしてくれるきっかけとなった。

部活が始まってから一週間後、朝練が導入され、早起きが日課となった私は、気分良く朝を迎えながら自転車を走らせている。特に夏の早朝、薄明るい太陽の日差しの中、坂を下りる時に勢いに乗ってやってくる優しい風に包まれながら、きれいな空気を吸い込み、一日の気合を十分に入れることができる。坂を下って見渡せば、ほぼ全面田んぼだ。夏は田植えの時期なので、地域の方々が田植え仕事をしていた。私は「おはようございますー」と大きな声であいさつをした。すると、地域の方々もにつこり笑って「おはよう。」と返してくれた。近くにいた一人のおばあちゃんはいつも私に声をかけてくれる。「部活かい？」と。私は「そうです！」と答え、

「暑くて大変だねえ。頑張るんだよ。」とそのおばあちゃんは言ってくれる。私は「おばあちゃんも頑張ってください。」と返すと満面の笑みを見せ、再び作業に取りかかった。私は勇気をもらった。また、時々犬と散歩をしているおじさんともすれ違い、会話をする。会話が弾んで朝から楽しくなるのだ。毎朝、私はすれ違う人に挨拶をしたり、声をかけたりする。地域の方々との交流をすることで私達を支えてくれることへのありがたみや温かさが感じられる。それは滅多にできない経験でもあろう。

だから、私は茨城が大好きだ。今では人口が密集する都会より、環境が良くて空気がおいしい、私の住んでいる「田舎」いや、「誇れる田舎」の方が住みやすいし居心地も良い。「地域の人々との交流」は都会でなかなか聞くことはないし、できないものだと思う。これはお互い助け合いながら生きていく上で非常に大切なことだ。

魅力度ランキング三年連続最下位である茨城だがきつと住みよい町ということに気づくようになり、グングン伸びていくだろう。あなたが茨城県民であってなくても、「魅力がない茨城」と思う人は「力を秘める茨城」というイメージに、茨城の見方を変えてほしい。家族のように接してくれる地域の方々がいる茨城を皆はきつと大好きになるだろう。

我が家から発信！茨城県

茨城県立水戸桜ノ牧高等学校常北校 二年 藤 枝 彩 穂

茨城県と聞いてあなたは何を思い浮かべますか？ドラマ「ひよっこ」を毎朝楽しみに見ている人や、横綱稀勢の里に声援を送っている人：たくさんいますよね。もちろん、私もその一人です。そして、私の家族も。

さて、それではただいまより、魅力いっぱいのおふるさと、茨城県を我が藤枝家が案内しますので、最後までお付き合いください。

あつ、ちょうど夕食ができあがりました。今日、母が作ったみそ汁には、地元茨城で採れたにんじんとほうれん草、じゃがいも、私の通う高校がある城里町の特産品、赤いネギのレツドポアローがたくさん入っています。それから、祖母が栽培したトマトも食卓を彩ります。農業大国・茨城は新鮮で栄養豊富な野菜が安く手に入ります。私は小さいことから、これらの野菜をモリモリ食べて育ちました。旬の野菜は味が濃く、栄養価も高いので私のパワーの源です。そして、今日のメインディッシュは、茨城で最近注目のキングポーク！これがまたおいしいんです。安心して健康にいい豚肉は我が家の夕食のレギュラー選手です。

「夏休みは、どこに行きたい？」と母。

「大洗の海で泳いだ後、水族館でイルカとアザラシを見たい。」と私。

「お父さんは、みんなで筑波山に登って景色を眺めながら写

真を撮りたいなあ。」と毎年の恒例行事をやはり提案してくる父。おいしい食卓を囲むと、話がはずみます。

「じゃあ、海の日は大洗の海へ、山の日は大洗の山へ行くことにしよう。」と計画決定。笑いの絶えない夕食も終え、夜も更けて来ました。森に囲まれた我が家は、すっかり闇と静寂に包まれます。食後のフルーツ、親戚から届いた銚田のメロンに舌鼓を打っているとコツコツと窓をたたく音がします。ほんの少しカーテンをめくってみると、お客様です。それは、大きなカブトムシでした。我が家には、毎年、夏になるとこうして大勢のお客様がやってきます。幼いころからたくさんの昆虫と出会い、友情を育んできた私は、カブトムシとは大の仲良しです。「いらつしゃい。今年もよろしくね」とあいさつをします。

今日は海の日。朝ご飯は、地元野菜たっぷりのおみそ汁、炊きたてのつやつや茨城こしひかりのご飯、祖母の手作り野菜のお漬物そして、いつもの水戸納豆。これさえあれば夏バテ知らず。パワーを注入して、さあ、夏休みプランその1、大洗へ出発！まずは、大洗神社へお参りしてから、海岸へ。茨城の海は、砂浜あり、岩場あり、泳いだり、岩場で海の生物を見つけたり、遊び方もいろいろです。海を満喫したら水族館へ。その前に、海の幸たっぷりの海鮮丼でお腹を満たします。茨城は海があるから、海の幸もホントに新鮮でおいしいんです。水族館ではダイナミックなイルカや、愛嬌のあるアザラシのショーを楽しめます。海での一日を満喫し、お腹も心も満たされて我が家へと帰路につきます。

今日は山の日。今日の朝ご飯は？地元野菜たっぷりおみそ

汁、炊きたてのつやつや茨城こしひかりご飯、祖母の手作り野菜のお漬け物、そして、もちろん水戸納豆。また同じ？ですって？いつも定番のこの朝ご飯で、一日が始まるんです。さあ、夏休みプランその二、今日は父の提案した筑波山登山の日です。海の日には海へ、山の日には山へ、茨城ならではのすばらしい計画です。筑波山登山は藤枝家の毎年の恒例行事。でも、毎年、いろいろなハプニングがあつて飽きません。まずは筑波山神社にお参りをしてから登山開始。小さいころはずいぶん時間がかかつて、泣きそうになりながら登ったのですが、今は、泣きそうになる母を笑いながら励まし、頂上を目指します。ちょっと辛いくらいが、登りきったときの達成感が大きくなるんです。あと一息がんばって。その前に、途中の茶店で甘いものを食べましょう。これも筑波山登山の楽しみのひとつ。途中、弁慶七戻りや高天原、胎内くぐりなどの巨岩、奇岩を巡りながら、頂上到着。この景色、爽快感、達成感、たまりませんねえ。これだから、毎年、続けているんです。泣きそうになりながらも、下山はあつという間です。だって、下りたらお昼ご飯にありつけるのですから。もうお腹ペコペコです。筑波地鶏の親子丼、ただでさえおいしいのに、登山の後となるとこれがまた格別においしい！またもや、お腹も心も満タンで我が家に帰宅です。

さて、藤枝家から発信した「茨城県」、いかがでしたか？ほのぼのとした茨城の魅力、伝わりましたか？ナレーターとして不慣れな私のレポートでは伝えきれない茨城の魅力、是非、その目で見て、体験して、味わってください。



しょうらいのゆめ

守谷市立高野小学校 二年 松丸 美紅

「ありがとう。」

「こんにちは。」

「ベリー・グッド！」

わたしのしょうらいのゆめは、外国の人に、日本語をおしえる先生です。

わたしは、一年生から、えい語をならいはじめました。はじめは、何もわからなかったけれども、えいたん語を、おぼえて、えい語のいみがわかってくると、たのしくなりました。日本語がわからない外国の人に、日本語をしってもらえたら、きつとよろこんでくれるだろうな、と思いました。

二〇二〇年には、とうきょうオリンピックがかいさいされて、たくさん外国の人が日本にも、いばらきにもくると思っています。それまでに、日本語の先生になるのはむりだけれども、少しくらいは外国の人とお話しができるようになって、日本や、いばらきのいいところをおしえてあげられるようにしたいです。おりがみをおってプレゼントするのもいいかな、とも思っています。

テレビで、じぶんのすんでいるかん光ちにきている外国の人に、じぶんからすすんでこえをかけて、えい語でガイドし

ている小学生をみて、わたしも、あんなふうによろずにおはなしてきたらいいなと思いました。

そのためには、わたしも、もつと日本語のべんきょうをして、正しい日本語のちしきをみにつけなくてはいけないし、じょうずにせつめいできるように、もつとえい語もべんきょうしなくてはいけないと思いました。

えい語をいっしょうけんめいべんきょうして、じしんがついたら、いろいろな国へ行つて、その国の人と友だちになりたい、その国のことをしりたいです。そして、日本のことも、たくさんおしえたいです。わたしから、「ありがとう。」のこたばを、おぼえてくれる人がたくさんできるといいなと思います。

帰るところが二つあるわたし

ひたちなか市立平磯小学校 四年 軍 司 那奈葉

わたしには帰るおうちが二つあります。自分のおうちと、じいじのおうちです。この二つのおうちは歩いて一分くらいのきよりです。

じいじのおうちには、ばあばもいて、毎日わたしの帰りを待つてくれています。学校からは、じいじの家の方が近いので、まずはじいじの家に帰ります。ばあばと一緒にプリンやぎょうざをつくったり、買い物にいったりします。それから、大工さんのじいじの現場に行つて、お手伝いをします。じいじのまわりには、近所の人や、わたしの友達など、いつもた

くさんの人がいます。わたし、わたしの友達、じいじでしようをしたり、つりざおを作ったりもしています。遊んでいると、ばあばが七輪でイカをやいてくれたりします。集まっているみんなでたくさん話してわらいます。たくさんの人がわらっているのうれしくなります。だからお父さんとお母さんが仕事でいなくても全然さびしくありません。ばあばが「お父さんとお母さんは仕事頑張ってくれてるからね。おう えんしないとね。」

と言います。だからわたしは元気に遊んで心配かけないようにしています。じいじのおうちが楽しすぎて何日も泊ってしまいうちもあります。そうすると、お母さんがさびしそうにするので、その時は、自分のおうちに帰って、お母さんと一緒にご飯を作ったりします。そうすると、今度はばあばがさみしくなって迎えにきます。こんな風にみんながわたしのことを大事にしてくれるので、どちらの家においても、あたたかい気持ちになります。

いつかわたしとじいじが大きい大きいおうちを建ててみんな一緒にくらすのもいいなと思います。お友達も近所の人もみんなが泊れるおうちです。そうすればさびしくなる人はいないし、誰かが待っていてくれるのは、誰もうれしいと思います。わたしが大人になれば、今度はわたしがみんなを待っていることもできます。

今は二つのおうちが、いつか一つの大きい大きいおうちになるといいな。

祖父のためにも

土浦市立土浦第二中学校 三年 米 川 つかさ

私は目の見えない祖父と一緒に暮らしています。私の祖父は障がい者です。障がい者という言葉聞いて、どんなことを思い浮かべるでしょうか。「生活が大変だ」とか、「かわいそう」だとかでしょうか。

私は祖父のことをそうは思いません。なぜなら、祖父は朝起きてから夜寝るまで、すべて何でも一人でこなしてしまからです。私たち家族が助けることはほとんどありません。また、六十九歳ですが、仕事もしています。祖父ははり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師の資格を持ち、自営業として働いています。きちんと手で確かめ、治療をしていきます。祖父の治療を受けた人は笑顔で帰っていくのが、私はとても誇らしいです。

仕事がない時はパソコンの読み上げる機能を使って、毎日野球中継や本の朗読を聞いています。私たちにとって本は読むものですが目の不自由な祖父にとっては聞くものなのです。祖父は野球中継も本もととても楽しみにしています。祖父の応援しているチームが点を入れれば声を上げて喜びます。

そして、祖父に届く手紙はすべて点字です。祖父は点字を読むことも、点字を打つこともできます。手紙の返事は点字で書いています。点字を使える祖父を私はすごいと思います。祖父は点字を読むときも書くときも、スラスラとこなします。スラスラとできるようになるまで、どれほどの努力をしたの

でしょう。

そんな何でも一人でできる祖父ですが、出かけるときは、私の肩に手を置いて一緒に歩きます。祖父は私たち家族との外出を楽しみにしています。外出をした時、私の不注意で一度だけ、祖父にケガを負わせてしまったことがあります。それは家族で久しぶりに夕食に行った時におこったのです。ちよつとした段階だったので私は気にとめずにそのまま歩き、祖父はその段差につまずいて転んでしまったのです。転んだと言っても、よろけるくらいで「大丈夫だよ。」と祖父も言っていたので、気にもせず楽しんでご飯を食べて帰りました。ケガに気づいたのは帰ってすぐのことでした。祖父の足に血が流れていることに母が気づいたのです。祖父は久しぶりの夕食だからと我慢してくれていたのです。母は私を叱りました。私は何度も謝って、何度も後悔しました。

普段私たちと同じように日常生活を送っている祖父だったので、障がいがあっても大丈夫だとどこか思っている私がいいたのです。しかし、私たちが視覚によって気づける危険が祖父には分からないのだと思い知らされる出来事でした。まだ幼かった私に身体を預けるのはどれほど怖かったことでしょう。あの時以来、祖父と出かける時は、足元に転んでしまうようなものやぶつかってしまうものはないか、できる限りの注意をするようになりました。祖父は時々「つかさがいるから安心だ。」と言ってくれます。出かける時は、私が祖父の目にならなくてはならないと思っています。

目に見えない祖父ですが、これからもたくさん場所へ一緒に行きたいと思います。私の気持ちをちゃんと言葉でたく

さん伝えたいです。周りにもし、目の不自由な人がいたらたくさん話しかけてください。普段なら、顔の表情で、素振りで、雰囲気で伝わるものが伝わりません。声にだすことが大事だと思っています。

将来の夢

茨城県立常陸太田特別支援学校 高等部一年 生天目 真弓

私の夢は、保育士になって保育園で働く事です。保育士になろうと思った理由は、小学生の頃からで、自分が幼稚園に通ってた時に担任の先生が優しくしてくれ、いつも笑顔で信頼されてると感じ、そのような先生にあこがれていたからです。また、その先生はプールで水遊びや水でつぼうなどのおもちゃで遊んでくれたり、本の読み聞かせでは絵本を何冊も読んでくれたり、一人でつみきで遊んでいたら先生と一緒につみきで遊んでくれたり工作のねんどでは、いろんな動物や建物を作るのを手伝ってくれたのが凄くうれしかったです。運動会では、リレーで一番うしろを走っていても応援してくれました。一番最後にゴールして泣いているとその先生がはげましてくれたのがとてもうれしかったです。またその先生は、私がうんていで遊んでいた所、怖くておりれなかった時に助けてくれたり、整列する所の場所がわからなくて困っている時に教えてくれたり、一人で遊んでいた時や自分が困っている時に声をかけてくれました。友達とけんかをしてしまった時にその先生は相談に乗ってくれました。優しい先生でし

たが、昼ご飯の時に嫌いな食べ物があつて、それを食べないでぐねていたら怒られたり、音楽の時に勝手に、けんばんハーモニカを吹いた時には注意されたり、友達とふざけて遊んでいたら、先生に怒られたりすることもありました。私が理想としている先生は、小さい子が困っていたり、一人で遊んで、なかなか周りになじめてなかったり他の子と仲良くできていない子がいたら、優しく声をかけてゆつくりとその子話を聞いてあげられる先生になりたいです。また、いつも小さい子が保育園の生活をどう過ごせるかを考えて、それをしっかりと実行し、いつも小さい子の気持ちなどを考え、何かあった場合はどうするかを考えながら行動し、小さい子の味方でもできる先生になりたいです。そして小さい子がけんかや物の取り合いや危ない事をしている子がいたら、その危ないこと等をやつてもいいかどうかを教えて、だめなもののはだめとちゃんと教えてあげられる先生になりたいです。

私は小さい子のかわいいと思った所が七個あります。一つ目は、小さい子のまなざしです。工作を作っている時や小さい子がおもちゃで遊んでいる時や、プールなどで遊んでいる時などの小さい子のまなざしがかわいいと思いました。二つ目は、小さい子の笑顔です。小さい子がかかできた時の笑顔がかわいいと思いました。三つ目は、夢中で遊んでいる姿です。小さい子がつみきやパズルなどのおもちゃなどで遊んでいる姿がかわいいと感じました。四つ目は、小さい子がはしゃいでいる姿です。プールに行った時に、水遊びで、元気に遊んでいる姿がかわいいと感じました。五つ目は、ねがおです。小さい子が遊んでいて遊び疲れて寝ている姿がかわいいと思

いました。六つ目は、けなげな姿です。小さい手から物をもらったり、小さい子同士で折り紙交換や自分のやって欲しいことを泣いて表現したり、小さい子が他の子のことを助けている姿がけなげだと思いました。七つ目は言葉を伝えようとしている姿です。小さい子が家であったことを覚えての言葉で一生懸命伝える姿も、けなげだと感じました。私は、保育士になるために三つ頑張りたい事があります。一つ目は、勉強です。勉強では今やっている国語や数学などの学習をして、その覚えた学習は家庭学習として家などでやり、また次の学習がどう進むのかをはあくしそれを学習として学習を頑張りたいです。二つ目は、運動です。毎日、学校の授業で体を動かし、保育士になった時に小さいこと鬼ごっこやリレーなどをして遊びたいです。また体育の時、体力をどのように高めていくかを考えて動けるようになります。三つ目はピアノです。ピアノでは今、弾ける曲は何曲かはありますが、その他の曲にもチャレンジし、練習したいと思います。保育士になるまでの間に一生懸命小さい子が聴くような曲を練習していきたいです。

私の町のおせんべい屋さん

つくば市立島名小学校 三年 岩 田 明香里

わたしの町に小さなおせんべい屋さんがありました。自まんの
おせんべいと、おいしいお茶をいれて、おもてなしをしてく
れる。

はじめておせんべい屋さんに行ったのは、七月のあつい日
だった。お母さんのとなりでおせんべいを見ているわたしと
妹に「どうぞ」と本物の緑茶をいれて、せきによんでくれた。
大人のお茶より、少しうすめにいられ、のみやすい温度に
さましてあり、のんだしゅん間、体中にパツと力がわくよう
だった。おいしかった。のみ終えんと、おかわりとも言つて
いないのに、すぐにもう一ぱいいれてくれた。わたしは、と
てもうれしかった。

このおせんべい屋さんは、となり町の常総市から、引っこ
して来たと聞き、近くなのになぜだろうと思っていた。後か
ら近所の人に二年前の水害で工場が使えなくなったようだ
と聞いた。きぬ川がけっかいして、町が一時てきに川にうもれ
てしまったあの災害だ。

去年、常総の花火大会に行った時、お父さんが「ここは水
にうもれたんだぞ。」と言っていたことを思い出した。その
時は、今、水がないのだから、全くしんじられなかった。

災害は毎日あちこちでおこってしまう。さい近の大きなも
のでは九州地方の地しんや土しゃくずれなどだ。旅行先の四
国では台風ひ害のことをきいた。数えればきりが無い。でも
一番ひどい時がすぎると、人はだんだん災害の事をわすれて
いってしまう。

わたしは、おいしいお茶で気づいたやさしい心と、常総市
の水害をちゃんとおぼえていようと思う。ひどい災害にあつ
たのに、人に親切にできる茨城の人達がわたしは大好きだ。
遠い地方にもこのおせんべい屋さんのようにがんばっている
人がたくさんいるのだと思う。わたしは、見た目にきれいな
ものだけでなく、目に見えない気持ちも分かりたいと思う。

茨城ってすごい

ひたちなか市立田彦小学校 五年 中 村 月 花

シルクスイートと紅はるか。私が好きな品種です。毎年一
月になると、ひたちなか市にある、直売所に干しいもを買い
に行きます。京都の祖父母に送るため、たくさんある品種の
中から、シルクスイートと紅はるかを選んで送っています。
毎年干しいもを送っているので、毎年送る少し前は、すごく
楽しみにしているそうです。私たちが選んで送る干しいもの
味は、京都で買う干しいものとは全然ちがうそうです。祖父
母が「とても美味しい。」と話していました。この間、実際に、
いも掘りを水戸市の植物園でしました。家族といっしょに笑
いながらできた事がよかったです。

春には、銚田市でいちご狩りをしました。とても甘いいちごで一粒一粒が大きくて美味しかったです。畑に移動するバスの中で、だれが一番多く食べれるか競争しようね。」と話しをしていたのですが、食べ始めたら指先を真っ赤にして夢中になって食べていたので、何個食べたか忘れてしまいました。来た時は忘れずに数えようと笑いながら話していました。

秋には、かすみがうら市で梨狩りをしました。いつもはお母さんが八等分に切って食べているのですが、私と妹が待ちきれずに皮だけをむいてもらい初めて丸かじりにして顔いっぱいに梨を感じて食べられました。

私の二十歳の誕生日、私が何をしているのかはわかりませんが一つ予約が入っています。それは、お父さんのお気に入り的那珂市の地酒をお父さんと二人で飲む事です。それは私の小さな夢です。ちなみに、お父さんにとっては大きな夢だそうです。

遠くに住んでいる祖父母を喜ばせたり、家族の思い出の舞台や中心になってくれたり、私の将来の楽しみを作ってくれたり、私の家族の生活は、茨城県にいつも包まれているなと思います。茨城県は、器が大きいなと思います。

これから暮らしていくこの地域で、今度は私に何ができるかを考えていきたいです。

実はすごい茨城県

茨城県立並木中等教育学校 二年 寺田美郷

茨城県の人口は約二百九十万人で全国の都道府県の中で十一番目である。意外に茨城県民は多い。ちなみに茨城県の県民一人当たりの所得は四位で工業出荷額は八位である。これらには本当に驚いた。一方、都道府県魅力度ランキングは、四年連続最下位の四十七位である。これは有名な話だ。また、同じ研究所が行った郷土愛ランキングにおいて愛着度自慢度ともに四十位代後半とかなり低い。これらを見ると茨城県の魅力度が低いのは、そもそも県民が茨城県を愛せていないからだと考えられる。なぜ、茨城県民は茨城県を愛せていないのだろうか。

皆さんの家族は、出身県を誇りに思っているだろうか。私の両親は、どちらも兵庫県出身で兵庫県を誇りに思っている。親戚もみんな兵庫県民で兵庫県を誇りとしている。兵庫県の魅力度ランキングは十六位で、愛着度が十五位、自慢度が十一位とすべて十位代だ。両親や親戚に兵庫県の何が誇りなのかを尋ねると「姫路城」「会話のボケとツツコミが面白い」など多くの答えが返ってきた。同様に私が茨城県の誇りに思うことを様々なランキングを踏まえて考えてみた。

茨城県民の運動能力について、昨年、茨城県の中学二年生の体力テストは、女子が二位で男子是一位であった。同様に小学五年生の結果も非常に好成績である。運動能力が高いのは、健康的に長生きすることにも繋がると思うので、とても

良いことだと思う。茨城県から稀勢の里や高安のように一流のスポーツ選手が生まれて活躍すれば、県に活気が出てイメージがアップすると思う。

次に茨城県の食は文句の着けようがない。農業産出額は二位で農業が盛んだ。茨城県には確かに田舎が多いが、田舎だから新鮮な野菜や米があるのだ。また、食べ物で多いのは農作物だけではない。茨城県は漁業も盛んである。海面漁業漁獲量は三位、内水面漁獲量は四位である。私たち茨城県民は海、川、湖とあらゆる魚介類をたくさん食べているのだ。茨城県は食えることが好きな人にはたまらない場所である。

私は、小さな頃からいつも体を動かしていた。友達もみんな運動場や家の近くの広場で元気に遊んでいた。自然いっぱいこの土地でみんなと遊び、運動をすることは今も楽しい。また、食えることも大好きだ。自宅や地元で採れた野菜や米、近所の人が海や霞ヶ浦で捕ってきた魚介類等、嫌いなものは何一つない。学校の給食の時間は、一日のうちで最も楽しみな時間の一つだ。運動と食えることが大好きな私にとってはとても魅力的で、愛着があり、自慢できるのが茨城県だ。

この私の感覚と茨城県の魅力度ランキングには大きなギャップがある。これは、県民がその良さに気づいていないからだ。茨城県には東京のような大都市はないが、数万人から三十万人弱の都市が多数点在していて、大企業の工場も多く、働く場所や生活には困らない。また、北海道のような雄大さはないが、北部の山々と中部から南部の広い平野、利根川、久慈川、那珂川等の河川、霞ヶ浦、北浦、涸沼等の湖沼、

東部に広がる広い海と自然がいっぱいである。つまり、人々が一つの町に偏らず、様々な場所で、様々な自然と共存しながら暮らしているのである。このように工業、農業、漁業等が高いレベルでそろっている恵まれた県だということを、県民が認識し自信を持たなければならぬ。

茨城県には、今回挙げた以外にも多くの誇るべき所がある。茨城県を知ることが、茨城県を愛することに繋がる。私は茨城県民に、もっとたくさん県の魅力を知ってほしい。そして、県外に出た時に茨城県の魅力を話してほしい。その結果、県民が誇りを持ち、他県の人から人気を集め、多くの人が遊びに来てくれるような県になると思う。

最下位脱出作戦

茨城県立水戸第三高等学校 二年 玉 渕 南 実

メディアなどで取り上げられているのでご存知の方も多いだろう。茨城県は四十七都道府県別魅力度ランキングで三年連続最下位である。それは交通が不便であったり地形の問題だったり、原因は様々だ。近頃は「のびしろ日本一」などと自虐的なスローガンを立てて最下位であることが当然であるかのようなPRをしている。しかし私のふるさと茨城は、魅力がたくさんつまった素晴らしい場所であるはずだ。最下位に甘んじている状況に私は情けない気持ちになる。

そこで私は、茨城の魅力を最大限にアピールできる策を練った。魅力度ランキング最下位を脱出し、四十位いや三十

位、いやいやトップ十を狙おうと本気で思っている。以下三つに絞り、「私の最下位脱出作戦」を紹介する。

まず作戦その壺「グレートヤングフェスin茨城。」

私はこの夏、国営ひたち海浜公園で行われたロック・イン・ジャパン・フェスティバル2017に参加した。四日間、開催されたこのフェスには約二十七万人もの人が集まったそうだ。会場には熱気が溢れ、音楽が持つ集客力に私は驚きと感動を覚えた。

そこでこのような大規模なイベントを通して、音楽の他にも食べ物やスポーツなどのフェスを県内様々な地域で同時開催することによって、茨城に興味を持つ人が増えるのではないかと考える。

例えば、食べ物のフェスを水戸やつくばで開催し、茨城県の名産品である納豆や常陸牛、メロンや秋そばなどをおいしく調理し秋フェスのような形で販売すれば、茨城の「うまいもんどころ」についてさらに知ってもらえる。スポーツのフェスなら、大規模な会場を借り、バスケットボールやバドミントン、テニスやサッカー、相撲やゴルフなど、様々な競技を楽しむことができるイベントを開催することで、県外からもたくさんの方が茨城に来るだろう。アントラーズやホーリーホック、ロボッツなどの選手や稀勢の里や高安、畑岡奈紗選手を招待し、地域の人と一緒にスポーツで汗を流すことができたら最高の思い出になる。

その式「歴史大型テーマパーク UHI（ユニバーサル・ヒストリー・イバラキ）の開園。」

次に私が考えるものが、大型のテーマパークだ。東京ディ

ズニーランドやディズニーシー、大阪にあるユニバーサルスタジオジャパンのような大型のテーマパークをつくることで、そこに興味を持ったたくさんの人々が茨城を訪れるだろう。特にテーマを歴史に絞り、茨城や日本の歴史を発信するものにしたい。平将門や徳川斉昭、徳川光圀や藤田東湖など茨城にゆかりのある偉大な歴史上の人物も多い。VR体験で水戸黄門と諸国漫遊の旅に出かけたり、水戸の浪士とともに桜田門外の変を体験できるアトラクションは人気がでると思う。三百六十度スクリーンで体感できる間宮林蔵と海峡発見のアトラクションはスリル満点だ。老若男女が楽しめるテーマパークを目指したい。

もちろん、このテーマパークまでのアクセスは整備しなければならぬ。TX（つくばエクスプレス）を茨城空港やテーマパークまで延長するのはどうだろうか。高速道路の整備もあわせて考えたい。

その参「目指せ 世界文化遺産『アート茨城』の登録。」

私は昨秋、KENPOKUアート2016「茨城県北芸術祭」に行き、大きな感動を味わった。会場を数ヶ所めぐり、本物の芸術に触れた。特に、旧上岡小学校に展示してあった田中信太郎作の「沈黙の教会、あるいは沈黙の境界」には感じるものがあつた。古い教室の床一面に張られた漆黒の墨汁。沈黙の黒い世界に吸い込まれそうになり、飲み込まれるかと思った。アートの力に打ちのめされた感覚だった。このアートの力を茨城から日本中へ、そして世界へもつとアピールしたいと考えている。茨城は、横山大観や岡倉天心、板谷波山や中村彝など近代日本芸術の至宝を多く輩出して

る。若い芸術家たちも多く育っている。茨城県全域をアートで盛り上げ発信し、世界文化遺産「アート茨城」の登録を目指す。登録されれば日本中、世界中から芸術に興味のある人が茨城を訪れるだろう。パリやミラノと肩を並べる日は近いかもしれない。

これまで茨城県最下位脱出のための作戦を書いてきたが、それくらい私は茨城が大好きである。茨城県は魅力が詰まった宝箱なのだが、それを様々な人に伝えきれてないと思う。この大好きな場所が誰かの大好きな場所になることを願って、魅力を発信し続けていくことがこれからの課題である。



ことばっていろいろあるんだな

阿見町立実穀小学校 一年 中 島 悠 斗

ぼくは、おかあさんとすんでいます。となりには、おじいちゃんとおばあちゃんのいえがあります。みんないばらきけんでうまれてずっといばらきけんにすんでいます。ぼくのおかあさんは、よく「そうだべ」といいます。おじいちゃんとおばあちゃんは「そうだつべよ」「つつうべよ」とかいいます。とうきようではたらいっている。おかあさんのおとうとも、とうきようからかえつてくると「んだ」「んだよ」といいます。とうきようでは、いわないそうです。もつとすごいとおもったのは、ひいおばあちゃんです。かみなりのことを「らいさま」といつていて、ぼくは、なんていつていいのかわかりませんでした。

ぼくのかぞくがはなしていることばは、いばらきべんというそうです。むかしのひとはもつとたくさんのしゅるいのいばらきべんをつかつていて、ぼくがタイムスリップして、むかしにいったら、そのひとたちとは、はなしがつうじないだろうなとおもいます。ぼくのいつていることも、むかしのひとはわからないかもしれません。ぼくのつかっていることばにもほんごで、いばらきべんにもほんごで、たくさんのことばがつかわれていて、まだ知らないことばがたくさんある

んだろうとおもいます。

いばらきべんもむかしからのでんとうなので、なくなっただけかなしいです。ぼくも、だいすきなかぞくがつかっていることばを、すこしおぼえてみたいとおもいました。ぼくが、おとなになるころには、いばらきべんをつかつてはなしているかな。それともつかわないではなしているのかな。おとなになるのがたのしみです。

わたしのおとうとへ

筑西市立長讀小学校 一年 渡 辺 優 月

きようは、てんごくにいるわたしのおとうと、はるきくんにおてがみをかきます。

はるきくん、げんきですか。おおきくなりましたか。おともだちはできましたか。

はるきくんは、いま二さいになるわたしのおとうとです。でも、うまれてすぐに、てんごくへいつてしまいました。おとうさんも、おかあさんも、おじいちゃんも、おばあちゃんも、みんなないていました。おかあさんはまいにち、まいにち、「はるきくん、ごめんね。」

となみだでみずたまりがでるぐらい、ないていました。わたしもかなしくて、むねもぎゅうつとくるしかったけど、がまんしました。だってわたしまでないていたら、おかあさん

はもつとかなしくなるとおもったから。「おかあさんがないてばかりいたら、はるきくんだってない

「ちやうよ。はるきくんにおこられるよ。」

つておかあさんにいったら、そのひからなみだがとまりました。いっぱいいたから、なみだがなくなっちゃったんだって。

おかあさんに、えがおがもどつてきました。やつぱりわらっているおかあさんがいちばんです。わたしは、おかあさんのえがおがだいすきです。きつとはるきくんもよろこんでいるよね。

はるきくんはいつも、そのうえからわたしたちをみています。いちばんぴかぴかひかっているほしが、はるきくんのほしだとかあさんがおしえてくれました。

はるきくん、わたしたちかぞくがいつもげんきでわらっていられるように、みていてね。わたしたちも、ずっとはるきくんのことをわすれないよ。おかあさん、はるきくんをうんでくれてありがとう。はるきくんもママがおかあさんでよかったね。またおてがみかきます。

おねえちゃんのゆづきより

わたしのかぞく

阿見町立阿見第一小学校 一年 宮 原 優 菜

わたしには、たいせつなおとうとがひとりいます。きよねんの十一月にうまれました。

わたしは、ずっときょうだいがほしかったのでいつもかみさまにおねがいをしていました。あるひ、おかあさんが、

「ゆなにたいせつなおはなしがあります。ゆなにおとうとかいもうとができたよ。ママはこれからいっしょうけんめいおなかのなかで大きくなるようにがんばるからきょうりよくしてね。」

とおはなしをしました。わたしはそのひからおかあさんのにもつをもったり、おなかがおおきくなったおかあさんのためにできることをてつだったりしながらおねえちゃんになると、やつと、おねえちゃんになれるとおもうとうれしくて、かみさまはほんとうにいるんだなとおもいました。

そんなおとうとも、ぶじにうまれてくれていまではハイハイや、いたずらばかりして、とってもげんきです。

おねえちゃんになってまだ九かげつしかたっていないけど、おねえちゃんはとつてもたいへんです。がまんしなきゃいけないことがたくさんあります。たまにいやだなあとおもうこともあるけれど、わたしはかみさまからおとうとをさずかりました。ずっとほしかった、たったひとりのおとうと、かわいいおとうと、だいすきなおとうとなので、これからずっとおねえちゃんをやつていききたいとおもいます。

そして、もうすこしおとうとがおおきくなったら、いっしょにいろんなことをしてあそんだり、いろんなことをおしえてあげたいです。

そのために、わたしは、がっこうでたくさんのかみさまのきょうして、おとうとにおしえてあげられるようになりたいです。

大すきな八千代

八千代町立中結城小学校 二年 中山 さくら

わたしは、八千代町にすんでいます。八千代町には、おいしいやさいやくだものがたくさんあり、しぜんもいっぱいです。まわりの人は、みんなやさしくあたたかいです。これから、そんな八千代町のよいところをしようかいます。

八千代町には、たくさんのおさいばかりがあります。ふゆになると一れつに白さいがならんでいるすがたがとてもきれいです。わたしは、白さいをなべに入れたり、つけものにしてたりしてたべるのが好きです。白さいのあつみがあってみずみずしくておいしいです。ようちえん生のときには、みんなですつまいもほりやともろこしがりに行きました。のうかの人が、やさしくほり方やとり方をおしえてくれました。さつまいもは、あまくてほくほくしていました。ともろこしは、あざやかな黄色でシャキシャキしていました。町のたべものは、わたしのじまんです。

八千代町の人びとは、こまったときには、たすけてくれます。わたしが足をけがしたときに、たくさんの人がこえをかけてくれました。そのときにわたしは、ほっとしました。きんじょの人がスイカやメロンをもつて来てくれたこともありま。そのときはきんじょの人がわたしたち家ぞくのことを思いやってくれていることがわかります。町たんけんに行ったときには、友だちのお母さんがいっしょについてきてくれて、あん心してしらべることができました。図書かんでは、

ボランティアの人が読み聞かせをしてくれました。お話のないうがよくわかりました。このように、わたしは、たくさんの人びとにささえられてすごしています。

八千代町で、まい日おいしいものをたべ、あたたかい人びとにかこまれて生きています。わたしは、とてもしあわせだと思ひます。わたしは、ふるさとの八千代町が大すきです。

大すきなおじいちゃん

東海村立中丸小学校 二年 打越 隼 翔

ぼくのおじいちゃんは、とってもやさしい人です。いつでもぼくのみかたで、わがままもニコニコとわらってきいてくれました。

だじやれをつくるのが大すきで、絵をかくのが上手で、うどんやそばもいつもつくってくれて、ぼくのじまんのおじいちゃんです。

二月九日、あさから雪がたくさんふっていました。ぼくは、かえってきたら雪であそぼうとたのしみにしていました。かえるといつもいるはずのおばあちゃんがいまませんでした。どうしたのかなと一人っていると、おばあちゃんからでんわがありました。

「おじいちゃんがしんじやったよ。」

と言われま。雪でタイヤがスリップしてこうつうじこでなくなつたそうです。ぼくはなきながら、おばあちゃんの話を書きました。そのうちにしんせきの人がたくさん家にやつ

てきました。でも、おばあちゃんもおとうさんもおかあさん
もなかなかえってきませんでした。ぼくはとてもこころほ
そかったです。

やっとおかあさんがびょういんからかえってきて、

「今からおじいちゃんがえってくるから、下においで。」
と言いました。ぼくは「おじいちゃん、やっぱり生きてるん
だ」とよろこんで下にいきました。でも、かえってきたおじ
いちゃんは、タンカにのせられ、つめたくなつて、もううご
きませんでした。ぼくはびつくりして、かなしくて、大ごえ
でなきました。なみだがとまりませんでした。きのうまで元
気だったおじいちゃんが、もううごかないなんてしんじられ
ませんでした。あんなにやさしくて、いつもわらっていたお
じいちゃんはもうかえってきません。おじいちゃんはいない
けど、ぼくのこころにはニコニコがおのおじいちゃんがいっ
でもいます。天ごくからきつとぼくのことをみていてくれて
いるとしんじています。

大好きな ふうちちゃん

鹿嶋市立中野東小学校 三年 小澤 心 香

わたしのひいおばあちゃんは、七十九さい。「ふうちちゃん」
とよんでいます。

ママの実家に遊びに行くと、一番さいしょにふうちちゃんのお部屋に走って行きます。ドアを開けると、「よく来たねえ！」
と言ってやさしいえがおでむかえてくれます。そう言われる

と、心がほつとして、うれしくなります。

ふうちちゃんのすごいところは、何でも手作りするところ
です。おさいほうできんちゃくを作ったり、ゆかなをぬつてく
れたり、おみそもおつけものもお米も全部手作りです。たく
さん手作りをしてくれる中で、私はふうちちゃんを作る、かき
もちが大好きです。しょうゆ味とさとう味があります。どち
らもおいしいけれど、しょうゆ味が一番です。世界一おいし
いと思っています。どうして、おいしく作れるのか聞いてみ
たら、小さいころにお母さんが作ってくれていたのを見て、
作り方をおぼえたそうです。

「今は、おいしいおかしがたくさん売っているけれど、む
かしはなかったから、おやつも手作りだったんだよ。」と言っ
て、私のために作ってくれています。ポテトチップやクッキー
も好きだし、おいしいけれど、やっぱりふうちちゃんのかきも
ちが、一番食べなくなるし、さい高のおやつです。

私とふうちちゃんは、学校のことや習い事のことなど、いろ
んな話をします。そういう時は友だちみたいで楽しくなりま
す。そして、べん強になることは、せんそうの話です。アメ
リカのひ行きが家のうら山にばくだんを落として行ったこと
や、お父さんがせんそうへ行つて、ビルマでたたかかって帰っ
てきたことも教えてくれました。

ふうちちゃんといっしょにすごす時間はとても大切です。た
くさん長生きして、いつまでも仲良くしようね。

お母さんのきゅう食

桜川市立樺穂小学校 三年 入 江 悠 介

ぼくは、たまごアレルギーです。たまごを使ったりよう理やおやつが食べられなくて、いつもかなしくなります。

今年の夏休みに、たまごを食べるけんさをしました。少しだけらん白をたべると、じんましんと鼻水とくしゃみが出て、やっぱりだめでした。ぼくはがっかりしました。それにアレルギーだと、お母さんがりよう理をするのに大へんなのを知っています。ぼくは

「アレルギーでこまらせてごめんね。」

とお母さんにいました。すると

「こまっていないよ。ぎゃくにアレルギーやけんこうのことがべん強になるよ。食生活をみなおすこともできた。ありがとう。」

といてくれました。おれいを言われたぼくは、あたたかい気持ちになりました。

遠足の時も、うれしいことがありました。

「ゆうすけくん、これなら食べられるよね。」

と、友だちがおせんべいをくれました。ぼくは、はじめておやつのかんができました。友だちのくれたおせんべいは、すごくおいしかったです。

ぼくのまわりには、アレルギーのことを分かってくれる人がふえています。みんながぼくのアレルギーを分かってくれたように、ぼくもみんなのことを知って、もつとなかよくな

りたいです。みんながやさしくしてくれた分、ぼくもみんなにやさしくしたいです。

ぼくは、これからお母さんのつくったきゅう食を食べていきます。ぼくのお母さんは小学校のほけん室の先生でとてもいそがしくて帰りがおそかったり、しゅう学旅行や宿はく学習にとまりがけで行くこともあります。そんな時は、前の日の夜中までかかってぼくのきゅう食を作ってくれています。お母さんの作ったものは、全部おいしいし、みんなのきゅう食とほとんど同じです。いつものこさず食べます。お母さん、本当にありがとう。

うけついできたもの

筑西市立長讀小学校 三年 武 井 晏 慈

トントん、ギギーン、ガチャンガチャン。学校から帰ると、庭ではいつもにぎやかな音がして、ぼくを元気にむかえてくれます。おじいちゃんとおばあちゃんの家を、リフォームしている音です。大きなトラックやショベルカーが家をこわした時は、とてもびっくりしたけれど、おし事する人がたくさん来て家を直していくのを見ると、何だかわくわくしてきました。この家は、今より長生きするんだなあと思ったからです。

おじいちゃんとおばあちゃんは、ずっとこの家に住んでいます。ぼくが生まれた時にはひいおじいちゃんもいて、みんながここであらしてきました。おじいちゃんは、毎日畑の手

入れをして、ぼくたちが食べる野さいを育てています。おばあちゃんは、毎日家をきれいにして、みんなが気持ちよくすごせるようにしています。二人とも、この家でのくらしを大切にしているんだなあということが、よくつたわってきます。

ぼくの家からは、大きな目じるしが見えます。つくば山です。自分のすぐ近くにあるような気がして心強いです。つくば山は、すごいなあと思うところがあります。それはずっとそこにある、ということです。時だいやまわりがかわっても、だれよりも長生きです。もしかしたら、今はないひいおじいちゃんや、もっと前の家ぞくのこと、ずっと見まもっていてくれたのかな。そう思うと、この山のあるけしきはほかにはない自慢です。

家も、山やしぜんがあるこのけしきも、みんなが同じ気持ちにならないと長生きできないのかもしれない。それはずっとあるものを、大切にうけついでいこうとする気持ちです。夏休みが終わるころには、にぎやかな音もなくなります。おじいちゃんとおばあちゃんがうけついできた家がどうかかわるのか、ここでくらす一いんとして、ぼくも楽しみます。

おばあちゃんの結城つむぎ

結城市立結城西小学校 三年 登坂 太晴

一さつのスケッチブックをぼくに見せながら、お母さんが話し始めました。

「これは、なくなったおばあちゃんがおった結城つむぎの切れはしをあつめたものだよ。」

「結城つむぎ？それって何？」

お母さんは、結城つむぎが古くからつたわるおりもので、糸をとるのからたん物にするまで、全部手作ぎようで作ることを教えてくれました。だから、そのぎじゅつは、日本でもせかいでも大切にしていこうとされているのだそうです。そんなすごい物をおばあちゃんがおっていたなんて、びっくりしました。

お母さんは、毎日、はたおりの音を聞いて育ったそうです。細いよこ糸が、たて糸の間をくぐってつむぎがおりあがるようすをなつかしそうに話してくれました。

「こんな風におれるようになるのには、時間がかかるんだよ。一たんのつむぎをおりあげるのに一か月ぐらいかかるんだよ。」

と、おばあちゃんは言っていたそうです。

ぼくは、おばあちゃんがおったつむぎをもう一度見てみました。とても細かいもようがたくさんなっています。細かいもようを合わせながらおるのは、本当にたいへんだっただろうなと思いました。

おばあちゃんがおったつむぎで作ったき物も見せてもらいました。さわってみると、見た目よりもずっと軽くて、なんだかあたたかい気がしました。お母さんに言うと、

「結城つむぎのよいところがよく分かったね。だから大切にきてもらえんだよ。」

と、うれしそうにわらいました。

今もおばあちゃんがおったつむぎをきている人はいるかな。その人も、結城つむぎのよさを感じてくれてるのかな。ずっと大切にきてくれてるといいなと思いました。おばあちゃんのつむぎを見ていて、何だか心もあたたかくなりました。

夢は日本一の「農ガール！」

美浦村立大谷小学校 三年 椎 名 実 花

「米と野菜はいくらでもあつからいっぱい食べろよ」そう言っておじいちゃんとおばあちゃんはいつもお米と野菜をたくさんくれます。

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは農ぎょうをしています。おいしいお米やおいしい野菜をたくさんつくっています。お米や、キュウリ、ナスやさつまいも、はくさいなどいろいろなしゅるいの野菜を育てていて毎日市場やみほ村の直売所に出荷しています。また、私たちが学校で毎日食べているきゅう食にもおじいちゃんとおばあちゃんが作った野菜が材料として使われています。生産者で、おじいちゃんとおばあ

ちゃんの名前がほうそうでアナウンスされている時は自然といつもうれしくなります。いつもあせをたくさんかきながら農ぎょうをしているのを見ると私も早く大人になって、お米や野菜のなえを植えたり、重いものを運んだり手つだいたいなあと思います。

去年の秋におばあちゃんが農作ぎょう中にころんでうでをこっせつしてしまい入院をしました。お見まいにいくと、おばあちゃんはこっせつで体がいたいのも、お米や野菜の心ばいをしていました。毎日あせをかきながら、田んぼの水をかん理したり、野菜に水をやったり、ハウスのおん度のかん理をしたり、おいしく育つようにお世話をしていると、自分の子どものようにかわいく感じるんだらうなあと思います。

わたしも大きくなったら農ぎょうの大学に行つて、お米や野菜にかんするいろいろなけんきゅうをして、いばらっけんのみんながおいしいお米や野菜をたくさん作つて、日本一の農ぎょうのけんになれるようべん強したいです。もちろん、おじいちゃんやおばあちゃんの手つだいもして日本一おいしい野菜を作るのも手つだえらうなあと思います。

これまでの「わたし」をふり返って

ひたちなか市立長堀小学校 四年 福澤 柚 乃

わたしは、十一月二十九日、四時四十四分三千二百十グラムで生まれました。生まれた時は、声も大きく、体も丸々としていたので

「この子は、とても大きくなるよ」と助産婦さんが言っていたそうです。

しかし、あまりミルクも飲まず、りにゆう食も食べず、体も小さくやせていました。夜中も夜泣きがひどくて大変だったそうです。いつもカゼをひき、病院へ月に何度も行っていたので、母はとても心配していました。

わたしは、三才になってもあまり話しませんでした。頭では思っている、なかなか上手に言葉が出て来なかったのです。このころの写真をみると、表情が無くてわらった顔がほとんどありませんでした。

幼稚園に入園してからも、体は弱く、お弁当もあまり食べず、長い時は一ヶ月間も休んでしまった事もありました。

しかし、自分に自信が持てた思い出がありました。それは、年長組最後のクラス発表会です。わたしは、発表会前の一週間に熱が出てしまい、ずっと休んでいてほとんど練習ができませんでした。しかし当日は、まちがえずにしっかりと発表する事ができました。その時に、自信を持ってちようせんすれば、どんな事でも必ずできるのだと思いました。少しずつ、え顔の写真もふえていきました。

小学校へ入学してから、大変な事がたくさんふえました。時間をかけて長いきよりを歩いて登校しなければならなし、荷物もとても重くて学校への道のりが遠くに感じました。夏になり暑くなると気持ちが悪くなり、たびたび母にむかえに来てもらっていました。そんなわたしに母は、いつも言っていました。

「今日という日は、二度ともどらない。だから、できる事を一つずつ進めていこう。」

わたしは、その言葉をいつもわすれずに、毎日何でも一生けんめいにがんばりました。特に、宿題の計算ドリルや漢字ドリルは、日付けが真っ黒になる位にがんばりました。そして、なわとびの練習にもどんどんちようせんしました。三年生の時は七級だったのですが、今年は五級を目指してがんばりました。

そして何よりもうれしかった事は、四年生になってから、給食を残さず完食できるようになったという事です。家でも学校でも、たくさんご飯が食べられるようになりました。何を食べても、なぜかとてもおいしいのです。ご飯をたくさん食べるようになってから、カゼをひかなくなりました。暑い夏、気持ちが悪くなる事もなくなり、一学期は一度も休みませんでした。そして身長も急に伸びてきました。わたしへと、助産婦さんが言っていた

「この子は、とても大きくなるよ」

という言葉は本当だったのだと、母が一番おどろいています。これまでささえてくれた家族、友人、先生方や周りの人々に感謝をしながら、これからがんばりたいと思います。

私の街の大好きポイント

つくばみらい市立陽光台小学校 四年 山村 すずな

「ピンポン」と、私の家の玄関チャイムが鳴ると、私はだれよりも先にわくわくしながらインターホンの画面をのぞきに行きます。それは、お友達からの遊びのさそいかもしれないからです。だから、宅配便屋さんだと少しがっかりします。

私の家の周りにはお友達がたくさんいます。学年ばらばらでも、みんな仲良しです。みんな習い事などで学校のある日の放課後はなかなか遊べない事もあるけれど、たった十分でも空いた時間があれば集まります。この夏休みは、学校の先生から『十時前は遊ばないこと』と言われていたので、その時間近くになるとそわそわして、心でカウントダウンしたり、十時をすぎたのをかくにんしてお友達をさそいに行ったりしました。でも、少しのんびりしていると、お友達がうちのチャイムを鳴らして来てくれました。

お友達とは、私の学校の先生が名付けたボール遊び『ダカダン』や水でつぼう、けいドロなどで遊ぶのが楽しいです。その様子を見ているお母さん達は、

「のびのび遊べるかんきょうっていいね。」

と、いつも言っています。私も本当にそうだなと思います。

この前、私が習っている英語教室の先生に、

「夏休みに外国に行きたくならない?」

と、聞かれました。でもその時私は、

「今は全然ならないよ。」

と、すぐ答えました。なぜなら、私はまず自分のいる日本の事をもっと知りたいし、住んでいるこいばらき県やつくばみらい市でもまだ知らない事がたくさんあると思っているからです。県の鳥と市の鳥が『ひばり』で同じである事を社会の時間に知った時はちょっと面白かったです。あと、県には日本で二番目に大きな湖『霞ヶ浦』があるのも私の自慢です。春のころ、祖母にさそわれて霞ヶ浦に行ったら、桜がきれいで、ヨットがたくさんあって、湖っていうけど海みたいに大きくてとても大好きな場所になりました。また『竜神橋』という大きなつり橋は三年前に行った時はこわくて渡れなかったのもう一度チャレンジしてみたいです。

市内では、いつも車で通るとあつという間にすぎてしまう場所を自転車とか歩きでゆっくり見てみたいです。今の時期は私の家から車で五分くらいのところにある『田んぼアート』がきれいです。毎年いろいろなメッセージを緑の稲の他に黒や赤などの稲を使って描いて楽しませてくれます。そして、なによりも私の一番の大好きポイントとは『陽光台小学校』です。人数が多いので公害学習もクラスによって別の日になつてしまう事もあるけどたくさん先生の先生と話せて、たくさんのお友達もできて毎日がとても楽しいです。

これからももっと大好きポイントを見つけて、ふやしていくのが私の楽しみです。

ぼくと生き物たちのふる里

つくば市立光輝学園松代小学校 四年 稲垣 貴厚

「最近、カメムシを見ないね。」

夏休みに、田舎のおじいちゃんの家近くの昆虫館に行った時、研究員の人と話していた。田んぼにまく農薬は、カメムシをやっつけるもので、すごい力らしい。だから、田んぼに住んでいる昆虫のゲンゴロウが減っていると、気づいた。

でも、ぼくの家近くの田んぼには、たくさん水生昆虫が住んでいる。スジゲンゴロウ、コオイムシ、マツモムシ、ドジョウ、タニシ、ホウネンエビ、カエル、ヤゴなど。それをねらって、サギやカモも集まってくる。この前、田んぼのおじさんに、

「何か、おったかね。」

と、話しかけられた。しゅけーすの水生昆虫をみせると、

「ほう、こんなにいたかね。」

と、にこにこ。その時、おじさんの田んぼはむ農薬でお米を作っていると、話してくれた。だから、こんなに水生昆虫がいるんだと納得。

このつくばには、いっぱい自然が残されている。ここに来て三年目。生き物さがしが日課だ。いろんな種類の生き物がいて、大きさ、色、動きもちがって、おもしろい。全くあきない。しかも、今年は、とんでもないものを見つけた。幻のオオヤマトンボだ。

「よっしゃあ、やったあ。」

体がジンジンしびれた。オニヤンマより、ふく眼が大きくエメラルド色。体はピカピカ光っていて、まるで空飛ぶ宝石みたいだ。家族も大さわぎ。ワイワイガヤガヤと一緒に図かんで、エサや生態を調べた。大好きな時間だ。

もう一カ所、お気に入りの場所がある。小学校近くの松代公園だ。春には、カワセミ、ウグイス、オナガなどの野鳥。いろんな種類のチョウ。夏には、カブトムシやクワガタ、セミの声がにぎやかだ。トンボの種類も多くて、体の真っ赤なハッチョウトンボもいる。芝生には、バッタやカマキリも。学校の帰りに、エダナナフシを見つけたこともある。

「あれ、この枝、動いているぞ。」

よく見ると、細長い足の茶色のナナフシ。のっそりと散歩している姿がおもしろくて、思わず笑ってしまった。ワクワクドキドキの通学路。ぼくの自まんの場所。きつと、ファーブ先生が生きていたら、気に入ったと思うな。

最近、人間のえいきょうで、一日百種類の生き物が絶滅つしていつていると、本で知った。ぼくたち人間も、生物の一種類。どうすれば、他の生き物と一緒に、仲良く生きていけるんだろう。小さなことでもいいから、ぼくは、一人一人がやさしい気持ちで、自然に向き合うことが大切だと思う。例えば、ごみを出さないように、ごはんを残さずしっかり食べることから始めよう。

このつくばの自然を、おじいさんになっても見ていたいな。ぼくの心のふる里だから。

自まんのおじいちゃん

つくば市立桜並木学園並木小学校 五年 戸村 昂斗

僕のおじいちゃんは少しはなれたところに住んでいます。幼稚園のころまでは、よくおじいちゃんの家遊びにいていきましたが、最近では僕や妹の習い事が多くなり、遊びに行くことが少くなりました。

たまに遊びに行ってもおじいちゃんは忙しい人でスポーツ吹矢やそば打ちなどでない事もあります。だけど僕のこと大好きで、ちょっと遊びに行かなくなると、「いつ来るんだ？これからおじいちゃんがそっちに行くよ」とかとつ然来ることがあります。

ある日、こんなことがありました。

僕が遊びに行く日におばあちゃんから電話があつて「おじいちゃんが何時に来るのか聞いているんだけど。」と。そしておじいちゃんが加れい臭というのを気にして僕と一緒にねるのに臭い思いをしたらかわいそうだから朝早くから布団をおじいちゃんが干しているのよーとおばあちゃんが話しているのを聞いて、お母さんが笑っていました。僕は笑うどころか鼻のおくがツンと痛くなりました。

僕は、おじいちゃんと一緒にねるのが大好きです。毎ばん毎ばん早くねなさいと口うるさいお父さんやお母さんと違っておじいちゃんは僕の話をおそくまで聞いてくれたり、二人で落語を聞いたりとても楽しい時間が過ごせます。

おじいちゃんは、僕に見せたいとか、特に何か買ってくれ

るということはしないけど、楽しい時間や体験をたく山与えてくれます。本当に与えられるばかりで僕はおじいちゃんに何もしてあげられません。それでもおじいちゃんはいつも僕をにこにこ待っていてくれるのです。何か僕にお願いをするなんてことはないのです。

僕はそれがちょっと申しわけないような気持ちになります。

色々なことに一生けん命でそば打ちやスポーツ吹矢をがんばっているおじいちゃんにはまだまだかなわないけど、僕もおじいちゃんのように与えてもらう人ではなく与えられる人になりたいし、優しく話を聞いてあげられる人になりたいです。本当は、おじいちゃんが僕に何も求めないように、僕も何かおじいちゃんにお願いなんてしない方がいいのだけど、これだけは聞いてほしい。僕はおじいちゃんとまだまだ色々なことを一緒に、見て体験してたく山話したい。僕の自まんのおじいちゃん。僕が自まんの孫になれるまで健康で長生きしてほしいです。

守谷、ぼくを育ててくれているまち

守谷市立守谷小学校 五年 松井 智伸

茨城県は、全国で二番目に農業出荷額が多い農業県であり、太平洋沿岸には全国有数の工業地域があることを本で学んだ。

ぼくの住んでいる守谷市も、数々の野菜が生産されたり、

肉や牛乳などの食材が製造加工されたりしている。社会科見学で飲料の工場を訪れた時は、商品が次々と流れていく迫力に圧倒されたことを今でも覚えている。毎年七月の最終土曜日は、校歌の中にも登場する八坂神社の例大祭がある。この祭りは、市で初の無形民族文化財に指定された。年に一度の祭りを、ぼくは心から楽しみにしている。面をかぶって鮮やかな衣装に身を包み、山車の上で軽やかにおどる人々を、まぶしい思いで見つめる。同級生の中にもおどっている子がいる。どれだけの練習を重ねたんだろう。伝統が受け継がれていることを感じる。ぼくは、三歳の時に守谷市に引越して来たが、大人になってもずっと住み続けたいと思っている。

六年前の話になる。守谷市役所に正方形のピンク色のからくり時計がかかげられていた。ぼくは、その時計を見るのが大好きで、ユニークな動きをする人形が登場する時計に合わせて、特別市役所に用事があるわけでもなかったが、母に連れていってくれる様せがんだそう。時計を見るためだけに市役所に足を運んだことが数回あると聞いた。平成二十三年三月十一日、東日本大震災が発生し多くの人々が傷つき絶望感を味わった。数ヶ月後市役所に足を運んだ時、そのからくり時計は見当たらず、デジタル時計がかかげられていた。たまらず、からくり時計のことを職員の人にたずねた所、地震でこわれてしまい、新しいものにしたと聞いた。最後に、ごめんねと謝られた。さびしい気持ちになった。あれから六年、あの震災から日本は、茨城県は着々と復興をとげている。ぼくは大人になったら、からくり時計を寄付したいと思う。ぼくを育ててくれているまちに、いつの日か恩返しをしたい

からだ。人のために働くことができる大人になりたい。小さな子がからくり時計を眺め、笑顔になってくれるかもしれない。

茨城県的高速道路

坂東市立弓馬田小学校 五年 石 塚 悠 斗

ぼくが住んでいる坂東市に昨年、高速道路のけん央道が完成しました。完成した開通記念の式では、できあがった新しいけん央道を歩くことができました。その式では、つな引きをしたり、記念の写真をとったりしました。石のかけらもひろってきました。

けん央道ができて、坂東市には、これから工業団地が新しくできる予定です。また、坂東インターチェンジの近くにサーブスエリアもできる予定だそうです。

ぼくは、今年の夏に坂東インターチェンジからけん央道に乗りました。家族でキャンプ場に行くためです。乗ってから五分くらいたったらおしろが見えてきました。それから田や家がずっと続いていました。高速道路に乗ってから一時間くらいで、しろ里町のキャンプ場につきました。ここは自然がゆたかで、山がありました。近くには、ダムもありました。

二日目は、水戸からじょうばん自動車道という高速道路にのって花ぬきけいこくに行きました。じょうばん自動車道ではトンネルを五回くらい通りました。海も山もたくさん見えました。花ぬきけいこくにつくと、きれいな川に魚がいて、

およぐこともできて、小さなたきもありました。みんなで水着に着がえて川に入りました。冷たくて気持ち良かったです。

夏休みには、野球の合宿もありました。この日は、午前中野球の試合をした後、じょうばん自動車同を使って、二時間くらいで日立のホテルに着きました。一泊して帰るときに、ひたちかいひん公園に行きました。ひたちかいひん公園では、パスポートを買って友だちとたくさん遊びました。観らん車からは海が見えました。緑色のコキア畑もきれいに見えました。帰りには、サーブスエリアによりました。サーブスエリアでは、いろいろな茨城県の特産品やキーホルダーなどが売っていました。ぼくは、メロン味の茨城モナカアイスを買いました。おいしかったです。

高速道路があると遠いところもすぐに行けます。家からキャンプ場や観光地にすぐ行けるのでとても便利です。けん央道が茨城県にできて「東京」「神奈川」「千葉」にも短い時間で行けるようになりました。茨城県を通っている高速道路は、けん央道、じょうばん自動車道の他にも北関東道や東関東自動車道があります。

これからたくさんの人が高速道路を使って茨城県に来て茨城県の自然や食べ物、歴史などいろいろなことを知ってほしいです。そしてぼくもけん央道や近くの高速道路を使って今まで知らなかったところに行って見たいです。

ぼくの住む街

つくば市立北条小学校 六年 町田 礼

ぼくの住む街は、つくば研究学園都市があつて、とても近代的な建物が並び、電車が走る都市の部分と、田んぼや畑が広がる田舎の部分と、両方持っているとても豊かな街です。

ぼくの住んでいる所は、田舎の方です。ぼくが生まれた時からほとんど変わっていません。ぼくが幼稚園の時は、おばあちゃんと近くの小川に魚をとりに行きました。小学生になった時には友達と一緒に魚やサワガニとりに行きました。

それに、家の周りは、田んぼや山で、田んぼではとてもおいしいお米がたくさん取れます。他の地区からも、お米を買いに来る人がたくさんいるそうです。おいしいお米が育つのは、山から流れて来る水がとてもきれいで、田んぼの土には栄養分がたっぷりふくまれているからだと思います。

そして、春が来ると山ではわらびやふき、たけのこなどの山菜が収穫できます。秋にはいろいろな種類のきのこも取れます。だからその季節ごとのおいしい山菜が、ぼくの家のおかずになります。あまり好きじゃない物もあるけど、このごろは少しおいしいと感じるものもできました。何回か、お母さんと一緒に山菜取りに行った事があります。山の空気はとてもスッキリしていて、大きく息をするとむねがスーッとしてとても気持ちがいいのです。きっと空気がきれいだからだと思います。

研究学園には、国の研究所や大きな会社の研究所、大学な

どがたくさんあります。とても近くにあってもぼくは行った事はありませんが、世界中から研究者の人達や学生達が集まって来ていて、いろいろな研究をしたり大学で勉強したりしています。ぼくの友達のお父さんも研究者で、将来世界中の人達のためになる研究をしに、一年に何回かフランスからこの街にやって来ます。この街ですごい研究がたくさん行われている事は、街の自まんになると思います。

そんな研究所もぼくの家の方の田舎の自然も、ずっと先の未来まで残るようにみんなで守っていかなければならないと思います。

ぼくは、この街が大好きです。

伝統と共に

つくばみらい市立小張小学校 六年 松本 愛佳

『つぎいとおーびい...』

多くの人が静かに見守る中、この言葉から始まる約一分程の口上がひびきわたります。

私の通う小張小学校は、およそ四百年間続く国指定の重要無形民俗文化財『小張松下流綱火』を受けつぎ、伝えています。綱火とは慶長八年（一六〇三年）小張城主となった松下石見守重綱が考案し、戦勝祝いなどに演じられたと言われています。

花火とおはやしが盛り上がる中、空中にはりめぐらされた綱を操作し、人形を動かすことで物語を演じるものです。

小張小生は、背中に赤く『綱火』と書かれたはっぴを着た上級生が、秋祭りや運動会、そして『繰り込み』で山車をひきおはやしを鳴らし、綱をひき人形をあやつる姿を見て、「自分が高学年になったら・・・」と綱火に参加するのを楽しんでいます。

実際に私たちが行うのは『子供綱火』と言って、祭礼前日の参加や、小学校での実技披露などですが、先輩たちも着ていたはっぴを着て、『重要無形民俗文化財』と書かれた手ぬぐいをしめると、背すじがのびる気がします。

八月二十四日に愛宕神社で綱火が演じられる前日に、私たちは山車を引き神社へと向かう『繰り込み』を行います。ここでは六年生はおはやし、四・五年生は山車をひっぱって神社に向かいます。先頭に大人の人が立ち、花火で光の道をつくってくれます。その様子は言葉に言い表せないほど美しいです。

秋祭りでは、私たち小学生だけでおはやしを奏で、人形を操ります。

綱は重たく、水でぬらした軍手をしていても手が痛くなります。六年生の私は笛ですが、もう一つ重要な役割をまかせてもらいます。『口上』です。

もともとは戦勝祝いだった綱火も、豊作が続くよう願うようになりました。

綱火の始まりに行われる『口上』には綱火を成功させるための神さまへのお願いや、五穀豊じょうへの祈りが込められています。

昔風の言葉で述べられる口上ですが、意味を知ると、その

中に一緒に米を作ってきた人たちへの思いやりや、神様へのお願い、またもし人形の操りを失敗してしまってもがっかりしないしてほしい、という演じる人の気持ちが進められています。

口上を練習していると「今も昔も人は変わらないのだな」と思い興味深いです。

十二歳の私には、四百年間というのは想像もできません。

その想像もできない間、先人によって続けられてきた伝統に参加できたことを誇りに思います。それと同時に、この先五百年・六百年と変わらず守り続けてほしいです。

おじいちゃんは黄門様

水戸市立石川小学校 六年 渡 辺 真 彩

「おもてなしの心で活動しているんだよ。」と、水戸黄門愛好会に所属しているおじいちゃんがそう話してくれました。

水戸黄門愛好会とは、平成十年に、おじいちゃんとお友達数名で立ち上げたボランティアグループです。おじいちゃん達は、テレビの水戸黄門と同じような旅姿で、水戸や茨城のPRなどをしています。ふだんはネクタイ姿で会社でお仕事をしているおじいちゃんですが、梅まつりの時季は、偕楽園で観光客のみなさんをおもてなしして楽しませたりしています。

私は、この活動を見て「すばらしいな」と思いました。なぜなら、水戸に来てくれた多くの観光客のみなさんが、これ

を見て笑顔になり、とても喜んでくれるからです。私がどこかへ旅行したとき、知らない土地で優しくしてもらえると、「楽しかったな。また行きたいな。」と思います。水戸に来てくれたたくさんのお客様も、きっと私と同じ気持ちになると思います。

また、水戸に来る観光客を楽しませるだけではなく、地域のイベントを盛り上げたり、県外に行つて、多くの人が茨城、水戸に来てもらえるよう、呼びかけているそうです。私は、おじいちゃんはたくさんがんばっていることがあってすごいと思います。この活動で水戸や茨城に来てくれる観光客のみなさんに楽しかったと思ってもらえるようになれば良いと思います。

私も、おじいちゃんの活動を見習って、水戸黄門まつりに子ども会で参加しました。参加したのは、黄門ご一行の格好で歩く「子ども黄門パレード」です。三年生から六年生までも四年間、楽しく参加しました。これを知って、おじいちゃんはとても喜んでいました。

このおまつりは、水戸の人だけでなく、県外からの観光客もたくさん来てると思います。私も、おじいちゃんが心がけている「おもてなしの心」を持っておまつりに参加しました。このおもてなしの心が、多くの人達に伝わっていたらうれしいです。

今、茨城県は「み力度ランキング」が最下位と言われていますが、おじいちゃん達が大切にしている「おもてなしの心」を持って接すれば、みんなが知っている水戸黄門様のように、人気が上がると思います。

おじいちゃんには、これからも元気にボランティア活動が
がんばってもらいたいです。そしてその活動を通して、地域
のみなさんに喜んでもらったり、茨城のイメージアップにつ
ながったりしたらうれしいです。そして私も、おじいちゃん
の活動を応援してお手伝いしたいと思います。

私のお父さん

ひたちなか市立佐野小学校 六年 砂 川 結 良

私のお父さんは陸上自衛隊で働いています。

自衛隊とは、日本の平和と国の安全を保つために、国民と
領土を防衛するための組織です。

その主な仕事は、地震や台風などの大規模災害が発生した
ときに、警察や消防などと協力し、救助活動を行うことです。

お父さんの仕事は、災害が起きたときに、自衛隊の人たち
がすぐに困った人たちを助けられるように、集まってきた情
報で資料をつくったり、物品の準備をすることです。

他には、自衛隊が通る道路を調査したり、大雨が降ったと
きに川がはんらんする所はあるかどうかを調べたりもしま
す。

東日本大震災のときは、仕事が休みで家にいたのですが、
地震が起こって、すぐ仕事場に行ってしまいました。

震災当時、私は六才でした。

お父さんが仕事に行ってしまったから、お母さんと弟の三
人で水をくみに行ったり、食料を買いにお店にならんだり、

朝早く起きてガソリンスタンドに何時間も並んだりもしまし
た。

その時、他の家族を見ると、みんなお父さんが一緒にいて、
私はなんだか心細く、さみしくなっていました。

震災があった日から十日以上過ぎて、お父さんが一時家に
帰ってきました。

その時お父さんは、玄関に入って私たちの顔を見たたん、
「ごめんなあ。」

といって泣きだしてしまいました。

話を聞くと家に帰ってくるその日まで、ほとんど寝ずにみ
んな仕事をしていたそうです。

例え、自分やその家族が被災者で、どんなに大きな災害に
あっても、家族を残して仕事に行かなくてはいけない、とて
も辛い仕事だと思いました。

お父さんはお父さんで、自分の仕事の責任を果たしながら
も、本当は家族に会えなくてとてもさみしい思いをしていた
んだな、とその時初めて知りました。

仕事に対しても一生懸命で、家族を大切にしてくれるお父
さんを私は誇りに思います。

茨城ブランドを世界へ

霞ヶ浦高等学校附属中学校 一年 根本 優 真

多くの住んでいる茨城県は、毎年、都道府県魅力度ランキングで最下位です。

しかし、ぼくは、茨城県は良い所だと思います。なぜなら、自然が豊かで、農業もさかんだからです。

茨城県には、つくば山、霞ヶ浦、袋田の滝などがあり、とても自然が豊かです。そして農業では、レンコン、白菜、メロン、栗などの出荷量が全国で一位です。二位の農産物も多々あるので、魅力度ランキングは、最下位ですが、農産物の出荷量は、北海道に次いで全国二位です。

その中でも、ぼくの一番身近にあるのが、レンコンです。ぼくの家は、専業農家で、父母、祖父母が、協力してレンコンを作っています。一年間を通して休みがほとんど無く、暑い日も寒い日も、変わらず仕事をしていて大変だと思うのに、なぜ続けているのか、疑問に思い聞いてみると、お客さんに、「おいしいから、また買いに来るよ。」

と言ってもらったり、市場の人から「需要があるから、休まず安定出荷をして下さい。」

と、頼まれているから、いいものを多く生産したいんだと教えてくれました。

ぼくは、小学校三年生の時、総合の時間にレンコン植えや、掘り取りの作業を体験しました。植える時に、レンコンの芽を折らないようにきをつけたり、掘り取りをする時には

レンコンに傷がつかないようにしたり、良いものを育てるために、いろいろなことに気を配っていると感じたのを覚えています。それから、たまに家の仕事を手伝った時に、父や祖父が、泥だらけになって、レンコンを掘っている姿や、母や祖母が、丁寧にレンコンを洗っている姿を見て、お店で買ってくれる人がおいしいと思って食べてくれることを思っ作業していることが、よく分かりました。

そんな風に一生懸命、栽培しているレンコンを、二〇二〇年に行なわれる東京オリンピック・パラリンピックの選手村などで料理の食材として使ってもらえるようにしようという活動が徐々に始まることを、父が教えてくれました。でもそれは、ただPR活動をして売り込むのでは、だめだそうです。安心・安全な食材である認証を取得しなくてはいけないそうです。調べてみると、日本の農業の認証取得は、今年の四月の時点で一パーセント程度で、本番に間に合うのか、不安だということでした。もし、間に合わなければ、日本で開催しているのに、食材を輸入しなければならないということです。そうなるってしまうのはとても残念なので、茨城県全体で協力して、世界のアスリートの人達に多くの茨城県の農産物を食べてもらいたいのです。そして、いっぱい食べて、いい記録をたくさん出して欲しいと思います。そして、オリンピック・パラリンピックをきっかけに、茨城ブランドの農産物を、世界中の多くの人達に食べて欲しいと思いました。

伝えていきたい ふるさとの良さを

茨城大学教育学部附属中学校 一年 柏

葉々美

私はこの地に生まれ育った、生粋の水戸っ子だ。私の両親も水戸生まれ。だから、祖父母や曾祖母も車で二十分以内の所に住んでおり、親戚もほとんどが、茨城県内に住んでいる。学校の友達は、正月やお盆に帰省すると言って、県外のおじいさんやおばあさん、親戚の家に出かけた話を聞かせてくれる。今までの私は、飛行機や新幹線に乗って、遠くの帰省地に行く友達を羨ましいなと思っていた。帰省の度に、遠出したり、旅行ができていいな、と思ったからだ。でも、友達には、すぐ会える距離に祖父母や親戚がいていいね。と言われる。今までの私には分からなかった。

でも、最近になって、そのありがたみを感じられるようになった。曾祖母の家に行けば新鮮な旬の野菜や果物、今の季節は、きゅうり・なす・トマト・かぼちゃ・とうもろこし。そして、とても甘いすいかやメロンを頂くことがよくある。味にこだわって作られた野菜や果物やお米は、スーパーで買うことのできない、私のひいおばあちゃんの味だ。新米を食べたときの風味。取れたての野菜や果物の旨味は、他にはないオンリーワンの味だ。どこにも売っていない。曾祖父がなくなってから、田畑も減らし、今は食べる分だけの量を作っているそうだが、一緒に暮らす伯父やいとこ達が、その味を守ってくれている。私たち家族にとって、かけがえのないこの味を、これからずっと守っていつて欲しいと思う。

茨城県といえば、どうしても気になるあのランキング。「都道府県魅力度ランキング」で、最下位という結果だ。何年も連続で記録を更新している。なぜなんだろう。

他の県から比べると、やはり田舎なこと、地味なこと、方言も少し魅力を下げているのだろうか。でも茨城県は、海や山に囲まれ、県中央部から南部は、関東平野に広がっている。そのため、大雪に悩まされることは、ほとんどない。また、沿岸部特有の穏やかな気候に恵まれ、全国的にも、暮らしやすい環境だ。農業産出額は、都道府県魅力度ランキング一位の北海道に次ぐ、第二位で、日本で誇れる農業県だ。そして、日本遺産に認定された、弘道館や日本三大名園の偕楽園など、日本を代表する数々の名所がある。最近では「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」にも選ばれた「国営ひたち海浜公園」をはじめ、ギネスにも登録されている「牛久大仏」、また偕楽園とつながる千波公園の総面積は、都市公園としては、ニューヨークのセントラルパークに次いで、世界第二位の広さだ。

このように、茨城県は自然が豊かで、食べ物も美味しく、水や空気もきれいで、たくさん良いところがある。だから、魅力でいっぱいなのだ。でも、もしかしたら、このことを知らない県民もいるのではないかと思う。実際、私もそうだったからだ。まずは、県民がもっと茨城のことを知ることが、魅力度を上げるためにも、大事なことなのではないかと思う。

我が家は昨年、偕楽園のすぐ近くに引越した。家の前の道路は、好文亭表門通りと言い、偕楽園の表門につながる道となっている。二月から三月の観梅デーには、家の前の道

路は歩行者専用道路になる。この時期は、一日中観光客が訪れ、にぎわっている。改めて、水戸に訪れる観光客の多さを実感した。

そんな素晴らしい、この地に住んでいることを誇りに思う。私は今後進学などで、県外に住むこともあるだろう。茨城県のたくさんの魅力を知らない人達に、私は色々なことを伝えていきたいと思う。そして十年後、二十年後も、私のふるさとを、今と変わらず誇りに思い続けたい。この地に生まれてよかったずっと住んでいたい、そして県外の人にも、また行きたいと思ってもらえるように、私も出来ることをして、少しでも貢献できたらと思う。

茨城の自然と共に生きる

常総市立石下中学校 一年 高橋 紅 愛

私の住んでいる常総市は、茨城県の西部に位置しています。鬼怒川と小貝川の二つの大きな川が流れ、田園風景が広がる、自然豊かでとても住みやすい町です。そんな町の様子を一変させたのは、忘れもしない二年前の、「平成二十七年九月関東・東北豪雨」の洪水被害でした。台風十七・十八号にともなう線上降水帯によって、鬼怒川上流部では累計六百ミリを超える大雨を記録しました。その結果、常総市三坂で堤防が二百メートル決壊し、若官戸地区では越水が発生しました。常総市のおよそ三分の一にあたる面積の約四十平方キロメートルが浸水しました。死者二名、負傷者四十人以上、全半壊家屋

が五千棟以上という甚大な被害になりました。

私の住んでいる地域には前日の夜から避難警告が出されていました。しかし、まさか大丈夫だろうという思いもあり、その夜は避難せず家で一晚過ごしました。消防団に入っている父は、前日夜から出勤していましたが、早朝帰ってきて「早く避難した方がいいぞ」と言うので、あわてて車で三十分ほどの祖母の家に避難しました。祖母の家に着いてテレビをつけると、数十分前に通ってきた道に水が流れる映像が映し出されていていました。それを見て背筋が凍りました。いつも生活している場所がみるみるうちに変わり果てた姿になっていく様子は言葉に言い表せないほどのショックを受けました。自分の家がどうなっているのか、学校はどうなっているのか、友達みんな無事なのだろうか、不安で不安で仕方ありませんでした。翌日、私の家は奇跡的に無事である事が分かり少しほっとしましたが、同時に多くの家が被害にあっている事が分かり片付けや掃除に追われる姿を見てなぜか申し訳ない気持ちになりました。数百メートル数十メートル、数メートル違うだけで被害が左右されました。このことで、いつ何が起こるか分からないという事を身をもって体験しました。

洪水から数ヶ月経ち、日光のそば祭りに行ったときに国土交通省のブースがあり、職員の方からその時の話を聞きました。鬼怒川上流の四つのダムにできる限り水を貯める操作を行い、約一億平方キロメートルの水を貯めたそうです。数字を聞いただけではそれがどれほどの量なのか察しがつきませんでした。しかし私は叔父が日光のダムで働いていたのでダムの水陸両用バスを用いたツアーに連れていってもらったこ

とがありました。ダムを囲む景色は見渡す限り山で、広大な自然に圧倒され、自然の偉大さにとっても感動した事をととてもよく覚えていました。だから、あのダムが四つの水の量かと思うと、それがどれだけ膨大な水の量なのか想像が付き自然の恐ろしさを思い知りました。

私はこの数年の間に洪水と東日本大震災を経験しました。自分もそうだったように、きつと多くの人は自分は大丈夫という気持ちを持っていると思います。しかし、きつと大丈夫なんて事は絶対にありません。ここ数日の間にも茨城県で大きな地震が何回も発生しています。ここ一ヶ月の間に九州北部や秋田県で記録的な大雨による被害が出ています。自然はすばらしいものですが、時に自然は恐ろしいものに姿を変えます。たくさんの自然と共に生きる茨城は災害に強い町づくりをする事が何よりの課題だと思います。どのような災害がおきてもぎせい者も出す事のない、人々の生活を守る事のできる町づくりです。私たちが経験してきた事を生かして、それを茨城から日本中に広めていきたいなと思います。そして私の大好きな茨城と茨城の自然が守られる事を心から願います。

茨城は私のふるさと

常陸太田市立水府中学校 一年 菊池 麻見

皆さんは、朝の連続ドラマの「ひよっこ」を知っていますか。「ひよっこ」は、東京都と茨城県が舞台になっています。茨城県の撮影場所は、大子町や私の住んでいる常陸太田市だったそうです。田んぼや田植えのシーンが出てくるのですが、その光景は、私も五月に見る風景とよく似ています。

私の住んでいる常陸太田市東連地町は自然に囲まれています。私の家から見える景色をながめると、とても爽やかな気持ちになります。今の時期には、こうして作文を書いているときにも聞こえてくるのですが、せみの声がよく聞こえてきます。夕方には、ひぐらしの鳴き声がよく聞こえてきます。季節感を感じられます。また、春になると近くの森の中の山にサンショウウオが姿を現します。「サンショウウオは、きれいな水がわき出ている所にしかいない。」ということを知り、祖父から聞いたことがあります。空気がきれいということなど周りの環境が良いから、様々な生物がいたり、水がきれいだったりするんだな、と思いました。

また、茨城には方言があります。よく私の家族は「いがっぺよ。」「しゃあんめえ。」「なんつった。」「〜さんとこさ行つてくつから」などという言葉を使います。イントネーションが他の都道府県とは違う独特ななまりになります。「捨てる」という意味の言葉は、「かつぽる」という言葉です。以前、あるテレビ番組で他の県民の人達は、「かつぽる」という言

葉の意味が分からない、ということが放送されていて、私には普通に感じるし、なじみがあるので驚きました。でも、他の県民の人達が分からないということは、茨城ならではの方言だと思うので、これからも大切にしていきたいと思います。

私の住んでいる、常陸太田市東連地町の青蓮寺というお寺には、「二孝女物語」という約二百年も前の物語が受け継がれています。「二孝女物語」は旅の途中で倒れてしまった父親を尋ねて豊後国、今の大分県臼杵市から常陸国、今の常陸太田市東連地町まで千二百キロもの旅をした二人の娘の物語です。見ず知らずの娘たち、ツユとトキに優しくしてくれた人々や青蓮寺の前で倒れてしまったツユとトキの父、初衛門のかん病をしてくれた、青蓮寺や地域の人々の優しさが感じられて、心がとても温まります。さらに、「春になるまで青蓮寺で休んでいきなさい。」と言ってくれた住職さんの優しさにも感動しました。小学六年生のときに、二孝女物語の劇の発表を三回行いました。実際にトキ役を演じたのですが、千二百キロの旅がどれだけ大変だったか、周囲の人たちや娘たちの行動が改めて心に染みしました。今、臼杵市と姉妹都市を結んでいて、私の住んでいる所が他の都道府県とつながっていることを嬉しく思います。私も、見ず知らずの人に親切にしたり、親孝行ができたりする、心優しい人になりたいと思います。

今、茨城県は、あまり魅力ないと思われるのかもしれませんが、連続ドラマの舞台や撮影場所になったり、きれいな自然があったり、親子のきずなや、親切な人々のすてきな物語も受け継がれてきています。そんな私の大好きなふるさ

と茨城の良さをもっとたくさんの方の日本人や世界の人に分かってもらえたら良いなと思います。

がんばっぺ！茨城！

好きな年中行事

常陸大宮市立山方中学校 一年 根本 紋

今年も私の好きな夏がやってきました。私はお盆が大好きです。八月になると、わくわくしてくるのです。

お盆には、ちょうちんを飾ります。毎年私も手伝います。「ご先祖さまが喜ぶよ。」と、おじいちゃんに言われると、うれしくて、もつとがんばってしまいます。

十三日、お墓参りに行って、ご先祖さまを家に連れてきます。亡くなったおばあちゃんや、ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃん達を、おんぶしてくるのです。目にはみえないけれど、帰り道ちよつぴり背中が重くなったように感じました。夜になると、ちょうちんに明かりをつけます。とてもきれいです。そしていところと一緒に花火をするのが、毎年の十三日の過ごし方です。いつもは四人家族の私の家が、ご先祖さまも加わり、なんだかにぎやかになったような気がしました。お盆には親せきの人も来ます。おじいちゃんによく似たおばちゃんも来ます。おじいちゃんの妹です。みんなでお墓参りに行ったり、昔の話をしたり、大人もとても楽しそうです。みんなの笑い声でいっぱいになります。きつとご先祖さまも喜んでいるだろうなと思いました。

お墓参りに行ったとき、おじいちゃんに教えてもらったことがあります。おじいちゃんが子どものころ、妹が水の事故で亡くなってしまったそうです。だからその人のお墓には水をかけない、ということでした。水で苦しんで亡くなったから水はかけないそうです。私が小さい時に教えてもらったのですが、今でもよく覚えていて守っています。

お盆にはこんなことをする、こんな食べ物をお供えする、昔から言い伝えられているいろいろな約束があります。まだ難しいこともあるけれど、しっかりと教えてもらいしっかりと守っていかなくてはなりません。

お正月も大好きです。お年玉におせち料理それだけではありません。お正月もお盆と同じく、親せきの人がたくさん来ます。そしてみんなの笑い声でいっぱいになります。

おせち料理を作るのはお母さんです。亡くなったおばあちゃん、おせち料理の作り方をノートに書いておいてくれたそうです。それを見ながらお母さんは一生けん命作ります。私も料理が好きなので、いつかはおせち料理を作ってみたいと思います。

おじいちゃんカレンダーを見て、「今日は〇〇の日だよ、〇〇をするんだよ。」などと、いろいろな行事のことを教えてくれます。昔のことみたいでいやだな、かつこ悪いな、と小さいころは思いました。でも、今はちがいます。昔からのことだからしっかりと覚えたいと思うようになりました。私も少し大人になったのかなと思います。

お正月や節分、ひなまつり、子どもの日、七夕、お盆、お正月など、一年の中でいろいろな行事があります。今は行事

を行わない人もいると思いますが、昔の人に教えてもらったことはしっかりと守っていききたいと思います。そして、私が大人になった時、子どもにしっかりと伝えていききたいと思います。

将来の夢

つくば市立筑波西中学校 二年 飯村 ころろ

私が、医療関係の仕事に就きたいと考え始めたのは小学三年生のときです。私の祖父が重い病気で亡くなってしまったのがきっかけでした。「悲しい。もっと一緒に居たかった。がんなんてなくなっちゃえばいいのに。」と思いました。そして三年が経ち、六年生のとき祖母が祖父と同じ病気で亡くなってしまいました。その出来事があり、「がんをやっつけるために医療の道に進みたい」という思いが強くなりました。将来は、医療関係の仕事がしたいと思い始めたころ、両親と将来のことについて話しました。そのとき、医療の道に進むには大学の医学部や薬学部などで学ばないといけないということや、入るにはたくさんさんの知識を身に付けなければならぬということを知りました。そして、今までは医療関係の職に就くためには「勉強」が大切だと思い、学校の授業やテストなどを真剣に頑張ってきました。でも、他にも大事なことに気がつくことができました。

今年の夏、学校行事としてさまざまな職業や職場に出向き、そこで大人と一緒に実際に働くという職場体験活動がありました。私の将来の夢のために学べる最適なところは病院だと

思い、病院を希望しました。地域の病院での体験では医療現場の様子を体験できた、貴重なものでした。先生の診察を見学していた時でした。先生は患者さんが前に来院した時のカルテを見ながら、現在の症状の原因や治療方を伝えていました。その時、先生は明るく、和やかに話をしていました。患者さんは、穏やかな表情でうなずきながら先生の話を聞いていました。私は「コミュニケーション力」がこのような仕事にはとても必要なんだなと思いました。また、処置室で少し患者さんが苦しい表情をしていたときに看護師さんが臨機応変に別の方法で処置していました。そこで私は、「正しい判断」「すばやい行動」をしないとこの仕事は務まらないと感じました。職場体験活動を通して「コミュニケーション力」と「正しい判断」「すばやい行動」について学ぶことができました。

私は職場体験活動を通して学んだ、

○「コミュニケーション力」

○「正しい判断」

○「すばやい行動」

今まで重視してきた。

○「たくさんの知識」

の4つを意識していきたいと思います。その中でも大きな課題は「正しい判断」と「すばやい行動」ができるようになることです。物事を冷静に考えて対処したり、思ったことをすぐ行動にうつすことなどを今後の目標として頑張っていきたいと考えてます。

医者や看護師などになることが私の最終目標ではありません

ん。私の祖父や祖母のように病気にかかっている人たちを助けることが最終目標です。また、私のように大切な人を病気で亡くしてしまい、悲しい思いをしている家族を一人でも減らしたい、そう考えています。私はこのような形で社会に貢献する、人の役に立つ「夢」を描いています。

様々な人と関わって

日立市立助川中学校 二年 佐々木 理紗子

「この子の手をにぎってあげて。」

私は、看護師さんからのこのひとことを受けて、気持ち少し動きました。私には、漠然とした将来の夢がありました。しかし、最近になり、「看護師という職業に少し興味を持ち始めました。」

私は、六月の職場体験活動を病院でさせていただきました。ひとりの女の子が、点滴を打つために小児科にきました。女の子は、針をさす様子を見ていたら、不安になったのか声を出して泣き始めてしまいました。そのとき、

「この子の手をにぎってあげて。」

と、言われたのです。私には今まで小さな子の手をにぎる経験はありませんでしたが女の子を少しでも安心させたい一心で手を「ぎゅっと」にぎりました。それでもなかなか泣きやみません。そんな中で私は

「大丈夫だよ。」

と、自然に声をかけていました。こんな普通の言葉をかけて、

泣きやんでくれるのかすごく心配でしたが、女の子は静かになって落ち着いたようでした。そのとき、私は胸がものすごく熱くなりました。自分が声にした言葉は、誰かを安心させることができるんだと、知った瞬間でした。その後、女の子のお母さんから、

「ずっと手をにぎったり、声をかけてくれたりしてありがとうございます。」

と、言われたり、看護師さんから、

「とってもうまく対応できたね。看護師に向いてるよ。」

と言われたりしました。そのとき、一所懸命やって、お礼を言われるものすごく達成感があつて、やりがいがある職業だなと思いました。そして、そんな職業につけるといいなと思いました。

また、新生児科では生まれて間もない赤ちゃんの検査の様子や沐浴の様子を見学しました。看護師は、生まれた赤ちゃん様々な検査やお世話を通してたくさんの方の赤ちゃんやお母さんの関わりを持っていくんだと感じ、仕事の大変さを実感しました。その日は、退院する赤ちゃんがいて、看護師さんに、「だっ、してみろ?」

と、言われました。初めての経験に、すごくドキドキしました。生まれて数日の赤ちゃんは、手をぎゅつとにぎっていて、ふわふわしていました。想像以上に重くて、

「肩こるのよ。」

と、前にお母さんが言っていたことを思い出しました。少したつと、赤ちゃんは泣き出してしまいました。早く泣きやませようと、落ち着いて、赤ちゃんを優しくゆすったり、声を

かけたりしました。変な汗をかいてしまいましたが、赤ちゃんに私の気持ち伝わったのか、泣きやんでくれました。何か、自然と笑顔になりました。自分でもこのようなことができるんだと思いました。この赤ちゃんは多分私にだっこされたことなんて覚えてないと思います。でも、私にとっては、とっても大事な時間だったと感じています。

二日間の職場体験活動を終えて、何気なく選んだ職場でしたが、病院の雰囲気や体験、見学を通して、看護師の仕事について分かったことがたくさんあつたし、看護師という職業が好きになりました。また、私は自分より年下の人と関わるのが苦手でした。しかし、自分の一つの言葉。一つ行動。一つの表情で何人もの人を安心させることができ、自信がつかまりました。最近減ってきている小児科などの看護師になって、小さい子の助けになりたいとも思いました。将来、医療の仕事につくかどうかは分かりませんが、職業を選ぶことは、大変だし時間がかかると思うので、自分が好きだと思う職業につけるように、今を全力で過ごしていきたいと思っています。

大好きな茨城を知ってもらうために

水戸市立第一中学校 三年 川上 優月

もしも私が茨城県知事になったら……

県知事選が行われた夏、立候補者のボードや宣伝の車をよく見かけたことで、もしも私が県知事になったらと考えるようになった。あと三年で十八才になるとともに選挙に参

加できるようになります。まだ十五才だから、あと三年あるから、ではなくあと三年しかないという意識で、私達はもつと日本の将来や地元の茨城県について考える必要があると思います。そこで、大好きな茨城をもっとよく知ってもらうために、どうしたらよいか考えてみました。

茨城県の魅力度ランキングが最下位となっている原因の一つに茨城県の魅力ある観光地や特産品がよく知られていないということがあるそうです。水戸には日本三大名園の一つ「偕楽園」、大子には日本三名瀑の一つ「袋田の滝」、藩校としても歴史深い「弘道館」四季折々の花が咲き、インスタ映えすると注目されて、ロックインジャパンの会場としても使用される「国営ひたち海浜公園」、つくば市には日本の最先端の科学技術研究施設が集中しているなど、ここには書ききれないほど、茨城県には魅力があると思います。

それなのに茨城には何もない、そう思われてしまうのはなぜだろうと考えると、各観光地の周辺が閑散としていることが多いという考えが浮かびました。私は水戸市に住んでいるので、水戸市で考えてみると、商店街がさびしいなと思いました。私は昨年、県北芸術祭に行き、県北地域のいたるところにあるアート作品を見てまわりました。茨城の自然にたくさん作品が多くありました。また、作品のあるところまで歩くこともあって、車に乗っていても感じられない茨城の魅力も感じる事ができてとても良い企画だと思いました。

この芸術祭で私を感じたのは「芸術」の力です。芸術には、人を吸いよせ、笑顔にする力があると思いました。そこで私は二つの案を考えました。一つ目は、茨城の商店街をカラフ

ルにペイントして観光客を呼びこむことで商店街を新たな観光地化させ、観光客を集めるという案です。二つ目は、茨城は交通の便が不便というのもよく聞くので、気軽に入りやすい観光案内所を設置し、周辺の観光案内やPRも行いうという案です。各市町村ごとの特徴を反映させた建物のつくりになれば、その市町村ごとのシンボルのようにもなります。観光客も、他の市町村は何があるのだろうと興味をもってくれるのではないかと思います。商店街の前提として、自分の足で歩くというのが利点にあります。歩くことで、車では気づかないような魅力や、隠れた名所に出会えたり、地元の方とふれ合えたりすることができます。きっと茨城の魅力を五感で感じてもらえるはずです。

でも、私達が茨城についてもっとよく知り、考えていくことが一番大切だと思います。地域の行事やボランティアに参加することも地元を知る第一歩です。小さな一歩もたくさん集まれば大きな一歩になるはずだと私は信じています。

茨城は何もない。そのようによく聞きます。しかし、何もないわけではなく、眠っているのです。それらをどう引き出していくかは、これからの茨城を支える私達にかかっています。これからののびしろが一位の茨城県は、これからが期待される県第一位です。大好きな茨城を知ってもらいたい、そう思う気持ちが一番大切だと思います。私もまだまだ知らないことがたくさんあったので、これからもっと知りたいたと思います。

私の自慢のふるさと

龍ヶ崎市立城ノ内中学校 三年 大北 あい

私は生まれたときから茨城にすんでいます。茨城にはたくさん自然があつて空気もととてもきれいです。茨城県は魅力のない県といわれていますが、私は全く悔しくありません。なぜなら私自身が茨城の良さを誰よりも知っているからです。

茨城の魚はとても美味しく新鮮だと思います。私たち茨城県民の食卓には当たり前のように魚があります。でもこれは当たり前ではありません。私の兄と姉は京都に住んでいます。京都にはたくさんさんの歴史があり観光地として有名です。そんな京都に住んでいる兄と姉が口をそろえて「茨城の魚は安いのに新鮮でとても美味しい」と言います。私も魚が大好きです。茨城の海で漁師さんが一生懸命魚を捕ってくれているからこそ美味しく感じるのだと思います。魚の新鮮さ、美味しさは魅力のある県上位の京都にも負けません。

そして茨城には緑がたくさんあります。私が一番自慢したのは筑波山です。私は六歳のとき筑波山に登りました。道はけわしくまだ小さかった私にとってはとてもつらいものでした。それでもあきらめずに登れたのは木々が揺れる音や鳥の鳴き声、まわりいっぱい緑などを全身で感じていたからです。頂上にたどりついたときのあのすばらしい景色は今でも忘れません。筑波山のほかにも袋田の滝や霞ヶ浦、牛久沼など数えられないほど多くの自然観光スポットが茨城にはた

くさんあります。

茨城県には昔からの伝統文化、伝統行事が多くあります。私の住んでいる龍ヶ崎市では毎年撞舞が行われています。撞舞は茨城県無形民俗文化財の指定を受けています。起源は確かではありませんが、少なくとも十九世紀前半以前にさかのぼりたいへん歴史のある伝統行事です。私たち龍ヶ崎市民にとって撞舞は守っていかなければいけないという強い責任や、撞舞が県民俗文化財に指定されたことに対する大きな誇りを感じています。これからも昔の人がつくりあげた伝統を次の世代へと私たちがつないでいきます。

また茨城県は男女ともに全国体力・運動能力調査で一位、二位を争うスポーツの盛んな県です。牛久市出身の稀勢の里も今年見事優勝し横綱に昇進しました。稀勢の里が茨城にたくさんさんの喜びや感動を与えてくれました。そして二〇一九年九月二十八日に「いきいき茨城ゆめ国体二〇一九」が行われます。国体が開催されることで、茨城が盛り上がるのが今からとても楽しみです。たくさんさんの茨城県民が良い成績を残せるように茨城県民が一つとなつてたくさん応援していきたいと思っています。

このように茨城県には数え切れないほどの魅力があります。私が毎日美味しい魚、お米、野菜を食べられていること、外に出ればたくさんさんの緑に囲まれてきれいな空気を吸えること。夜には空に輝く無数の星が見えること。当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったことなど改めて感じることでできました。これから大学、就職で茨城を離れるときがくるかもしれませんが。茨城に住んでいる間に今よりもっと茨

城の良いところをみつけていきたいです。私はたくさんの人に「茨城は私の自慢のふるさとです。」と胸を張って言いたいです。大好きな茨城県を大切にしていきたいです。

介護福祉士を目指して

茨城町立明光中学校 三年 石 田 彩 華

私は、この夏休みに高校訪問をして、高校体験学習をしました。普通科ばかりでなく看護科、家政科、福祉科など様々な専門分野のある高校を目の当たりにして、もう一度自分の進路について考えてみました。

小学生の時に総合の授業で、福祉について学びました。その授業の中で、お年寄りの介護のことに興味を持ちました。老人ホームではお年寄りとおれ合ったり、「ソーラン節」を踊ったりして盛り上がり、おじいさんやおばあさんがとても喜んでいたことを覚えています。

このような経験を通して、感じたことがあります。それは、お年寄りは人と話したり、ふれ合ったりすることが好きだということです。私たちが踊る「ソーラン節」をおじいさんやおばあさんは夢中で見ていました。また私たちと話をしている時も、とてもにこやかで楽しそうにしていました。

日本は、少子高齢化が進んでいるというニュースをよく耳にします。私の家にも、七十歳を過ぎた祖母がいます。私の祖母は、物を大切にします。例えば、食べ物は絶対に無駄にしないし、服も、

「どうせ畑仕事して汚れるんだから。」

と言って、ボロボロの服でも長く大切に使っています。もし、私だったら、嫌いな食べ物を残したり、お腹がいっぱいになったら、

「もう食べられないから。」

と言って、捨ててしまいます。また、服も、

「破けちゃった。新しい服を買おう。」

などと言って、新しいものをどんどん買ってしまうです。でも、祖母は全くそんなことはありません。そのかわりに、お金を自分のためではなく、私のために使ってくれます。実は、私の制服もジャージも祖母が買ってくれたものです。そうやって、自分よりも人のことを考えて行動できることに、私は感心しました。

どうして祖母は物を大切にしたり、人のことを一番に考えて行動できるようになったのでしょうか。それは、終戦後の物のない時代を経験した中で、物を大事に使ったり、人と助け合っていたからだだと思います。その頃は食べる物も少なく、お金も全然ない時代だったそうです。

このように、私たちがお年寄りから教わりたいこと、教わらなければならぬことはまだまだあります。なぜなら、便利になっっている世の中で私たちの忘れかけていること、私たちの気付かないでいることがたくさんあるからです。

私は、地域のお年寄りや祖母に見守られてここまで成長しました。今は、地域に住んでいるお年寄りに、あいさつを明るくする、ということを中心にしています。登下校の時など畑仕事や犬の散歩をしながら見守ってくれている地域の皆さん

に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は将来、お年寄りが好きなので介護福祉士になりたいです。私は幼いことから祖母が大好きでした。そんな祖母も最近では、腰痛がひどく、腰をかがばって歩くせいか少し小さくなった気がします。そんな祖母の世話を、私がしたいと思ったのが、介護福祉士になりたいと思った一番の理由です。そして、お世話になった地域のお年寄りに、今度は私が恩返ししたいのです。介護福祉士は、高齢者に生きがいを持って安心した生活を送ってもらうために、とても重要な仕事だと思います。人を思いやる優しい気持ちがあれば、できない仕事です。そうしなくては、お年寄りを安心させてあげることができません。私は、思いやりの気持ちを持つ人間になるために、今、自分のまわりにいる人間関係を大切にしていきたいことから始めたいと思います。

そして、立派な介護福祉士になって、一生懸命働きたいです。

いばらきと私

茨城県立水海道第一高等学校 一年 大島のう

あなたは将来何処で働きたいですか？大都市に出て、好きな仕事をしたと考えていますか？私の友達、何人かに将来何処で働きたいかを聞いたところ、ほぼ全員が東京で働きたいと言っていました。テレビでやっていた全国の魅力ランキングでは、茨城県はいつも最下位など下の方の順位です。イ

ンタビューされた人達は、田舎だらけで住みたくない、自分から住もうと考えたことは一度もない、綺麗な場所がなさそう、と答えていました。私はそうは思いません。私も小さい頃は大都市の東京で働きたい、という考えは持っていました。が、今では自分のふるさとの茨城で働きたいと思うようになりました。

私には小さい頃からの夢があります。それは学校の先生になることです。小学生の誕生日プレゼントに黒板を買ってもらって先生のものまねをしていたのをよく思い出します。ちなみに、小学生の時は小学校の先生になりたいと思っていましたが、今では中学校の先生になりたいと思っています。

私がどうして茨城県で働きたいと思ったのか。それは家族の影響や、茨城県の自然の豊かさ、伝統文化、産業にあります。父は茨城県警で茨城県のために働いており、母は音楽講師として小さい子から大人まで音楽を教えています。兄は大学生で将来茨城県で働くための勉強を毎日頑張っています。今まで家族が頑張っている姿を見ってきました。私は家族のことが好きなので私も近くで一緒に働きたいと思ったのがその一つです。

二つめの理由が、私の回りにある自然です。私の家の近くには日本で二番目に長い川の利根川が通っています。川は時に寛大な被害をもたらしますが、穏やかな天気の時川の流れるはとも緩やかで見ていると落ち着きます。体を動かすときに利根川の近くの土手を歩いたりするのですがとても癒されます。また、自然が豊かなため、春夏秋冬それぞれの季節にあった風景が楽しめます。春なら桜、夏なら蒼く染まった

緑色の葉、秋なら紅葉が見られ、冬なら幻想的な技が見られます。学校に通うとき、周りの景色を見ながら通うと、将来もこの景色を見られたらいいなと思うときがあります。そのような春夏秋冬それぞれの景色を見ることができるのは、どこの地方でも当たり前のように思われがちですが、私はその場所、その位置の姿のまま見られたらいいという考えを持っています。

もう一つは、私の近くに八坂神社という神社があり、そこで行われる祭りがもの凄く好きだからです。みこしが担がれ、みんなが騒ぎ、屋台を楽しそうにまわっているのを見るたびに夏だなあとしみじみ感じます。祭りで担がれるみこしは、いつも祖父母と一緒に見ます。祖父母の家の近くに八坂神社があるので家の前をみこしが通ります。それをみんなで眺めるのが昔からの風習になっています。祖父母は二人とも八十歳を越えています。あとどれくらいこの光景を一緒にいることができるのだろう、と考え胸が苦しくなる時があります。けれど私がおばあちゃんになって、孫ができたらし一緒に見たいと思えるような思い出の光景です。

産業もとても盛んで、茨城県といえばやはり納豆でしょう。私は納豆が大好きなので他県のお店で茨城の納豆が売られているのを見るととても嬉しくなります。アンコウ鍋は茨城県の特産品です。生まれて一度も食べたことはありませんが凄く興味があります。是非今度食べてみたいと思いました。料理にするととても美味しいピーマンやレンコン、みんなから人気のメロン、大人が好きなビールなど全国一位の出荷量を誇っています。以上がその理由です。

私がもし大学生になって教育学部に入り、教育実習を行うことになったら、自分の卒業した中学校に行き、自分の学んできた勉強を教えたり、茨城県の良さや魅力を伝えたいと考えています。そうすれば少しでも興味を持ってくれた子が茨城県について知ろうとしてくれるかもしれません。

皆さんの周りには、大人になっても思い出せるような場所や景色がありますか。私は今、この作文を書き、再度自分のふるさとや家族のこと、将来のことを改めて考えることができました。私にとって茨城県とは自分の大切な故郷であり、大好きな家族がいるとても温かい場所です。大学が茨城県ではない所に通うことになっても、もう一度茨城県に帰ってこようと思います。そして茨城県の良さを次へ次へと伝えられたいと思います。

すきなまち

茨城県立水海道第一高等学校 一年 鈴木 柚 南

私の生活は、ご飯が中心となって回っている。昼ご飯を樂しみにしながら授業を受けて夜ご飯を樂しみにしながらバスで帰宅し、朝ご飯を樂しみにしながら寝る。どんなことがあってもご飯があるなら毎日元気に過ごせると思う。

私を支えてくれるご飯は、母や祖母が作ってくれる。その中でも特に、野菜で作ってくれるきんぴらごぼうとか、サラダが好きだ。小さい頃、私は野菜がとても嫌いだった。理由は、野菜には味がない、苦い、すっぱいなどあまりおいしく

ないというイメージを持っていたからだ。でも、父の言葉で私は野菜にチャレンジした。

「野菜も食べなくちゃおいしいかおいしくないかは分からないよ。食わず嫌いはよくないよ。」

そう言われ、お皿の上のトマトを少しだけかじってみた。するとそれは思ったよりもすっぱくない、おいしいと感じた。前までのトマトのイメージが消えていった。自分でも食わず嫌いはやめようと思った。それから、レタスも食べてみた。ドレッシングをかければいろんな味が楽しめる。私は野菜を食べられるようになって、バランスの良い食生活を保てていると思うし、食卓にいる時間が増えて家族との会話が増え、食事することの楽しさが少し分かってきたような気がした。

母は毎回、スーパーへ行っておかずなどを買うとき、野菜を買っていないことに私は気づいた。八百屋さんもないのに、どこで野菜を取り入れているのか。

ある日、

「近所の○○さんからこんなにごほうもらっちゃった。」

と、祖母が大量のごほうをもってきた。そこで私は納得した。私の毎日食べている野菜たちは近所で農家を営んでいる人たちや、祖母が自分の畑で育てたものが使われていることをだ。レタス、ごほう、かぼちゃ、ピーマンなど農産物がさかんなので、たくさん種類の野菜が獲れる。私の家の近くにコンビニは一店舗しかなく、畑や田んぼばかりに囲まれているので私は不便だなと思ったこともあった。しかし、その分多くの農産物が収穫されているので毎日あたりまえのように野菜が食べられる。その面で私は恵まれているなと思った。

私のまちは、耕地面積率が茨城県内のものと比べてもはるかに高い。そこではたくさん農作物が育てられている。特にネギやレタスなどがさかんである。農作物にも恵まれている。

また、景色や空気が良い。心がおちつくという意味では、有名な観光地よりも私は好きだ。特にすばらしい景色とかではないけど、おちつく感じが良い。学校の帰りに悩み事があるとき、空を見てたら少し前向きな気分になれる。映画の中にいるように感じた。周りは畑だから、家があまり建っていない。そのため、鼻歌をうたいながら帰れる。電車が通っていないので、普段は出かけづらくて便利ではないけれど、おそらく電車が通ってしまったら、今までなかった数の住宅や電灯、お店、犯罪も増えてしまうと思う。

そうになると、まわりの畑や田んぼや森林は今のまま残っているのだろうか。

私は帰っている途中、畑に立っている旗を見た。農地をなくしてはいけないという内容だったと思う。もしかしたら、この畑は少しずつぶされてしまうのだろうか。電車や施設が増えるのはうれしいが、近くの人たちの反対や、地域に環境をなくしてまでつぶす必要はないし、家に農作物をおすそ分けしてくれる近所の人たちの気持ちを考えると、それは私も反対だ。

だから、私はこれからもこのままの景色でいてほしい。

茨城県でとれる新鮮な野菜や産物が、私たちにとってとても役に立つことが分かる。もしも自分の子供ができたとしたら、食わず嫌いはさせずに、野菜を毎日食事に出そうと思う。

また自分の食生活がかたよらないように母や祖母が作らなくても、元気に過ごせるよう、バランスのとれた食事を保てるように努力したい。でも私には課題がある。それはピーマンが食べられないことだ。何度食べても好きになれない。食べられるようがんばろうと思った。

私のまちでは、豊かな農作物がとれる他に優しい農家の人、好きな景色と空気がある。私にとって、おちつく場所であり、毎日が楽しく感じている。ここに生まれてきてよかったなと思った。私が大人になったとき、このまちで住んでいるか分からないうけど、また戻りたくなるような場所である。

私の家族

大成女子高等学校 一年 田 所 陽 奈

朝の四時半、目覚まし時計が鳴る。

私の家の一日は、ここから始まるのである。私の家族は、母と、弟と、私の三人家族だ。人数は少ないけれど、とても明るくて、賑やかである。

母を紹介すると、母は女手一つで働किながら、私と弟を育てている。父がいないので、父親の役もこなしてくれている。朝四時半に起きて、私のお弁当を作ったり、自分の支度をしたりして慌ただしく五時半に出かけて行く。母の仕事場は、牛井屋さんである。そこで店長代理という立場で働いている。人を採用したり、新人に教育したり、お客さんの対応をしたり、かなり忙しい毎日で、とても大変だといつも言っている。

でもお客さんに、「ごちそうさま。」と言ってもらったり、新人が仕事ができるようになったりすると、嬉しかったり喜びを感じたりするから、仕事は、辛くても、やはり楽しいと話してくれる。仕事ではしっかりしているように見える母も、家ではおつちよこちよいで、かなり天然だ。家に帰ってきてからも、座る間もなく夕飯の仕度や洗濯をしたりして動いている。休みの日は弟の野球の試合を見たり、私のコンクールを見たりして楽しんでいる。そういう人だ。

弟は、中学一年生。部活は生まれて一度もやった事のない野球をやりたいと言って、野球部に入部した。小学校は家から約百メートルの所にあり、近かったが、中学校は少し遠い。毎日歩いて行ったり帰ってきたりするのが少し大変そうだ。休みの日も部活があり、とてもいい先輩や同級生に囲まれて、毎日充実しているようだ。楽しくて仕方ないとよく言っている。自分も思い返してみると、中学一年の時はとても楽しかった。苦手だと言っている勉強も頑張つてほしい。まだ決して上手だと言えない野球も、毎日一生懸命練習して、上手になって試合で活躍する姿を、母と私に見せてほしいと願っている。二年後は、受験生。やる時はやる、そんな弟に期待している。反抗ばかりするが、根は優しい。弟はそんな人だ。

私は、高校一年生。中学生の時に初めて、吹奏楽を始めた。三年間必死に練習して頑張った結果、特技推薦という形で高校に入学した。部活はほぼ毎日、休みの日もとても忙しい。疲れた顔して家に帰って家族に心配される事が多々ある。母がいない時は、代わりをつとめなければいけない。でも嫌いではないから、苦にはならない。弟の面倒も小さい時から見

てきた。ミルクを作ってあげたり、おむつをかえてあげたりした。今もご飯を作ったり、洗濯したりそうじしたり、やっている。いずれは私も結婚して、人の親になった時、困らないように、という思いで日々、頑張っている。つい、カッとして弟とケンカをしてしまう事もある。自分で言うのも何だが、手先が器用なので、細かい作業が好きである。何かを作ったり、小さい子供も大好きなので、将来は保育士になるのが夢だ。そのために日々頑張ろうと思う。

私の家族は日々、いつも笑いにつつまれている。母や弟と大ゲンカをして泣いたりも、するが、一日で仲直りする。ケンカするほど仲がいい。これはまさにこの通りだと思う。私の家族はみんな寝ると、次の日には、いやな事は全て、忘れてしまう。それでリセットをしているから、立ち直りも早いのだ。私にとって家族とは空気のような存在なのである。いつもそばにいて、何かあった時は、相談に乗ってくれる。体調が悪い時は、介抱してくれる。泣いている時は、なぐさめてくれる。悪い事をした時は、本気で怒ってくれる。一緒に笑ったり、一緒に泣いたり出来る家族がいるという事は、とても幸せな事だと思う。だから私は、家族に心配をかけたり、迷惑をかけたりしないように、大切にしなければいけない。これからも、一緒に話し合って笑いの多い生活が出来たらいいなと思う。

故郷の祭り

茨城県立下妻第一高等学校 二年 大川 真輝

私が住んでいる筑西市では、毎年七月末から八月にかけて夏祭りが行われる。その中でも七月末に四日間行われる下館祇園祭が私は好きである。最初の三日間は下館駅前で、近所の道路はすべて歩行者天国となり盛大に行われる。最後の日には川渡御といい、勤行川で神輿についた穢れを川に流すのだ。筑西市の住民にとってこの行事は、「夏の風物詩」といえる大きな行事である。楽しみにしている人も多い。

私はここ何年かは毎年見物しているが、人々が一体化しているような気がするのだ。神輿を担ぐ人、運営に携わる人、屋台の売り場主、そして見物客。四日間、一体となってその行事に携わっている。また最後の日には、神輿が川に入るため、神輿を担ぐ人も必然的に川に入ることになる。このように、下館祇園祭という行事を通して、様々な立場の人が一体となっているように感じる。また、休憩場として、観衆は下館美術館（アルテリオ）を利用するのだが、そこも遅くまで開いている。係の人とも協力している。このように、陰で支えている人もいる。また、祭りに行く観衆もそれを支えていると思う。観衆がだんだん少なくなってしまう、この下館祇園祭にかかわらず、どんな行事も廃れてしまう。これは自明の理である。しかし、下館祇園祭には、毎年多くの見物客が訪れる。私は、今現在の様子では「廃れている」とは全く思わない。

子供たちも大人に交じって神輿を担ぐ日が、祇園祭の三日目「わっしょいカーニバル」になる。私はこれを見たとき、「子供が神輿を担いでいる。すごい。」と、私にはそのような経験がないため、思わず驚いてしまった。子供たちも参加することによって、「行事の楽しさ」を理解させ、将来、引き継ぐ人材を育てるのだろうか。誰か引き継ぐ人材を育てなければ、後継者不足となってしまう、昔から続いてきたこの行事がなくなってしまう。また、子供の時に参加して、再び大人になってから参加する人もいる。そうになると、とても感慨深いものが味わえると私は思う。三日目には筑西市以外の団体や、県外の団体も参加して大神輿を担ぐ。私はいい取り組みだと思う。なぜなら、何かのきっかけで今後、下館祇園祭に行ったり、運営したりする機会があるかもしれない。そのようなどきに、「以前、神輿を担いだ」という事が思い出される。楽しかった。もう一度行ってみたい、参加したいと思うことができるからである。また、今以上に告知すれば、行ってみたいと思う人が増えて、さらに多くの人が訪れるかもしれない。そうすれば今以上に活性化して、担う人が増えることにつながる。

下館祇園祭という楽しい行事でも、今後のことが心配となる。この素晴らしい行事をずっと未来まで、やめることなく引き継いでいってほしいと思う。今の日本では、過疎化が問題となっている。一つの行事における動員数も、地方の行事では減ってきている。進学や就職を機に、筑西市を離れる人もいるのが現状である。そのようなときに、このような行事をきっかけとして戻ってくる人が現れたら、とてもよいこと

だと思う。

魅力を発信することも、動員数を増やす重要な方法である。明治時代に作られて、今もなお残る「明治神輿」がある。それは、この行事が長く続いてきたことを物語っているような気がする。また、毎年担ぎ出される神輿としては、日本最大級の「平成神輿」もある。日本最大級とだけあって、とても大きく、間近で見ると迫力がある。私は毎年見るのが見るたびに、「大きくて力強い神輿だ」と感じる。

祇園祭にかかわらず、観衆が実際に参加する行事もある。灯ろう流しは、その一つである。これも大人から子供まで参加している。灯ろうに何か描いて、勤行川に流す。実際に流すことができるため、多くの人が参加している。「下館盆踊り大会」もある。アルテリオ前で、実際に踊ることができる。こちらでも人気が高い行事である。川島地区では花火大会も行われる。美しい花火が夜空に上がって、咲き乱れる。観客は多く、こちらも「夏の風物詩」である。

このような行事がさらに活性化されて大きな行事となり、見る人が増えれば、なくなってしまう心配はないと思う。そのためには市内だけでなく近隣の市町村にも広めることが、来場者数を増やすにはとても重要な手段である。私はこの行事がますます発展することを願ってやまない。なくなることなく後世に残る、すべての筑西市民が自信と誇りをもつて語れる行事となることを切に願う。

茨城の誇り

茨城県立水戸第三高等学校 二年 大平 夢 叶

私には、今年百歳を迎える曾祖母がいます。曾祖母は歳とともに記憶が曖昧になっていく為、会いに行っても一瞬で私のことは分かりません。けれども、

「おばあちゃん、夢叶だよ。」

「大きくなったね、いくつになったの。」

と、会話を交わします。小さくなっていく身体をいっぱいに使って身ぶり手ぶりで、顔をくしゃくしゃにして笑いながら、そして時々何かを思い出したように涙ぐみながら話す曾祖母です。そしてこの会話から始まるひと時が、私は大好きです。

曾祖母は茨城で生まれ、茨城で育ちました。楽しい時も苦しい時も、この茨城で過ごしてきました。もちろん、戦争も経験しています。戦争という辛い経験を乗り込め、曾祖母が今こうして生きているのは茨城にしかない、かけがえのないものをたくさん吸収しているからこそなのではと私は思っています。自然も食べ物も、とても豊かなもので溢れている茨城。三大名園の一つとされている水戸御三家の偕楽園。色とりどりの花に囲まれた美しい海浜公園。れんこんやメロンなど日本一の生産をほこる食材。まだまだ自慢出来る所がたくさんあると思います。私の曾祖母のように健康で長生き出来る秘訣や、楽しく生きる為に必要なことが茨城には、たくさん詰まっています。

しかし、魅力度が最下位なのはなぜでしょうか。たしかに

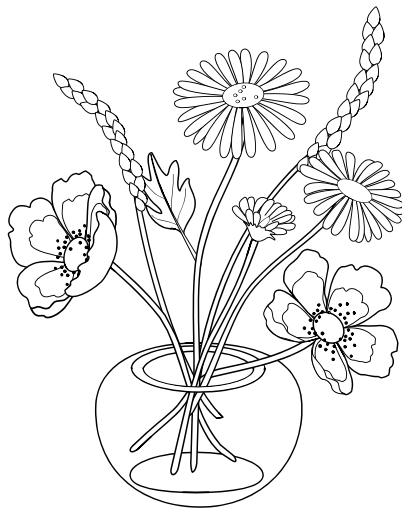
他県と比べると田舎っぽいイメージがあると思います。若者には、魅力がないかもしれません。また「だっぺよ」などの方言も強く感じられる言い方です。実際私も茨城に住んでいなかったらと考えると、茨城に対して良いイメージは持っていなかったと思います。「だっぺよ」は日常的に使われることが度々あります。方言を持つ田舎ならではの、人の良さを表現出来る一つだと私は思います。夜、家の前の田んぼ沿いには、ホタルが飛んでいます。暗やみの中を点々と光るホタルはとてもきれいです。自然が豊かだから、ホタルを見ることが出来るのです。何気ない小さな出来事の中にも、茨城らしさがたくさんあるのです。最下位と決めるのは、あくまでもイメージであり、本来の良き姿を少しずつでも知ってもらいたいと思いました。

私の家の前にはたくさん田んぼや畑が広がっています。曾祖母や祖父の世代の人達が汗水流して農作業に取り組んで来ました。最近の東京は超高層ビルが建ち、スカイツリーが出来て、激しく変化しています。ビルとビルが窮屈に並び合っています。それとは正反対に、茨城は、のびのびとした広大な土地が広がり太陽の光を十分に吸収出来て、農作物が健康に育ちます。私の母が子供の頃曾祖母は、テニスコート一面位の大きさの畑で毎日夜菜を作っていたそうです。四季折々の野菜は美味しく、ほとんど購入することなく畑の野菜で済んでいたそうです。母が小さい頃は自転車に乗り、曾祖母の畑にお茶を運び一緒に休憩したり色んな話をしていたと感慨深く話してくれました。私が曾祖母の立場になった時も、田んぼや畑があり農作物で栄える茨城でいてほしいと思

います。

曾祖母は週に三回ほどデイサービスを利用しています。だんだんと家族の力だけでは生活出来なくなってきました。専門の人の協力を得て少しでも快適に過ごしてもらいたいと思う反面、曾祖母の気持ちと若干複雑になってしまいます。百歳を迎えより長生きしてもらいたいです。三十年と生きられません。どうしたら曾祖母の喜ぶ顔を見られるのだろうかと考えてしまいます。茨城で生まれ育ってよかった、幸せだったと曾祖母が思ってくれたら嬉しいと思います。私達が元気で健康に生きていられるのは、祖父母や曾祖父母やその先祖のおかげです。昔は今のよう便利な道具はありません。その中で辛い戦争を乗り越えてきました。しかし、そんな辛い日々には打ち勝って今に至ります。

今度は私が曾祖母の為に、茨城の為に、これから生きていきたいと思えます。三年後には茨城で「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されます。のびのびとした広大な土地、体に栄養のある食べ物で選手を支えつつ、茨城をアピール出来ると思えます。また温かい応援や観光客へのおもてなしなど小さなことです。様々な交流を通して茨城の人柄の良さも伝わるはずです。このようなことが茨城を築いてくださった曾祖母世代への恩返し、そして今後の茨城の発展に大いに繋がっていくと思います。茨城で生まれたこと、育っていくことを誇りに持って生きていきたいです。



ぼくのおじいちゃん

結城市立城南小学校 一年 杉 山 隼 斗

ぼくのおじいちゃんは二つのかおをもっています。

一つめは、おはなやさんのおしごとのかおです。いつもきれいなおはなにかこまれておしごとをしています。たんじょうびのひとはなたばをつくったり、おはかまいりにいくひとは、いろいろないろやかたちのおはながあって、おきやくさんのちゅうもんによつてうるおはながちがうとおしえてもらいました。

二つめのかおは、からてのせんせいのかおです。ぼくはなんどかおじいちゃんがからてをおしえているどうじょうにれんしゅうをみにいったことがあります、おはなをうつているときはぜんぜんちがうひとにみえました。しろいどうぎにくろいおびをしめて、ぼくとおなじくらのこどもたちからてをおしえていました。こえがちいさいとか、うごきがおそいとかすぐきびしくおしえていました。ぼくはそれを見てとてもおどろきました。いつもやさしいおじいちゃんがちがうひとにみえましたが、とてもかっこよくみえました。でも、れんしゅうちゅうはきびしかったおじいちゃんもれんしゅうがおわるとみんなにやさしくこえをかけ、いつものお

じいちゃんにもどっていました。ぼくはそのとき、おじいちゃんに

「なんでれんしゅうちゅうはきびしいの。」

ときいたらおじいちゃんは

「からてはぶどうつていうんだよ。ぶどうはじぶんのからだところをきたえるものだからやさしくしてはじぶんにまけてしまふんだよ。はやとのけんどうもおなじだよ。」

とおしえてくれました。

いつもやさしいおじいちゃん。からてをおしえているおじいちゃんは、すぐかっこいいです。

たまにあえたなつ

土浦市立中村小学校 一年 石 川 理 人

ぼくはいばらきけんがだいすきです。ぼくはこのなつプールでおじいちゃんにもらった「きれいな虫ずかん」にのつていたたま虫をみつくてすぐおどろきました。虫かごがないのでおかしのはこにいれて、いそいでかえました。なまえはたまにしました。ネットやずかんでしらべると、えのきのはがだいこうぶつでさくらやケヤキのはもたべるとかいてありました。えのきはききではなく、こうえんやぞうき林にあることがわかり、ちかくのこうえんにさがしにいきました。でもさくらとちよつとあやしいはっぱしかみつかりません。かんりのおじさんにおねがいしてさくらをすこしらいました。でもたまはたべませんでした。こまつてしらべ

たら、つつにたまをいれてはでふたをすると、かじってそとにでるしゅうせいがあるので人のあげたはっぱをたべるとかいてあり、たまにもやってみましたが、たべずにうまくだっそうしました。はをたべないとしんでしまうのでぼくはしんぱいでしぜんにかえすことにしました。プールではえさがないので、みんなでいっぱいかんがえておかあさんのかいしゃのちかくの森にはなすことにしました。森にちかづくときたまはきゆうにげんきになって、虫かごの中をあるきはじめました。ぼくにはごきげんでおおよろこびしてるようにみえました。森にはいるとおおすじあげはやしおからとんぼなどたくさんのもしがいてたまもぼくもだいこうふんでした。ざんねんだけど、たまがおなかいっぱいたべられるといいなとおもいました。かいしゃにたま虫がきたとおかあさんにしゃしんをみせてもらいました。たまのともだちだったらひとりぼっちじゃないし、たまだったらごはんたべてるよとおしえにきてくれたのかもどちらでもうれしいです。虫がいっぱいいるいばらきけんにうまれて、ぼくはほんとうにラッキーです。

やさしいけいちゃん

稲敷市立高田小学校 一年 廣 田 心 美

「ここちゃん、いくよ。シートベルト、しっかりやってね。」わたしには、にじゅういっさいになる、としのはなれたおにいちゃんがあります。けいちゃんです。おとうさんとおかあさんができないときは、がくどうはいくやピアノのならいごと

のおくりむかえをしてくれます。

けいちゃんは、ずっと、バスケットボールをがんばってききました。わたしにも、

「なにかスポーツをしたほうがいいよ。スポーツは、こころがつよくなって、たいせつななかができるよ。」

といいます。けいちゃんには、たくさんのともだちがいます。わたしにもやさしくしてくれるともだちです。いいなあとおもいます。なにかはじめようかな、でもまだかんがえちゅうです。

けいちゃんは、かんごしになりたいといっただいがかよっています。ちいさいころからめんどろをみてくれた、おじいちゃんとおばあちゃんにおんがえしをしたかったのだそうです。でもいちねんまえにおじいちゃんはてんごくにきました。けいちゃんは、ずっとそばにいてないていました。いまは、おじいちゃんのぶんもおばあちゃんのめんどろをみるといって、まいにち、おばあちゃんのいえによってから、がっこうにいきます。そしておじいちゃんのぶつだんのまえで、ながいじかん、てをあわせています。なにをいつているのかちよつときになります。よる、ねないでべんきょうをしているときもあります。びょうきになったりじこにあったりしないかと、かぞくみんなでしんぱいしています。がんばっているから、ぜったいかんごしになってほしいです。みんなでおうえんしたいとおもいます。

やさしいけいちゃんは、わたしのくひょうです。じまんのにおにいちゃんです。

お兄ちゃんのキャラベン

高萩市立秋山小学校 二年 宇佐美 七海

「あした、ぼくがキャラベンを作ってあげるよ。」

と言って、お兄ちゃんは、れいぞうこをのぞきこみました。

あしたは、夏休みさいしょのじどうクラブの日で、おべんとうをもつていくことになっています。わたしは、お兄ちゃんが、どんなキャラベンをつくってくれるのかなとワクワクしました。

あさおきて、かいだんをおりて行くと、いいにおいがしました。お兄ちゃんが、

「キャラベン、もうできたよ。」

とにこにこしながら言いました。わたしは、おべんとうの中がとても見てみたかったけれど、がまんしました。今見てしまったら、楽しみがなくなってしまうと思ったからです。

じどうクラブのお昼の時間になりました。

わたしは、ドキドキしながら、おべんとうはこのふたをあけました。それは、お兄ちゃんがマジにしている、さるのぬいぐるみのキャラベンでした。茶色のところは、しょうゆごはん、かおと耳のぶ分はしおごはんでした手はうずらのたまごでした。それから、わたしの好きなウインナーとブロッコリーも入っていました。

「わあ、かわいいね。いいなあ。」

とお友だちが言いました。わたしは、よろこんで、ほかのお友だちや先生にも、キャラベンを見せました。

たべるのがもったいなかったけれど、一口たべてみました。とてもおいしくて、うれしくなりました。

家に帰ってから、お兄ちゃんに、

「おべんとうおいしかったよ。ありがとう。」

と言いました。

こんどは、わたしが早おきをして、お兄ちゃんにおべんとうを作って、よろこんでもらいたいです。

わたしのゆめ

笠間市立友部小学校 二年 須藤 美音

「はる音は、わがままで、何もひとりでできない。もつと、しっかりしなさい。」

と、言われているわたしのゆめは、かんごしさんになることです。

わたしのお母さんは、前、びょういんにつとめていました。入いんするかん者さんのお世話をするしごとをしていました。しごとから帰ると、その日のしごとの話を聞かせてくれました。それは、お母さんが、かん者さんにしごとでやさしくすると、かん者さんや家ぞくの人たちが、かならず、

「ありがとう」

と、言ってくれる話でした。

その話を聞いて、わたしは、なんだかとてもうれしくなりました。それは、お母さんのやったしごとに、かん者さんや家ぞくの人たちが、「ありがとう。」と、いつてくれたこと

が、わたしもうれしくなったからです。

びょういんではたらくしごとは、みんなから、かんしゃされるしごとなんだなと思いました。だから、わたしも、びょういんではたらく人になりたいと思いました。

わがままで、何でもおかあさんやおねえちゃんにやってもらうわたしだけれど、がんばって、かんごしさんになれば、わたしも、みんなに「ありがとう」と、言ってもらえるかも知れないと思い、かんごしさんになりたいと思いました。

おばあさんにそのことを話すと、おばあさんが、

「かんごしさんは、むかしから、（白いの天し）と言われて
いるんだよ。」

と、おしえてくれました。わたしは、ますます、かんごしさんになりたいと思いました。だって、自分のしごとが、みんなから「ありがとう」と、かんしゃされるだけでなく「白いの天し」なんてよばれるなんて、とてもすてきじゃありませんか。わたしのゆめです。

大すき！お魚

北茨城市立大津小学校 二年 大山 詠 士

ぼくの町は、おいしいお魚がたくさんとれます。ぼくはとくに、しらすと目盛り、あんこうが大すきです。

ぼくのお父さんは、水さんか工のしごとをしているので、しらすぼしやめひかりのひものを作ります。

しらすは、大きなながしそめんのようなきかいでゆで、

せいろにひろげてほします。しらすが、白いじゅうたんのようにキラキラ光ってとてもきれいです。ぼくも、しらすをはこにつめるとき、手つだいをします。手つだいながら、できたのしらすをつまみぐいすると、さいこうにおいしいです。目盛りは、ぼうにさしてから、しお水につけて、それからほします。お母さんが、目盛りをやきはじめると、いいにおいがしてきてぼくはすぐにたべたくなって、そわそわします。たべるとかわはパリッと、中はふわっと、とてもおいしいです。

あんこうは、おじいちゃんがどぶろくを作ってくれます。水を入れないで作るので、あんこうのあじが、口いっぱいひろがって、何ばいでもおかわりをしたくなるおいしさです。このお魚のおかげでぼくはいま、元気にはじたり、べんきようしたり、みんなとあそんだりできるじょうぶなからだとです。ぼくの大すきなお魚を、もつともつとたくさんの人にたべてもらい、おいしさや、この町のいいところをしってほしいです。

はこしまゆうすい池のおきにいりのこと

筑西市立嘉田生崎小学校 二年 富田 葉 月

わたしは、はこしまゆうすい池がだいすきです。はこしまゆうすい池には、大きな池があって、さんぽができます。わたしの家からすぐちかくなので、小さいときから家ぞくよくあそびに行っています。春、夏、あき、ふゆとたのしめます。

春は、さくらとなの花がぜんたいにさいて、花見をしなからおべんとうをたべたり、さくらトンネルをはしりまわったりできます。春は、さくらのピンクとなの花の黄色がとてもかわいいです。

夏は、虫とりです。あさ早く行くと、かぶと虫やくわがたがとれます。でも、へびやはちもいるので気をつけます。きょ年、バタフライヤードで、ちょうやとんぼのことをおしえてもらって、めずらしいいろいろなちょうのことがよくわかって、とてもすごいのはっけんでした。虫とりは、たのしいです。あきには、さくらののはっぱがだんだんおれんじ色になっておちてます。きょ年、たくさんひろって、家にもってかえって、たいせつにもっています。

あきとふゆには、ダイヤモンドつくばがみえます。ダイヤモンドつくばというのは、つくばさんのま上から、おひさまがのぼって、ダイヤモンドみたいに光ります。池の水にもお日さまがキラキラうつってみえます。わたしはふゆのあさ早くに、さむいけど、みに行きました。キラキラ光ってすくまぶしかったけど、とてもきれいでした。また行きたいです。ゆうすい池は一年かん、たのしいです。ことしもたくさんあそびに行つて、いろいろなのはっけんをしたいです。

私のちかばあちゃん

龍ヶ崎市立馴馬台小学校 二年 甘利 光麗

ちかばあちゃんは、もうすぐ八十五才です。前は私の家で元氣にくらしていたけれど、今は「ろうけん」という、しせつでくらしています。「ろうけん」とは、体のぐあいが悪くなつて、家で過ごすことができないおじいちゃんやおばあちゃんが家に帰れるように、くんれんしながらすごすところだそうです。

ちかばあちゃんは、一人で歩いたり、おしゃべりをしたり、ごはんをたべることとか、おふろやトイレに行くこともできませんが、「かいごし」という、たくさんのお年よりをおせわをするひとたちのおかげで、気もちよくすごすことができます。ちかばあちゃんは、いつもだまっただままですが、それでも私がお見まいに行くと、ニコニコわらってくれるのがとてもうれしいです。その時は、車いすをおしたり、体をさすったり、ごはんをたべさせたりと、いろいろお手つだいをします。そして、そのあとでいっしょにおやつをたべるのも楽しみです。

そこでは、ほかのおじいちゃんやおばあちゃんたちともなかよしになりました。みんなでジャンケンやおり紙をしてあそんだりして、帰る時には「もう帰るのかい？また来てね。」といつまでも手をふってくれます。だから、私にはべつのおじいちゃんやおばあちゃんがいるような、ふしぎなかんじがします。

この夏休みのおわりに、私は「ろうけん」の夏まつりに家ぞくで行ってきました。たくさんのおみせが出て、やきそばやわたがし、かきごおりをたべました。そして、夕がたには「かいごし」さんたちでおどるソーランぶしがはじまり、ちかばあちゃんといっしょに見ることができました。少しの間でしたが、とても楽しかったです。いつか、ちかばあちゃんが家に帰って来て、またみんなでいっしょにくらせたらいいなと思います。私はちかばあちゃんが大すきです。

わたしのかぞく

日立市立河原子小学校 三年 叶 野 絢 栞

「おかえり。」

学校からわたしの家への帰り道におじいちゃんの家があります。わたしが小学校へ入学してから、いつもおじいちゃんがわたしの帰りをまち、と中までむかえにきてくれていました。

しかし、二年生になってからは、おじいちゃんがむかえにくることがなくなりました。びょう気で体の右半分が動かなくなり、びょういんに入いんしてしまったからです。

長い入いん生活が終わり、おじいちゃんは家に帰ってきましたが、体の右半分は動かないままでした。

そのため家族で、おじいちゃんをささえることになりました。お母さんがおふろに入れたり、おばあちゃんは、おじいちゃんが食べやすいようなりよう理を作ったり、いっしょに

歩いてトイレへ行ったりしています。わたしと妹もおじいちゃんにしている事があります。それは、おじいちゃんをわらわせる事です。

自分で体が動かせない事や体がいたいことで、おじいちゃんとは、つらい顔をすることがあります。そんな時、わたしは妹と二人でへんな顔をしたり歌を歌ってあげたり、かたをたいてあげます。すると、おじいちゃんはとてもよろこんで、声を出してわらってくれます。

わたしは、おじいちゃんをおふろにいれたり、りよう理を作ったりする事はできませんが、お母さんの手つだいができるようになりました。お母さんとはとてもよろこんでくれます。

わたしはこれからも、家族がよろこんでくれる事をしていきたいです。家族がよろこんでいるすがたを見ると、わたしも幸せな気持ちになるからです。「おかえり」と、今ではおじいちゃんの声の家の中で聞いています。

西ノ内わ紙「紙のさと」をたずねて

常陸大宮市立大宮西小学校 三年 寺 門 利理菜

去年、わたしは、西ノ内わ紙のすき絵体けんをしました。紙にふつうに絵をかくのとはちがつて、わ紙に絵をかく時は、はり金のついたぼうやスポイトのような物を使ってかいたので、とてもむずかしかったです。でも、しあがった紙を見ると、やわらかい、温かいかんじがして、とてもかん動しました。

その体けんをきっかけに、わたしは、もっと西ノ内わ紙のことが知りたくなり、今年のそう合学習で調べることにしました。そして、夏休みに、わたしがすんでいるひたち大みや市にある「紙のさと」のかん長であるきく池さんにお話を聞きに行きました。わたしが話を聞いて一番おどろいたことは、わ紙が千年い上も前から作られていたことと、その紙を使って、ちょうちんやからかさなどたくさんの物を作っていたということです。とくに、ぼうかん具やくすりを入れるふくろなどは、紙にこんにやくをぬって、さらにじょうぶにして使っていたと聞いて、びっくりしました。

また、心にのこったことは、西ノ内わ紙が日本さい高品と言われていることです。紙の原りようであるこうぞをさいばいするのにおくくじの温どはちようどよく、より細く、短いせんいを作り、そのせんいがよい紙を作り出してくれるそうです。わたしは、ひたち大みや市で、日本さい高と言われるわ紙が千年い上も前から作られていると知り、とてもほこらしい気持ちになりました。

わたしは、帰りに店内を見てまわり、わ紙で作られたペーンケースを買いました。赤い色が気に入ったのですが、実さいに試してみると、とてもやわらかく、使いやすいくかんじました。大切に試つていきたいです。今回「紙のさと」をおとずれて、西ノ内わ紙のすばらしさを知り、わ紙を身近に感じる事ができました。友だちにもつたえたいです。

霞ヶ浦をきれいにしてみ力度アップ！

石岡市立三村小学校 四年 津 賀 秋 帆

わたしが住んでいる茨城県は、み力度ランキングのじゅん位がいつも最下位であるとテレビで話していました。

茨城県には、生産量が全国で一位になるようなおいしい野菜や果物、お肉もあるし、筑波山や袋田のたき、五浦海岸や霞ヶ浦など、観光地となる美しい自然もたくさんあります。それなのに、み力度ランキングでは、いつも最下位なのか、とても不思議に思いました。

わたしは、石岡市に住んでいます。近くに霞ヶ浦があつて、その周りには、水田やハス田が広がっていて、霞ヶ浦のゆたかな水のめぐみを受けているのだと感じます。

四年生になって、湖上体験学習がありました。わたしたちは船に乗って、湖の真ん中まで初めて行きました。船が止まると、水しつ調さを始めると、霞ヶ浦の水はにごっていて生ぐさいようないやなおいがありました。

わたしは、茨城県のみ力が上がらないのはせつかくある海や山、湖などの観光しげんをさらに美しいものにして、よいところをみんなに知らせていかないかなのなかなと思ひました。そして、霞ヶ浦をもっときれいにすれば、茨城県のみ力を上げることができるのではないかと考へました。

湖上体験学習で、ビデオを見たり、先生の話を聞いたりして、湖をよごしているのは自分たちだということに気が付きました。だから、今の自分にできることをして、湖水よくが

できた昔のように、霞ヶ浦をきれいにしていきたいと考えました。

そのために、わたしが、家で実せんしていることは、食事の後に食器のよごれをティッシュでふきとることです。たった一てきのしょう油の汚れをきれいにするために、とてもたくさん水を使うと聞いたからです。これからは、学校でも給食の食器をきれいにふいてから返したり、食べ残しをしないようにしたりしたいです。そして、きれいになった霞ヶ浦に、たくさんの人たちが来てくれたらうれしいです。

霞ヶ浦では、ワカサギをとることができます。昔は、コイのようしよくもさかんだったそうですが、水のよごれが進んで、今は、ワカサギも少ししかとれなくなってしまったそうです。わたしは、ワカサギのからあげが大好きです。水がキレイになって、水草がふえワカサギのすみかや卵を産み付ける場所がふえれば、ワカサギもふえて、たくさんとることができるようにと思います。

このように、霞ヶ浦がきれいになれば、来てくれた人たちは、きっと、やわらかくてあまいレンコンやぷりぷりのワカサギのおいしさ、観光帆びき船の美しさに茨城のみ力を見直してくれるようになると思います。

わたしは、これから自分のできることを続けて、茨城県のよさを一人でも多くの人たちに知ってもらえるようにしていきたいです。

ずっとなかよし三人組

筑西市立下館小学校 四年 小 島 悠 雅

ぼくにはようち園からなかよしの友達が二人います。もう七年の友達です。いっしょにいると落ちつくし、ふざけたり同じことでわらえたりします。

小学校とようち園がとりにあるので、ようち園のときの先生に会うと、

「三人がいっしょにいるすがたを見るとほっこりするな。」と言われました。ぼく達はせのじゅんも三人ならび、にているところがたくさんあったのでそのころはケンカをしたことがあります。

小学校に入って、みんなクラスがべつべつになってしまったとき、ろうかや休み時間しか遊べなくてさみしかったです。でも、三年生のクラスがえて三人が同じクラスになれたとわかったとき、うれしさのあまり声も出ませんでした。家に帰ってお母さんに伝えたとき、少しなみだを流したのおぼえています。

足が速くて頭が良いA君は、わからないところを聞くと教えてくれてとてもたよりになります。字がきれいで野球もがんばっていてすごいんです。どんなことにも一生けん命なところをぼくは見習おうと思います。

もう一人の友達のFくんは、いつも落ちついていて、人の話を聞いてまわりをみて行動していてきちんとしています。そして、自分よりも相手のことを考えられる人で、とてもや

さしいです。

そんなぼく達にも話さないときがありました。Aくんは、土日野球をしているのでいつも野球の話ばかり、ぼくは野球が上手ではありません。投げるのも打つのも得意じゃないし、足もおそいので楽しめなかったからです。おもしろい話じゃないから近くに行かないぼくをAくんはいやがられていると思ってしまうみたいで、おたがい他の子といっしょにいました。Fくんは変だなと思ったみたいでとても気にしてくれました。

一か月ぐらいたってから、Aくんと三人で話す時間ができました。最初はとめておくくて、なかなか言葉が出てこなかったけれど、目が合ったしゆん間ニコニコして、おたがいがどんな気持ちでいたのかを話すことができてなか直りができました。ホッとしたのはFくんです。どんなときも一しょにいた三人組がまた遊べる日がきたことをFくんが一番喜んでくれました。

友達だけど、相手の気持ちかわからないこともあるんだなと知りました。新しい友達ができることもうれしいことだけど、大事にしたい友達なのでこれからもずっとなか良しでいられたらなと思いました。

自然の恵み

北茨城市立関南小学校 五年 神 永 知 輝

ぼくの好きな食べ物は、メロンとなっ豆と玉子かけご飯です。メロンとなっ豆とけい卵は、茨城県が生産量日本一だということを知ったときは、本当にうれしかったです。

メロンは、ほこ田市に住んでいる親せきのおばさんが毎年送ってくれます。しゅうかくの時期が来ると楽しみでも待ち遠しいです。ぼくは、メロンの種類の中では、イバラキングというメロンが一番好きです。すごく甘くて、果肉がたっぷり、ジューシーだからです。イバラキングは、茨城のオリジナルの品種だそうです。夏は、アールスメロンを送ってもらいました。一株から一個しかできない高級品です。妹が幼稚園のころ、メロンをかかえて家の中を走り回り、床に落としてしまったことがありました。そのときぼくは、すぐにおこりました。ですの、今は妹のわからないところに大切に保管してあります。

次に、なっ豆は、ネバネバと栄養満点なので好きです。かしをたっぷり入れて、ご飯にのせて食べたり、なっ豆だけを最後に食べるのが好きです。モリモリ食べられます。なっ豆は、カルシウムの力で骨を太くし、健康にたもってくれます。胃腸のきんをバランスよくしてくれるので、なっ豆きんのおかげで消化がよくなるそうです。お母さんは、

「なっ豆は天然の胃の薬、ということわざがあるんだよ。」
と言って、胃の調子が悪いときに、なっ豆を食べています。

胃にやさしくて、きき目があるそうです。

玉子かけご飯の卵は、おばあちゃんがほこ田市の農園から、お取り寄せをしています。いつも生みたて卵がとどきます。黄身は大きく、おはしでつかむことができます。満月みたいに、オレンジ色の黄身でとてもこいあじで、おいしいです。玉子かけご飯に、しょう油をちよつとだけかけて食べるのもおいしいのですが、ふりかけをかけて食べるのもひと味ちがつておいしいです。いつもより早いペースでご飯が進みます。その卵でおばあちゃんが作った目玉焼きと玉子焼きも大好きです。色もあざやかで、フワツとしています。目玉焼きの黄身はお皿の上でプルプルとしています。

ぼくの好きな食べ物は、茨城の恵まれた自然の中で大切に育てられています。茨城は、海も山も湖も川もあります。これからも、たくさんの方の茨城の魅力を頭と身体にきゆうしゅうし続けたいと思います。とても楽しみでワクワクします。

私の家族と合言葉

結城市立城南小学校 五年 岩 崎 結芽里

「いつてらっしゃい。気をつけてね。」

「うん、いつてきます。」

私は何気ないやりとりが、できた後、家族っていいなっと思えます。なので、出かける時の送られる人、送る人の家族とのエピソードをそれぞれ紹介したいと思います。

私の家は、四人家族です。お父さん、お母さん、弟でくら

しています。

お父さんは、口数が少なく、話を落ち着いて聞いてくれるので、友だちの事などを相談するのは、最初はお父さんと決めています。

仕事の関係で、家を出るのが早朝や、深夜だったりするお父さんの「いつてきます。」は、もちろん返事はありません。それでも、必ずひとり言みたいにつぶやくそうです。それは、お父さんいわく（がんばつてくるよ。）の代わりだそうです。私はそれを聞いてから、自分が見送れる時は玄関をいっしょに出て、お父さんの車が見えないくなるまで力いっぱい声で、応えんするように見送ります。

「がんばつてね。いつてらっしゃい。」

そうするとお父さんは、うれしくてつらい仕事も、がんばれると言ってくれます。

三才年下の弟は、女の子にまちがわれる程かわいい顔をした、むじゃきな男の子です。ケンカして、くつついて遊んで、お母さんの取り合いをして。でも、私の相ぼうです。

私が宿泊学習へ出発した朝の弟は、元氣なただ手をふっていました。後でお母さんに聞いたのですが、私が帰らない日の夜弟が、

「お姉ちゃんいない。さみしい。」

と泣いてしまったそうです。それを聞いて、私は、ちよつぴりうれしく思いました。

（うまく「いつてらっしゃい。」が言えなかったのは、さみしい気持ちがあったからだ。）そう思えたら、弟が愛おしく感じました。

「大丈夫だよ。がんばれ、大丈夫。」

これは、うちのお母さんの口グセです。私は生まれつきスローペースで、何かで失敗するとすぐ落ち込んでしまう性格なので、いつもお母さんは私の背中をおしてくれたり、大事な言葉を伝えて見守ってくれています。

登校で、家を出る時も、必ず玄関の外で手をふってください。小学校に上がってから今まで、雨でも雪でもずっと変わりがありません。会社に向かうギリギリの時間なのに、車にも乗らないで、決まってこう言います。

「いつてらっしゃい。がんばろうね。」

時々ちよつとはなれた所から、お母さんを見てみると、まだうれしそうに手をふっています。私と弟は、くすつと笑って元気に学校に向かえるのです。

きっと世界中にこういう風景があつて、家族の優しさとか、安心を毎日感じることが出来るのかなと、思います。

だから一日の始まり、私の家族の合言葉は毎日「いつてきます。」から、始まります。

こんなにイイ所があるのにな

かすみがうら市立霞ヶ浦北小学校 五年 小松崎 大 翔

ぼくが住んでいるのは、茨城県かすみがうら市です。家の近くには、田畑が多くあり、緑がゆたかです。そして、日本で二番目に大きい湖霞ヶ浦もあります。漁業は帆びき船で知られています。かすみがうら市では、毎年四月に、かすみ

うらマラソンが開かれています。東京マラソンの次に日本第二位の規模の市民マラソンです。

茨城県は、野菜や果物の生産でも有名です。蓮根、セリ、ピーマン、卵、梨、栗、芋、メロンなど生産量一位の物もたくさんあります。加工食品などは、納豆や干し芋も多く作られています。その他県内には、アクアワールド水族館、国営ひたち海浜公園などのレジャー施設や筑波山、袋田の滝、水戸偕楽園のような有名な場所もあります。土浦市では、毎年十月に、土浦全国花火競技大会もあり、きれいな花火を見に多くの人がやって来ます。

そこで今回ぼくが気になった事は、どうして茨城県がワースト一位なのかです。食べ物も施設も充実していると思うのですが。調べたり、家族に聞いてみたりしたところ、交通の不便さが大きく関係しているのではないかと思いました。公共交通機関で行けない場所が多い事、路線バスの本数が減った事などです。車がないと行きたい所に行けないという不便さは、小学生のぼくでも感じます。その結果、施設が充実していても、駅から遠い、バスが出ていない、では、必ず車が必要となってしまう。

どうしたら人気が出るかをぼくに考えてみました。まずは、自分自身が茨城県のことをよく知り、好きになることが大切だと思います。そうすれば、きょう味を持った事をどんどん伝えて行く事ができるからです。そして観光に来てくれた人たちに気持ちよく楽しんでもらうために、自分の住んでいる所はもちろん、一人一人がそうじなどを積極的に取り組む必要があると思います。他には、小さな弟がいるぼくの

家でもそうですが、家族連れや、年齢層に合ったレジャー施設を組み合わせたバスツアーなどを企画してみたいと思います。食事ができ、遊べて、お土産が買える所に一度に行けたら、楽しみも増えると思ったからです。バスツアーなら、いつも運転をしてくれるお父さんにもゆっくりしてもらええると思います。バスを利用する事で自然あふれる茨城県の景色も見てもらいたいです。自然が多いからこそ、美味しい野菜や果物が育つ事にもつながっていると感じたからです。

自然を守り、良い所を広める活動などに、積極的に参加しながら、ぼくはこの茨城県で育っていききたいです。

大好きいばらき

北茨城市立中郷第二小学校 五年 鈴木 咲々

私が住む北茨城市は、茨城県の一帯北にあります。豊かな自然からとれるおいしい食材、北茨城ならではの焼きものなど有名な特産物がたくさんあります。また、北茨城市には、あんこうでも有名な大津港・平潟港があります。ここでは、サバ・イワシ・シラス・コウナゴなども水揚げされ、鮮魚はもちろん、干物やさつまあげなどの水産加工品も多く作られています。その中でも、あんこう鍋は平成二十六年築地市場で開催された鍋グランプリで見事グランプリを獲得したほどです。まだ食べたことのない人にも、ぜひ一度北茨城市に足を運んで食べに来てほしいです。私の住む北茨城市に限らず、茨城県はおいしい食材にあふれています。全国の中でもれん

こん、白菜、ピーマン、みずな、チンゲンサイなどが生産量上位の野菜として知られています。他にも、メロンやナシなどの果物も有名です。

みなさんは、茨城県という何を思い浮かべますか。

私は数ある食べ物の中でも、茨城県といえばやはり水戸市の「納豆」を思い浮かべます。納豆をあまり好んで食べない県もあると聞きますが、私は茨城県の納豆が大好きです。

しかし、茨城県は、残念ながら全国の人気投票で、あまり上位ではありません。同じ北関東と比べても、栃木県には日光、群馬県には草津温泉など全国でも有名な観光名所が数多くあります。私は茨城にも何か他県にはない観光名所がないかこの機会に調べてみました。すると、茨城県は「巨大な建築物が多い」ということに気づきました。水戸市にはこの地域に伝わる巨人伝説の「ダイダラボウ」に会える公園があります。その像は、高さ十五メートルを超え、なんと鎌倉の大仏よりも大きいそうです。そして、他にも高さ百二十メートルの「牛久大仏」や日本一大きな地蔵、日本一大きなシシがしら、水戸の町が一望できる「はに丸タワー」など巨大建造物も見ごたえがあると思います。

特に私のお勧めは、今では毎年開催されているROCK IN JAPAN FESTIVALの開催地、「ひたち海浜公園」です。「死ぬまでに行きたい世界の絶景」という本にも紹介されたほどのです。春には一面にネモフィラという青い花が広がる、みはらしの丘の光景はとってもきれいです。そして、秋には、丸くふわふわとしたコキアが真っ赤に紅葉するのです。他県に旅行などで行くと、思いがけず今まで知らなかった

食べ物や郷土料理などを知ることができたり、行かなければ分らなかった景色を見ることができたりします。茨城県に行ったことがない人にも、一人でも多くの人に茨城県の良い所を知ってもらえたら嬉しいです。

大好きいばらき

つくばみらい市立陽光台小学校

六年

佐賀

幹

ぼくは一歳半から茨城県つくばみらい市に住んでいます。つくばエクスプレスが通り、父の都内への通勤にも便利なので、引越して来たそうです。ぼくには茨城に来てからの記憶がありませんが、それでもこれからずっと茨城にいたいと思うのです。それはここで将来の夢を考えられるようになったからです。

ぼくは将来、色々なアレルギーで困っている人の薬や機械を開発する人になりたいと思っています。ぼくも小さい頃からアレルギー性鼻炎に悩んでいて、ほぼ一年中鼻をかんでいて、その人たちの大変さが分かるからです。

それでぼくは今、勉強を一生けん命がんばっています。たくさん知識があった方が新しいものを開発できると思うからです。すぐにくじけそうになりますが、ぼくの小学校には同じように勉強をがんばっている友達がたくさんいて、自分だけじゃないと思うとまたやる気がわいてきます。

茨城県には研究学園都市のつくば市もあり、そこには大きな研究所などがたくさんあって、そういうものを見ると、僕

も一緒にやってみたいなあと思うのです。

ぼくは今、周りに恵まれて夢に向かえているなと思っています。友達にも将来の夢を持っている人がいて、かしこい人がたくさんいるので話しているととても楽しいです。ニュースの話もよくします。例えば全国各地で起こっている異常気象のことか、北朝鮮のミサイル発射のことなど、茨城にも影きょうのありそうなことも出てきます。ぼくが興味のあることだけでなく、知らないこともいっぱい友達と話してくれます。学校の帰り道ではくだらない話もよくします。シャーパーンを分解してみた話やこわい話などです。リアルに、そしておもしろく話してくれるので、思いつき笑ったり、びっくりしたりして、興奮した後にはまたスイッチが入って勉強をする気がわいてきます。友達には時にはライバルとして、時には友達として、自分の周りにいてくれる大切なものです。

また、家の周りにはお店もたくさんありますが、自然もまだまだたくさん残っています。夏にはカブト虫やクワガタ虫などの虫をいっぱい採りに行きます。近くにはコミュニケーションセンターもあって、好きな本をたくさん借りたり、バトミントンなどをしたりすることができます。これもぼくのスイッチを入れかえる大切なものです。

この色々な大切なものに囲まれながら、自分の夢をかなえて、素晴らしい環境の茨城を他の県の人たちにも伝えていきたいです。

私のまち

常陸太田市立佐竹小学校 六年 助 川 麻愛弥

「今年は、おじいさんたち何の劇をやるのかな。」

陸上の練習が終わると、私たちはお祭りの話で盛り上がります。

もうすぐ私の住む町のお祭りです。町内会のおじいさんやおばあさんを中心に、夏祭りやもちつき大会など季節ごとにいろいろなイベントを開催してくれます。私は毎年、夏祭りで行われる、おじいさんたちの劇を楽しみにしています。

今年は、「花咲かじいさん」の劇でした。おじいさんたちの熱演に、いつもおなかを抱えて笑い転げてしまいます。やっぱり今年も大きな笑い声が会場いっぱいに広がりました。

私の町のお年寄りとは、とっても元気です。毎朝、私たちが登校する時に、交差点や家の門の前に立って見守ってくれます。なかには、友達のように名前を覚えてくれる方もいます。おじいさんたちは、毎日「いってらっしゃい。」「お帰り。」「大きくなったなあ。」など、たくさん声をかけてくれたり、あいさつをしてくれたりします。だから、私たちも元気に大きなあいさつができるようになりました。

また、私の友達のおじいちゃん、おばあちゃんは、畑で野菜を作っています。そして時々、おすそ分けをくれます。優しいおじいちゃんとおばあちゃんがいていねいに作った野菜はとってもおいしいです。野菜がちよっぴり苦手な妹も、おすそ分けの野菜は、おいしいと言って食べています。

今年も、夏祭りはどんどん進んでいきます。カラオケ大会になぞなぞ大会、じゃんけん大会、ヨーヨーつりに金魚すくい、スイカ割大会や輪投げと、楽しい遊びが満載です。そして、一番楽しみな劇が終わると、手持ち花火でファイナーとなります。

今年の花火は、たくさん種類がありました。クルクル回転する花火、煙がもくもく出る花火、キラキラ光ってとてもきれいでした。でも、煙が出る花火は、変なおいがして、「あちゃー、これは失敗だったな。」と、おじいさんたちは大笑いをしていました。

いつも地域の人たちが笑顔で暮らせるようにと、様々なイベントを企画したり、私たちを見守ってくれたり、私の町のお年寄りは、忙しそうです。

どうしてこんなに元気なのだろうと考えてみました。きっと、田んぼが広がり、カエルやザリガニなどの生き物がたくさん住む、自然豊かな町で、優しい心と強い体が育ったからだと思います。

私の住むまちには、豊かな自然と元気いっぱいのお年寄りの笑顔があふれています。

私は、そのお年寄りの皆さんに、もっと長生きしてほしいと思います。だから私は、皆さんに元気いっぱいの大きな声であいさつしたり、学校での出来事をお話ししたりしてたくさんふれあいの時間を持ちたいと思います。

大好き木崎小

那珂市立木崎小学校 六年 大川 みやび

私を通う木崎小学校は、今年百四十五歳になる児童数八十七名の小さな学校だ。

祖父も母も姉も木崎小学校を卒業している。

小さな学校なのでクラスがえもない。

週一回の縦割り班遊びや、縦割り班でおこなう毎日のそうじなど、一年生から六年生まで一緒に遊んだり、協力して生活できる学校だ。

そんな木崎小学校での生活は、私にとってあたりまえのこととて、幸せなことかどうかなんて考えたこともなかった。

母と姉にさそわれこの夏、宮城県旧大川小学校のボランティアに参加し、今自分が毎日学校に通い友達とすごせることは、幸せなことなんだと気づいた。

「せっかくの日曜日なのに、寝坊もできないなんて。いやだな。草とりなんて学校だけで十分。」そんな気持ちだった。早朝バスに乗り大川小学校へ向かった。初めて見る大川小は、ここが本当に学校だったのだろうかと思うようなものだった。

天井は、押し上げられ、壁は無く窓ガラスも無い。残った壁と一緒に黒板を見るまでここが教室だったと分からなかった。

この時、初めて津波のこわさを知った。水圧のすごさを知った。

ここで私達と同じように勉強したり、遊んだりしていた小生がいたのだと想像することはできなかった。

母と姉にさそわれた時、「行きたくない。」と思ったことをはるかしく思った。

校舎前の草を取り花を植えた。木崎小学校と同じくらいきれいにしようと思った。

学校でも委員会活動で草取りや花の手入れはやっていて、大丈夫だろうと思ったがやってもやっても木崎小と同じようにはならない。三時間ほどの活動では、足りなかった。

まだまだ、やることはいっぱいあるなと思っていたとき、大川小の近くの方の話を聞いた。

「上ばきを見つけたんだ。」

子供が震災の時、今の私と同じ六年生のお父さんだった。今私は、毎日学校に通い先生や友達と一緒に遊び学んでいる。

木崎小での生活を特別楽しいとか、学校が大好きとか考えず、学校に行くことがあたりまえだと思っていた。

だから、通学の距離が遠くて大変、教室にエアコンが無くても暑いと、不満に思うことがあった。でも、そんなことどうでもよいことだった。

毎日学校に通えなくなったらと考えたら悲しくなった。

百四十五歳の木崎小。そこは、毎日私をあたたくくむかえてくれる。私を育ててくれる。

大好き木崎小。毎日を、ありがとう。

兼六園と偕楽園

水戸市立渡里小学校 六年 阿久津 紗 良

今年の家族旅行は、小学生最後の夏休みとなる私の意見を取り入れてくれる事となり、迷わず福井県の恐竜博物館を中心とした計画となりました。どうせなら、石川県まで足をのばし、金沢市の兼六園等を観光してこようと父が提案しました。水戸の偕楽園は慣れ親しんでいる場所であると共に日本三名園の一つ。兼六園と見比べてみようという事も旅のテーマの一つとなりました。

「雪つりが見られる冬の兼六園の方が風情があるんだけどなあ」

と父は言いましたが、夏でも観光客がたくさん来ていました。粹をきわめた大名庭園とあって園内は曲水や数々の池があり、歩くと水音と共に、季節ごとの木や花が見られるように配置されていて、いつ来ても楽しめるように工夫されているのがわかりました。興味を引かれたのは梅林のある庭です。梅の木の際に萩が植えられていて、小さな花をつけ始めていました。そこで、ふと「偕楽園と同じだな」と思うと同時に「偕楽園ですごいんだな」と改めて思ったのです。

確かに兼六園は見せ方が豪華でした。どこを見ても緑と水と橋があり、写真を取るのに困らないような美しい庭でした。それに比べると偕楽園は地味です。梅の時期こそ華やぎますが、園内の建物も質素で、ここで写真を取るべしという感じの場所は少ないです。作りに作りこんだ庭が兼六園ならば、

偕楽園はとても自然体で、堅苦しくなく解放的に感じます。きつと、殿様の考え方の違いが大きく表れているのだと思います。「民と偕に楽しむ」という斉昭公の趣旨が今なお受け継がれている、それが偕楽園の最大の魅力です。

実際に兼六園をみてきたおかげで水戸の偕楽園の良さが実感としてわかりました。うっそうとした竹林をぬけ、暗い杉林をぬけると、どこまでも明るい広々とした梅林が目の前に広がる、恐がらせたり、ホッとさせられたりする不思議な道があります。夏でも涼しく、秋には紅葉が入り込んで美しい吐玉泉。秋の萩、月見の宴、冬の寒さにほころび初める紅梅の梅、好文亭から見る千波湖と桜など、四季それぞれに見所のある偕楽園は、地元水戸市民のオアシスです。

私達の生活に密着した場でもあるため、その素晴らしさがよくわかっていなかったように思いました。早春の梅まつり期間だけでなく、他県の人達にもっと偕楽園を知ってもらうために、水戸市はもっとアピールすべきだと思います。梅は学問の象徴であり、飢饉や戦の非常食を確保するためだった事を知りました。歴史を知ると偕楽園の違う面も見えてきて楽しいです。そして、梅の季節以外の楽しみ方をよく知る市民の声を生かして、一年を通していつ行っても見所があると言ってもらえるよう偕楽園を他県や海外の人達にも知ってもらうえたらうれしいと思います。

私の中の茨城

那珂市立第四中学校 一年 加藤 澄華

茨城弁は、とても身近なものです。父や親戚もよく言います。ですが、私も含め若い人達が茨城弁を口にするのは、なかなかありません。

私が茨城弁について考えるきっかけになったのは、父の言葉です。テレビで「ひよっこ」を見ていたときでした。

「茨城弁ニュアンスが違うね。」

ひよっこのセリフで、茨城弁がよく出てきます。しかし、その舞台は奥茨城ですが、私たちが住んでいるところは那珂市です。北の方と中央地区では、微妙に違うらしいです。私は全く分かりませんでした。自分の育ったふるさとなのにと、少しさみしい気持ちになりました。

確かに、茨城弁は身近なものです。それでも、以前より耳にする機会は減りました。私がニュアンスの違いに気づかなかったのも、若い人達が言わないのもそのせいです。私は、このままいくと、いつか方言は無くなってしまいうだろう、と思います。大好きな茨城の個性が消えていってしまうのは、とてもいやです。でも、私の口から自然に出てくるものでもありません。

そんなもどかしい気持ちでいたのですが、ある日、吹奏楽の顧問の先生にとっても驚くことを言われたのです。

「演奏が茨城弁みたいになってるよ。」

私は最初、意味が分かりませんでした。そして、先生の説明

を聞いて、目を丸くしました。演奏で、小節の中のどの音に重きを置くか、というのが、茨城弁のようだと言うのです。一、二、三、四、と、カウントしてみてください。普通は、一にアクセントがつくのですが、茨城弁では、四にアクセントがつくのです。音楽では、基本は一です。私は自然と笑顔になりました。先ほども言ったように、自分の口から自然に茨城弁が出てくることはない、そう思っていたのに、違ったのです。音楽以外でも、例えば体育の準備体操なんかもそうです。そうならうれしい「癖」も、吹奏楽部に入ったからには直さなければなりません。頑張ります。

その後、愛知県出身の母にそういうと、

「茨城の人って、イントネーションも違うよね。」

と言われました。私は以前より、茨城と仲良しになったように感じました。自分の中に、思っていた以上に「茨城」がありました。

でも、そんな細い糸しか残っていないのなら、やっぱり無くなってしまふ、と不安になり、調べてみました。方言のない地域はなくて、全国の言葉が同じになることはないそうです。私は、その地域独自のものや、盛んなものについての言葉は、消えることはできないのかもしれない、とも考えました。そうしたら、少しほっとしました。

また、方言を音声で残すという取り組みも行われているそうです。そういった活動をどんどんしてほしいと思いました。完全になくなるとまではいいかないとしても、薄れていく方言を止めることは難しいです。でも、そんな活動をしているという地域愛に感動しましたし、日常的には使わなく

なつてしまつても、そこで残されている、というだけでとてもうれしいです。

今回この作文を書いて、今までより茨城に親しみをもつことができました。夏休みの課題でこういったものを出したり、授業でその地域についての調べ学習をしたり、地域の伝統を守るための取り組みを行ったりする。そういったことで守られていくものがあると思います。私でもできることを、茨城のためにしていきたいです。それから、アクセントやイントネーションなどの「隠れた茨城弁」を友達に話そうと思います。そして、自分の中の「茨城」を、感じてほしいです。

希望をくれたものは

茨城キリスト教学園中学校 二年 高 下 風 花

絶望。人生で誰もが一度は味わうと思います。私は小五から六年にかけて嫌という程絶望感を味わいました。

小四の時に転入して来た女子は体が大きく強気で誰も彼女に逆おうとはしませんでした。クラスは違ったものの、私は嫌な予感がしてなりませんでした。小五になり、私は彼女と同じクラスになりました。私は運命の女神に見捨てられたと思います。私は彼女の独裁者ぶりに我慢できなくなり、少しずつ反抗するようになりました。

そして、彼女による私への猛攻撃が始まりました。世間一般的に言ういじめです。彼女は私に聞こえるように悪口を言ったり、足を引っ掛けて転ばせました。持ち物に落書きし

たり、わざと同じ委員会に入つて私をこき使いました。他人の罪をなすりつけられる事もありました。そして彼女は他の人にも無視や悪口を強要しました。私は世界に独りぼっちそんな気がしました。彼女は先生の前では優等生のふりをするし、彼女の父親は権力者で先生や学校に言つても信じてもらえなかったでしょう。私は彼女の逆襲が恐ろしくて、学校はおろか親にも言えませんでした。

私は絶望のどん底に突き落とされました。世界に独りぼっち。全てが敵。私は毎晩悪夢にうなされました。外に出るのも怖かったです。周りのみんなが私を嘲笑っているような気がしました。私は心も体もボロボロでした。そして、とどめの一撃は唯一の親友の裏切り。「自業自得でしょ。バーカ。」私はもう二度と誰も信じないと決めました。人を信じれば裏切られ傷つけられる。疑わなければだまされる。

私の心の傷はもう二度と治る事はないと悟りました。そして私の心の傷は身体をも浸食しました。私の目は心性視覚障という病気になりました。視野はほとんどなくなり物が真面に見えなくなりました。私の視界は真っ暗でした。それはまるで私の未来を暗示しているように思いました。

私は真つ暗な世界にただ一人取り残されている気がしました。夜、涙もなく涙が溢れてきました。言葉の一つ一つがナイフのように私の心を突き刺します。毎日死にたいと思いました。何度か死のうと思いました。

絶望のどん底にいた私に手を差し伸べてくれたのは一冊の本の台詞でした。「君は一人じゃない。君が死んでも世界は変わらない。だけれど、君が生きて変わるものがあるかもしれない。

れない。だから生きて！」私は涙が溢れて止まりませんでした。私は綺麗事が嫌いです。だけれど、今だけはこの台詞を信じたいと思いました。真っ暗だった世界に不意に一筋の光が私を包みました。私の命を救ったのはこの本だと言っても過言ではありません。

それ以来、この本は私の唯一の親友となりました。現状は変わりませんでしたが、この本が私の支えとなりました。

私は本を読むだけでなく、書くのも好きになりました。私は次第に作家になる事を志すようになりました。

私は本に救われました。だから、今度は私がみんなを救う番です。私の書いた物語で誰かを救いたいです。私の夢は誰かの心の支えになる、勇気づける本を書く事です。本の影響力は素晴らしいです。私の本を読んだ人が少しでも勇気づけられるのならば、それは世界平和に一步近づいたという事だと私は思います。

ひいばあからの贈り物

日上市立泉丘中学校 二年 松 本 駿 佑

今年の五月二十五日に、私のひいばあちゃんが亡くなりました。百一才でした。

ひいばあちゃんが百才の誕生日を迎える頃僕と兄は、映画の二十世紀少年を思い浮かべ

「二世紀ひいばあだね。」

と言って、その長い人生におどろきました。

ひいばあちゃんは、大正・昭和・平成の三つの時代を生きてきました。戦争も経験したので、戦闘機のことや、焼い弾が落とされて燃え上がるのを必死で消したことなど話してくれることもありました。

私たちに、「物を粗末にするな」、「仲良くしないとだめだ」と口ぐせのように言っていました。きつと、私たちには想像もできない大変な時代を生きてきたから、私たちに伝えたいのだろうと思いました。

ひいばあちゃんは、私や兄とよく遊んでくれました。田んぼの道で自転車に乗る時は、近所のお年寄りと一緒に、押し車に座りながらずっと見ていました。テレビのスポーツ観戦も好きで、すもうや野球の話もたくさんしました。

東日本大震災の一ヶ月前、心臓の病気で入院しました。震災の時、水戸の家のひいばあちゃんのベッドにはたんすが倒れました。もし家にいたら下じきになっていたそうです。

ひいばあちゃんは車イスで動かないと心臓に負担がかかるので施設に入りました。

私たちが会いに行くと、

「ひいばあも帰りたいよ。」

と言うのでとてもかわいそうでしたが、祖父も祖母もお年寄りだからお世話することが大変なので仕方がないということを知りました。

ひいばあちゃんの周りには会いに来る家族がいて、施設にはお世話をしてくれるスタッフやお友達がいて、独りになることはなく幸せにすごしました。

しかし、テレビのニュースではお年寄りの孤独死とか、お

ばあさんが寝たきりのおじいさんを殺してしまうとか報道されています。

話し相手がいること、生活のお手伝いをしてくれる人がいること、気づかってくれる人がいることが難しくなってきたしまっているから、お年寄り是一人で頑張ろうとしてしまうのかもしれない。

もし、ひいばあちゃんが誰にも気付かれずたった一人で亡くなったとしたら辛くて悲しいと思います。

私は小さい頃から、祖父母やひいばあちゃん、近所のお年寄りという機会が多かったので、お年寄りを見て汚ないとか嫌だという思いは少ない方だと思います。

でも今は、お年寄りのいる家族も少なくてお年寄りと接する機会が少ないので、みんな戸惑うのだと思います。

いきなりお年寄りを助けようとするのはとても勇気がいるし、引いてしまうので、学校の授業の中でもっとお年寄りと接する機会やボランティア活動を取りいれていけばいいと思います。それを幼稚園、小学校、中学校と続けていけば、少しはお年寄りとの距離も縮まるかもしれないです。

私は、ひいばあちゃんからとても大切なことをたくさん学ばせてもらったので感謝しています。

頑張って生きてきたお年寄りが大切にされるようになってほしいです。

祖父の三回忌

茨城町立青葉中学校 二年 高橋 紗良

八月六日に、祖父の三回忌がありました。

私の祖父は、三年前に肺がんという病気で七十二歳という若さで亡くなりました。

家族が見守る中、苦しみながら亡った祖父との別れから、もう三年も経ったなんて、今でも信じられません。

三回忌で、みんなが集まり、祖父との思い出話をしました。祖父は、いつも、優しく、書道が上手で、ゴルフが大好きでした。他にも、パソコンでマージャンをするのが大好きでした。

当時、私が上手に書けた書道の作品を持って行くと、いつも、ポケットからその時あるお金を内緒でくれました。それが、祖父と私の秘密でした。最近では、その時の事も忘れそうになっていました。今回の三回忌で思い出す事が出来て、本当に良かったと思っています。

私は、書道を七年間やっています。特待生になるのが目標なのですが、なかなか出来ません。祖父が「もう少し頑張るなさい。」と言ってくれているかもしれないと思い、もっともっとと書道を頑張ろうと心に決めました。

当時、小学生だった私が、中学生になり、テニス部に入部し、日焼けした姿を見せたら、祖父は何て言ってくれたかなあと思いました。他にも、青葉中の制服姿も、見てもらいたかったです。

家族を一つにまとめていた祖父が亡くなり、祖母は、とても寂しいと思います。三年が経ち、祖母は、どんどん小さくなっていく様に見えます。急に一人になってしまい、祖母は、どんな気持ちでいるんだろうと考えました。

私にとって祖母は、元気で明るく、ちょっと怖いけど、私達みんなをいつも気にかけてくれる心の優しい人です。私の学校の事や、部活動の事、他にも、アトピー性皮膚炎の事を心配してくれます。そんな祖母の事を、私も何とか元気にしてあげたい気持ちになりました。

祖母の気持ちと私の気持ちには違いはあると思います。しかし、これから、私に何か出来る事はあるのかを考え、祖母の気持ちによりそって、会話をしたり、行動したりしていこうと思います。

家族の中の一人でもいなくなるという事は家族がこれまでの生活ではなくなり、辛い思いをする人がいるという事なのだと思います。

今回、祖父の三回忌があり、みんなが集り祖父の思い出話をし、みんなが、また、改めて、祖父への感謝の気持ちを思い出しました。

私達は、三年前に、祖父を病気で亡しました。その時、同時に家族の大切さ、命の尊さを改めて知る事が出来ました。

三回忌とはみんなが故人を忘れない為の大切な行事なのだと、心から思いました。

やさしさ。協力。思いやり

笠間市立友部中学校 二年 友部 さくら

茨城。茨城という言葉を目にした時、茨城県民でない人は何を思い受けべることだろう。茨城には、たくさんの良い場所、自然、そして伝統や食べ物がある。私は、中学生になり茨城を知るだけではなく、茨城をもっとよく知り、さまざまな場所をおとずれるようになった。

今年の六月三日、私は筑波海軍航空隊の集いに参加した。私の住んでいる地域なのに一度もおとずれたことはなかった。しかし、「永遠の0」という映画のロケ地だということ。筑波海軍航空隊の集いでは、戦争を経験した方からの当時のお話を聞くことができた。また、記念館をおとずれ、当時の具体的な内容の資料や写真を見ることができ、戦争を経験したことのない私に大きな心情の変化をもたらした。記念館をおとずれた後、私はこう思った。

「戦争は、戦争に行った人だけではなく、戦争に行かせてしまった人などさまざまな人がたくさんものを失い、いつまでも決して消えることはない、消せることのない、かなしみや悔しみが心に残ってしまう。」

この集いに参加したことで、私の地域のこと、私の県茨城について興味をもった。また、筑波海軍についてもっと調べたと思った。

茨城とより深く考えれば、私は自分の住んでいる笠間市が

頭の中に浮かんだ。茨城といったら、有名なのは、納豆や水戸黄門ではないだろうか。しかし、私は有名なものよりも良いものがあるのではと考えた。私の住んでいる笠間市には、市の花、菊がある。菊は、色や形ともさまざまな花を咲かせる。私は小学生の頃から菊に興味をもちはじめた。私の祖母は、菊農家で、毎年夏になると手伝いに向かう。菊はさまざまな品種がありとても美しい。小学生の時は、小学校のプランターで一人一プランターずつ菊を育てた。市の花である菊は、私にとって大好きな花で、毎年見るのが楽しみである。私たちの市の花を育てるという活動はとてもいいと考えている。自分で育てることによって、自分の地域を考えなおすきっかけになる。私の故郷、笠間をもっと知り、将来は、笠間市の役にたてるような大人になりたいと思った。

私は笠間と茨城県について考えてみたときに、共通点があることに気付いた。それは、人の良さだ。茨城の人は少しなまっている。しかし、なまっていることによって話しやすいのではないだろうか。私の周りにいる、家族、友達、先生方、地域の人はとてもいい人ばかりだ。なぜ、茨城の人は人が良いのだろうか。私は、東日本大震災によって人々がたがいに思いやり、協力し、助け合わないといけないということを学んだからだと思う。私自身、震災の後、協力することの大切さ、助け合うことの大切さ、たがいを思いやる大切さを改めて実感した。

このように茨城には、たくさんのいい所がある。茨城は、有名なものもあるが、有名ではないものにこそ思いがたくさんつまっているということをつくさんの方々に知ってもら

い、これからもよりよい茨城をつくっていききたいと思う。そして、私はこれから、茨城県民だということにしっかりと自信をもち、他県に行っても茨城県民のやさしさを伝えていき、今よりも茨城を好きになっていきたい。私のふるさとである茨城は、これからもずっとやさしくて思いやりのある県であるだろう。

茨城で叶えたい、私の「夢」

水戸市立第三中学校 三年 山田 彩水

私には前まで、夢がありませんでした。気づけば十五歳。友達は未来を見てキラキラしているのに…と不安を抱えていました。そんな私でしたが、これだけは負けない！と思えることが、一つあります。

私は英語を話す事が、好きです。得意教科でもあるのですが、英語を使って相手とコミュニケーションがとれるのがすごく楽しくて、何よりも好きでした。そんな時、「インタラクティブフォーラム」に出会いました。指定されるトピックについて、三人で五分間自由にカンバセーションを行う大会です。たまたま見かけた卒業生の発表を見て、驚きました。話す英語に、「色」があったからです。伝えようとする一語一語が生き生きとして、踊っていて、とても楽しそうでした。私も、こんな風に英語を使ってみたい！と憧れて、インタラクティブフォーラムの練習を始めました。毎日が楽しくて、充実した日々でした。

ある日、先生から当日話すトピックについての一覧表をもらいました。たくさんのおピックの中で一番話しやすそうに感じたのは、「My favorite place in Ibaraki」（私が茨城でいちばん好きな場所）という題です。茨城で生まれ、茨城で育った私にとって最も話しやすい題だと感じました。しかし、実際に英訳しようとペンを握ると、思うように進みません。自分では、茨城をよく知りよく分かっていると思っていたし、その位「いばらき」という場所が好きでした。でも実際は、茨城や水戸の良さの本質を見られていなかったと、英語と関わってからそこで初めて気づかされました。

私達日本人が話す日本語と、外国の人達の英語では、表現の仕方が異なる部分があります。これは私の考えですが、英語では「なんとなく」が通用しません。YESかnoか、goodかbadかの世界です。だからこそ本当にその魅力を感じていないと、話す英語に「色」がつかないのだと思います。いつか見た先輩方の言葉のように、英語が踊り、カラフルに聞き手に伝わるために、私はもう一度茨城について調べることになりました。

水戸芸術館建設にはたくさんさんの壁があり、多くの人の思いが詰まっていること、日本で初の制度が使われていること。常澄の田んぼアートには百二十名の力と国内でも最高峰の技術が使われていること。多くの外国人観光客が訪れる国営ひたち海浜公園のネモフィラは、一年ごとに枯れてしまうので職員の方々の手によって毎年植え替えられていること。私は、知りませんでした。全て、英語が、インタラクティブフォーラムが気づかせてくれた茨城の魅力です。出会わなければ、

ずっと私を知ることのなかった茨城の良さです。

二度目の英訳はスラスラとでき、本番も堂々と話すことができました。水戸市大会、中央地区大会と勝ち進み、初めて県大会に出場することができました。とても嬉しかったです。この素晴らしい経験の他にもう一つ、英語が私にくれたものがあります。

インタラクティブフォーラムを通して学んだ、英語を発信する楽しさと茨城の魅力を人に伝える大人になりたい。茨城の魅力・英語と出会いが、生まれ育った茨城で中学校の英語の先生になりたい、という夢をくれました。夢がなかった私と英語が出会えたように好きな事を学び、夢を見つける素晴らしさを茨城の、未来の十五歳に伝えていきたいです。

夢を叶えるために、さらに学習を重ねて私が大好きな町・いばらきに恥じない立派な英語の先生になりたいです。

家族の存在

ひたちなか市立那珂湊中学校 三年 水越 有

私にとって家族とは、とても大切な宝物です。どんなときでも心があたたくなくなります。私はそんな家族が大好きです。私は、中学校に入学して迷わずソフトボール部に入部しました。父と兄の影響です。父は中学から今でも野球をやっている、兄は父の影響で高校まで野球をやっています。小さいころから二人のプレーしている姿を見ていた私は、自分も同じようにやりたいという思いが強く、入部を決めました。入

部して、顧問の先生や外部コーチにやりたいポジションを聞かれると、私はキャッチャーを希望しました。キャッチャーは父がずっとやっていてるポジションだからです。ポジション発表でキャッチャーと言われときはうれしくて、帰り道はずっとにこにこしていました。父が帰って来てすぐに報告すると、父も喜んでくれました。私は、父が応援に来てくれるのがとてもうれしかったです。良いところを見せたいという思いが強く、力んでしまったことも多くありました。試合から帰ると、打てなかったのは何が悪かったのかよく教えてくれました。良いプレーをして父に褒められると、次も頑張ろうという気持ちになりました。中央総体、仕事で試合に来られなかった父は私に手紙を書いてくれました。試合会場で手紙に気付いた私は、父からの言葉で自信を持って試合に臨むことができました。父が野球をやっていたいなかったらソフトボール部に入部していたかわかりません。父のおかげでソフトボールをいうスポーツに出会えたのだと思います。いつも力になってくれる父に、私はとても感謝しています。

部活動は試合がたくさんありました。県外遠征にも何度も行きました。球場への送迎はいつも母でした。帰りの車で母と試合について話すのが、私はとても楽しかったです。負けて落ち込んでいるときは励ましてくれました。母には何でも話すことができました。兄の野球もある中、母はいつも試合を見に来てくれてスコアをつけてくれました。二年半で約四冊分のスコアが残っています。休みの日はほぼ一日練習だったため、お弁当持ちが多くありました。疲れていても、朝が早くても作ってくれるおいしいお弁当で午後の練習も頑張る

ことができました。最後の総体で母は県大会が決まったときに泣いて喜んでくれました。引退となったときも泣いてくれて、私は愛されてるなと感じました。冷たく当たってしまうこともあるけれど、私を一番近くで支えてくれる母にとっても感謝しています。

家族についてよく考えてみると、私が成長していくうえで必要な存在なんだと改めて思いました。言い合いになることも少なくありませんが、これからは捉え方を変えて自分にとってプラスにできる気がします。まだ中学生なので、これからも家族に迷惑をかけると思いますが、大きくなったら恩返しできるように生活していきたいと思っています。そして、感謝の気持ちをしっかりと伝えながら、たった一つの家族を大切にしていきたいです。

世界の縮図

つくば市立吾妻中学校 三年 後 藤 美 穂

私が生まれ育ったのは茨城県つくば市です。そんな私がこのごろ思うのは、この茨城県という土地は、ある意味で世界の縮図のような、いいところ取りをしたような、そんな面白い土地だ、ということです。

その一つには、この狭い地域に様々な出身地の人が集まっているということがあります。例えば私に近所の人も、外国に沖縄から東北の一家など本当に様々で、家から一步外に出ると、いろいろな言語や方言が飛び交っています。私の両親

は神奈川県の出身なのですが、母などは全く関係なさそうな関西弁がうつってしまったそうで、面白いところだなと思います。そうした寄せ集まりの人たちがこの地域色豊かな茨城に住みつくことで、独特のハーモニーを生み出している、それが、我々が「ふるさと像」なのです。

では、茨城自体の特長は何か。そう考えたときにまず思うのは、いろいろなところが広い、ということです。道路から農家の家々から、広く全体に余裕があるかんじで、都市では見られない茨城の素敵なところだな、と思います。

茨城の地元の特徴的な民家は、大きな母屋があつて、同じ敷地内にたくさん家族の家が建ててある形が一般的です。母屋は瓦屋根の立派なお屋敷というかんじの日本家屋であることが多いようです。私は、こういう茨城の広々とした、ずつと大切にされてきたような民家がとてもかっこいいと思います。

近代的な学園地区の周りはこうした家屋の立ち並ぶ農村が多く、つくばにいますとそういう農家の人たちから野菜をいただくこともあります。茨城人はとても気前のよい優しい人が多いように思います。それはきつと豊かな自然と穏やかな気候のおかげなのでしょう。そして、茨城の農作物は全国でもとても有名ですが、本当に日本一なのではないかと最近つくづく感じます。この間地元の方が自分のところで育てたメロンを分けてくださったのですが、そのみずみずしさと甘さに仰天しました。そんな私を見て、父は「茨城は農業も漁業も畜産も自給自足できるほどだし、他の産業も立派にあるから独立国家になれるね」などと冗談を言っていました。しかし、

私はなんだか深く納得してしまいました。そうなのです。これが、「世界のいいところ取り」だと思った二つ目のポイントです。

その豊かさは、なにも味覚だけを楽しませるわけではありません。夏の終わりにはいたるところで青々として稲穂が風に揺れて、実りの時を待っています。こうした水田の風景は見慣れていても、はっとするほどに美しいものです。実は私の名前もそんな水田風景から付けられたそうで、初めて聞かされたときその光景を思い浮かべてうれしくなったのをとてもよく覚えています。

また、果物も多種多様なものが栽培されているので、いつも何かしら楽しむことができます。果物狩りもとても人気です。こんなに素敵な、都会で田舎なところが他にどこにあるでしょう。私は、そんな茨城が大好きです。

私のまわりの茨城生まれでない人たちも、みんなつくばでの暮らしをととても楽しんでます。自分で農地を借りて農作物を作るのにはやっているようです。自然あふれる土地に來ると誰でも、土とたくさん触れ合いたくなるのかもしれない。

ここ、つくばは、東京にも便利に出られるし、大人になってもずっとつくばで生活したいな、と思っています。まるで小さな世界のような、素敵な茨城は、私にとっての理想の「未来都市」です。

私の大好きなまち

日立市立多賀中学校 三年 小太刀 理子

私のふるさと日立は、自然豊かでとても素敵なまちです。日立にいと、森の緑や畑の緑、たくさん緑に囲まれていてとても空気がおいしいです。おいしいといえば日立の野菜や果物もおいしいです。日立は農業が盛んでかぼちゃやさつまいも、チンゲンサイ、メロンや梨など他にもたくさん出荷されています。全国一位の食材もあります。

海や川もあります。海の幸も豊富でシラスやヒラメ、アンコウが有名です。ヒラメは茨城県の魚に登録されています。私の学校からはその海を見ることができます。また、私の家のすぐ向こうには鮎川とたくさん木々があります。春は桜が一面に広がります。夏の暑い日は、セミの鳴き声と共に川の流れる音も聞こえます。川の涼しげな音で心も体も涼しくなり、勉強に集中できます。透明な水の中には、川の名前にもあるように鮎が見えます。冬は他の季節と違い、木々は静かに休み、川の音だけが周りに響き渡ります。華やかな姿も素敵ですが、私は静かでおしとやかな姿も好きです。このように私は毎年この四季折々の自然を見て、自然が美しい日立に生まれてよかったなと思います。

日立は工業も盛んです。私の身近にある家電製品は、どれも日立のもので。日立の商品がお店に並んでいるところや、日立の商品がテレビで紹介されているところを見ると、私がつくったわけではありませんが、とても誇りに思います。そ

して私のまちは素晴らしい所だなと思います。

日立には功績を残した先人が沢山います。今では日本を代表する大きな会社に成長した日立製作所は、久原房之助さんが赤沢鉱山を買収し、鉱山用電気機械の修理工場を設置したことが始まりでした。その後の小平波平さんが日立製作所として経営を始めました。このように、今、日立が輝いているのは、長い歴史の中で素晴らしい先人たちの努力があったからです。

私は約五年間ダンスをやっています。これまで様々な曲でダンスをしてきました。「ハイタッチダンス」はひたちをアルファベットで書くこととハイタッチと読むことから名づけられています。「YOU! ME! ON!」は日立市出身の吉田正さんが作曲した「いつでも夢を」をもとにつくられました。「エバーラッキーダンス」は茨城県民の歌をもとにつくられ、茨城県民の歌の歌詞もダンスの中で出てきます。「雨情ミックス」は茨城県出身の野口雨情さんが作詞した「シャボン玉」をもとにつくられました。これも歌詞がダンスで使われていて、「シャボン玉飛んだ…」からダンスが始まります。茨城県民、日立市民として茨城、日立の踊りを踊っていると、とても幸せな気分になります。そしてこれからも踊り続けて、盛り上げていきたいと思っています。

旅行に行ったときなどに、日立に帰ってくるとなぜかは分かりませんが、不思議と落ち着き、日立が一番だないつも思います。日立は他の場所に比べて、夏は涼しく冬は雪があまり降らず交通面で困ることもありません。昨年度スキーなどを体験する宿泊学習のときに老人ホームの雪かきをお手伝

いしたのですが、思っていた以上に大変で、三十分から一時間の作業でも疲れてしまいました。雪が多い地域の人たちは毎日こんなつらいことを頑張っていると思ったら、夏も冬もいつでも過ごしやすい日立に住めて「ありがたい」という気持ちになりました。

最後に、私は今住んでいる、茨城、日立が大好きです。大好きだからこそ、日頃から感謝の気持ちを忘れずに、茨城、日立のために奉仕作業やボランティア活動に積極的に取り組んで、良いまちづくりに貢献できるようにしたいです。また茨城、日立の魅力を沢山の人にアピールしていきたいです。

十年後の家族

那珂市立瓜連中学校 三年 黒 須 結 那

私は今、十四歳です。十年後には二十四歳になっています。二十四歳になった私は、大学も卒業して就職している頃だと思います。今は、将来やりたいことや将来に夢はありませんが、就職する時は自分がやりたいことを仕事にしたいです。そうすれば仕事をするのが楽しいと思えると思うので、好きなことをやっていてほしいです。逆に、十年後の私でなつてほしくない姿は、熱中するものがなく毎日なんとなく過ごしている生活です。そうならないために、趣味などを見つけないと思います。

十年後の母と父は五十四歳です。五十四歳になった母と父は、どんな生活を送っているでしょう。とてもよく食べて、

二人で散歩に行ったりどこか遠くにドライブしに行ってみたり。今と何も変わらない生活をしてほしいです。そのために、今からできることはたくさんあると思います。食生活に気をつけたり、軽い運動をする習慣をつけたりなど、健康に気をつけてほしいです。そして私は、就職していると思うので、そのお給料で両親にいいご飯をこちそうしてあげたり、温泉に連れていったりしてあげたいです。そして、今の生活と変わらず仲良く元気に長生きしてほしいです。

私は今、祖父母と母の妹とも一緒に住んでいます。祖父母は十年後、八十歳になっています。母の妹は四十四歳になります。祖父母は介護が必要となるでしょう。今は、とてもうるさくて祖父にとってもきつい言葉で話してしまいます。それでも祖父は、塾の送り迎えや学校へ行く時、外に出て見送りしてくれたり優しくしてくれます。畑仕事も頑張ってくれていて、夏になるとピーマンやナス、オクラ、とうもろこしなどたくさん野菜を採ってきてくれます。それが十年も経つと見られなくなっているかと思うと、とても悲しくなります。だから私は、今の一日一日の時間を大切にして生活したいです。

祖母は、家の庭の草取りやおいしいご飯を作ってくれたり、家族の健康を考えてくれたりしてくれます。十年後は私が、祖母の健康を考えていると思います。そんな毎日とても明るくて元気で優しい祖母も、足腰が悪くなり、寝たきりの生活を送る日が来るでしょう。その時は私が、たくさんお話をして笑顔にしてあげたいと思います。

十年後の家族はどうなっているでしょう。皆、何かしらの

病氣にかかってしまったり、体のどこかが不自由になってしまっているかもしれない。でも、絶対に介護施設などに入れたくないと思います。大変だとは思いますが、皆で一緒に暮らした方が絶対に楽しいと思うし、コミュニケーションをとることによって認知症などの予防にもなると思うからです。そして、私は新しい家庭を築き、祖父母にはひ孫を、両親には孫を早く見せてあげたいと思います。十年後も楽しく元気で皆と一緒に暮らしていることでしょう。

将来の夢

茨城県立友部特別支援学校 高学部一年 磯貝七海

私の将来の夢は、介護士になることです。なぜ、介護士になりたいかというと、私にはおじいちゃんやおばあちゃんがいてまだ元気ですがいつかは介護をしないといけない日があるのかなとおもいます。自分は人をほっておけない性格なので、なにかやくにたてることはないかというろろ考え、できそうだなと思ったのが介護士でした。

自分の夢をかなえられるように、たくさんの人をたすけたり、本を読んで学んだり、友達にききながら少しずつ勉強をしていこうと思います。大人になり上手くいかなかった時、介護士になるという夢をあきらめてしまわないかという不安もあります。

私が、介護士になったらおじいさんやおばあさんのことをせわをしたり、一緒に話をしたいです。またいろいろな人を

ふあんにさせないようにしたいです。私は、この介護士という夢があつて、私は笑っていることが好きなので、おじいちゃんやおばあちゃんのことを笑顔にして、たくさん笑顔が見れるようにがんばりたいです。それにいろいろな物を作ったり、一緒におりがみをおったり、散歩したりして、楽しく過せるように考えていきたいです。やることは多いけれど、同じ仕事をやっている人たちに教わりながら、おじいさんやおばあさんが、よろこんで楽しめる介護士になれるようにいろいろなところでどりよくをしていきたいです。また一生けんめい勉強したり、いろんなことをまなびながらやっていけるように、笑顔をわすれないようにしていきたいです。

私は、人の名前をおぼえるのがにがてなので、早く覚えれるようになんかもききながらやっていきたいです。介護士という仕事は本当にやるが多くだいへんでおいつかないぶぶんもあるとおもいますが、それでもあきらめずに、最後までせいっぱいがんばれるようにしたいです。自分のできることを少しずつ増やし、つねに目標を持って前をむいていきたいです。また教わる方から、自分がおしえてあげれるがわになれるようにどりよくできるようにしていきたいです。

私はこの介護士になる夢は、自分でもあっているんじゃないかなとおもいます。自分が一番やりたい夢を目標として、自分がなりたいたいことをこのまんですんでいけるようにがんばってかなえられるようにしたいです。

私は、今よりも小さい時、どんな仕事をしたいかなど、いろいろ考えていたけど、やっぱり小さい時は、いろいろなや

むこともあったけど、今の自分にとって一番かなえたい夢が、介護士で、それはずっとかわらなくてどうしても自分の夢をかなえたくて、だからこれから大人になっていくなかで、少しずつ勉強やいろんなことをまなんで、わからないところはいろんな人にきいて自分が介護士になるというじかくをもち、自分が介護士になる夢をしつかりかなえられるようにがんばりたいです。私が、この夢がかなえられて、よかったとおもえるようにしたいです。だから、最後まであきらめないで、がんばっていききたいです。

大いなる筑波山

茨城県立下妻第一高等学校 一年 三 谷 将 平

自分が誕生してから約十六年。僕が生まれ育った下妻市からは、あらゆるところから筑波山が見えます。この十六年間の自分を振り返るとき、心のアルバムの中にはいつも筑波山が存在し、僕の成長を見守ってくれていたように思っています。両手を大きく広げ、いつも僕を励まし、深い愛情をもって包み込んでくれる、そんな父親のような存在であつたとも思います。

筑波山は、西側の男体山と東側の女体女からなる、標高八百七十七メートルの山です。日本百名山の一つで、万葉集に詠まれるなど古来から人々に愛されてきた山で、茨城県のシンボルの一つと称されています。自然の多い茨城県ですが、その中でも筑波山は、圧倒的な存在感と知名度を誇っている

と言えます。四季折々で変化する美しい景観、一日の見る時間帯によって異なる色合いなど、見る者を楽しませ癒してくれる、大いなる筑波山です。

大いなる筑波山を身近に感じるのは、ただ自分の住む町からいつも見えるからというわけではありません。成長を見守り、励まし、深い愛情で包みこんでくれると思う理由は、僕のこれまでの歩みの中に、すぐそばに、筑波山があつたからです。

僕が初めて筑波山に登ったのは、四歳の時です。二歳年上の兄の保育園行事である親子登山と一緒に参加しました。つじヶ丘から登るおたつ石コースから白雲橋コースに合流するルートを元気に登ったり他の家族に負けたくない思いで、必死に登った記憶があります。山頂でおにぎりをほおばり、笑顔はじける親子の写真が、今でも我が家には飾られています。この親子登山に二回参加しましたがどちらも筑波山のおいしい空気とおいしいお弁当を味わい、清々しい気分登山を楽しんだ思い出が残っています。

小学生になった僕は、少年野球チームに所属し、六年間無我夢中で野球に打ち込みました。大好きな野球に思う存分取り組みながら、たくさんの人とも出会いました。厳しく優しい指導者の方々、自分達のために様々なことに力を貸してくれ支えてくれた保護者の皆さん、そして、苦楽を共にしお互いに励まし合い一緒に野球に打ち込んできた仲間達。そんな人達とも、年に一回筑波山に登りました。下妻市では、スポーツ少年団が一同に会して年一回の筑波山ふれあい登山を開催しています。いつもはグラウンドで一緒の仲間たちと、御幸ヶ

原コースを歩きます。このコースは、ケーブルカーのルートに沿った険しいコースです。始めは雑談しながら笑顔で登っていますが、徐々に苦しくなってきた無言となります。でもそんな時、筑波山から見下せる雄大な景色や山の途中にある名所のふれることで心が和み、つらいことにも立ち向かう勇気がわいてきます。そして、山頂に着いた時は、何とも言えない達成感と充実感を味わう事ができるのです。この年一回のふれあい登山は、僕の心と体を成長させてくれました。

中学生になった僕は、多感な時期を迎え、多くの悩みを抱えるようになります。野球のこと、体の成長のこと、受験のことなど、壁にぶつかったり不安に押しつぶされそうになったり。そんな時も筑波山はそばにいました。

僕の家族は、新年を迎えた朝四時頃から、初日の出を山頂から拝もうと、毎年筑波山に登ります。僕も四歳から一緒に登るようになりました。コースホテル跡地から登るルートを暗やみの中、黙々と無心で登ります。山頂に着くとさらに女性山の岩場まで登り、初日の出がお目見えするのを待ちます。白い息を吐き、澄んだ空気を一気に吸い込むと、心が洗われるようです。関東平野が少しずつ目の前に姿を現わし、富士山やスカイツリーが見えることもあります。六時四十五分頃初日の出がお目見えし、ご来光に手を合わせます。僕は、手を合わせながら、自分の目標や願い悩みを唱えてきました。筑波山からの初日の出を拝み新年を迎えることで、決意を新たにし、また一年努力をしながら頑張ろうという、前向きな気持ちになりました。

そして今、僕は高校生になりました。勉強と野球、文武両

道を実践しながら、忙しくも充実した毎日を送っています。野球部では、毎年一月四日、筑波山神社を参拝し、チームの目標達成祈願をするそうです。その後御幸ヶ原コースを往復二回走るという過酷な行事もあるそうです。四歳の時から登ってきた筑波山を十六歳になる僕は、体力の限界に挑みながら登ることになりました。

幼い頃からこれまで、僕の成長してきた歩みの中には、いつも筑波山がありました。親子団らんの楽しみ、仲間との絆、勇気、決意、向上心、鍛錬……。様々なものを僕に皆に与えてくれる大いなる筑波山、そんな筑波山が、僕は大好きです。

茨城の魅力

茨城県立下妻第一高等学校 一年 木村 友乃

みなさんは、「茨城」という単語を聞いたとき何を思い浮かべますか？きつと、田舎とか田んぼとか畑を思いうかべる人が多いかもしれません。しかし、茨城にはそれだけでなく、たくさん素晴らしいことがあります。

例えば、人からの良さです。私が朝に学校に行こうとするとおじさんやおばさんなど、さまざまな人があいさつをしてくれます。また、自分の畑を持っている方が多いので、自分の家の畑でとれた野菜を持ってきてくれることが良くあります。茨城の人々は食の部分はもちろん、ほかの部分でも助け合っていることが多々あり良い県だなとしみじみ思います。都会でも、交通の便が良かったり、たくさん洋服屋さんや

雑貨屋さんや、おしゃれなお店があったり、良いところがたくさんあると思います。でも、茨城にも良いところがたくさんあるということをさらに人々に知ってもらえたいです。

さきほど、茨城県の魅力の中には人がらの良さがあると言いましたが、もちろん私が通っていた幼稚園から高校までの友達や先生も良い人ばかりでした。特に先生からは強く影響を受けました。勉強をやさしく教えていただいたことはもちろん、勉強以外の生きていく上で必要なことなども教えていただきました。困っているときは助けてくれて、私もこんなふう困っている子どもを助けてあげたい、笑わせてあげたいと思うようになりました。この「先生になりたい」という私の夢は、今まで教えて下さった先生はもちろん、私の家族や友達があつたからだと思います。私はこれからこの先生になるという目標をすてずに、勉強をがんばっていききたいです。また、家族や友達や先生を大切に思って生活していききたいです。

私がもし、先生になることができたなら、最初の方は難しいかもしれないけど、子ども達全員を笑顔にできるような先生になりたいです。

今年の夏、私は高校から母校の小学校へ勉強のサポートへ行くボランティアをしました。小学校六年生をサポートした私は最初はきんちょうしすぎて頭の中が真っ白になってしまいました。でも、六年生の子たちが話しかけてくれたりしてとても良い体験となりました。この場であらためて、先生という職業は素晴らしい職業であること、子ども達はかわ

いということを実感しました。「先生」は、もちろん大変な職業だと思っています。幼い子どもの人生を左右してしまう場合だっています。でも、それをのりこえてやりがいを感じるのがこの職業の魅力の一つであると思います。今までたくさん先生方が私に優しく、時には厳しく接してください、アドバイスをしてくださったように、私も先生になることができたときには子ども達にそのように接していききたいと思っています。

私は今までの生活の中で茨城を嫌だとか思ったことは一度もありません。それもこの茨城県のおだやかな環境と優しい人々に囲まれ育ってきたからだだと思います。きっと茨城県民全体がそう思っていることでしょう茨城ではさまざまな野菜やお茶や肉などが代表的な特産品としてだされており、食べ物の中で不自由することは一切ありません。

私はまだ、茨城に住んで何十年もたつてはいないのでまだ知らない茨城の良さがあると思いますが、これからもっともっと生活していく中で茨城の良さを知っていききたいなと思っています。

これからはもっと茨城の特産物や伝統文化などをさまざまなメディアを使って広めることができればたくさんの方に茨城の良さを使えられるのではないかなと思います。

たくさんの方がまだ茨城の魅力を知らないと思うので、さまざまな手段を使って茨城をしっていただけるととてもうれしいです。

私の幼馴染、私が住むまち

茨城県立水海道第一高等学校 一年 青 島 乃 愛

私には、保育園に通っていた頃からずっと一緒だった幼馴染がいます。幼馴染と出会って十年以上経ちました。大切な人やものは、無くなってから気づくとよく言われています。私は、その幼馴染と離れることで幼馴染の存在の大きさに気づくことができました。

幼馴染と離れることになったのは、中学三年生の時でした。偶然、幼馴染と遊んでいるときに幼馴染の祖父が「引越すんでしょう？」と幼馴染に言っているのが聞こえ、驚きました。幼馴染は一番最初に引越すことを友達ではなく私に教えてくれました。一番最初に話してくれたという嬉しさと、十年以上一緒にいる幼馴染と離れてしまうという悲しみでその時はいっぱいでした。

そして、幼馴染は六月に転校してしまいました。それから少しの間、学校での楽しみが減りました。休み時間や登下校の時も一緒にいて話をする、楽しかったこの時間がなくなってしまう。なくなるだけで楽しくなくなるくらい一緒にいた時間はとても長かったのだと実感しました。

しかし、幼馴染の引越しは、他の友達と仲良くなる良い機会でもありました。今までは、暇さえあれば幼馴染と一緒にいる、ということが多く、周りに人と比べると仲の良い友達以外と接することが少なかつたと思います。だから、私にとって幼馴染の引越しは悲しかったけど自分を変えるチャンスで

した。コミュニケーションを上手にとることは、なかなかできなかったけれど、たくさんの人と関わりたくなさんのことに挑戦することができました。あまり話したことがない人とも話すことが多くなり嬉しかったです。いつも人に頼りがちな部分を少し直すことができた気がします。

このように、幼馴染は私をいつも成長させてくれます。他にも、応援したり、支えてくれたり、悩みを聞いてくれたりしました。たくさん助けられました。ときには、十年以上一緒にいる幼馴染とケンカをすることもあるし、苦手なところ、言えない事もあります。でも、幼馴染と一緒にいることで一人ではできなかったことも二人で行うことでできるようになります。私は幼馴染と共に生きていくことで自分の世界が、人生が広がっていくような気がします。実際、幼馴染が好きなのを一緒に見たり、聞いたり、それについて話しているうちに自分も好きになったことがあります。この好きなものは、やりたいことを増やしてくれました。好きなもの、やりたいことは将来につながっていて知らなかったことを教えてくれた幼馴染に本当に感謝しています。

他にも、たくさんのものを与えてくれます。幼馴染は、私と違って思っていることをハッキリ言います。自分と違う良いところを持つている人と関わることで自分の短所、長所を見つけることができました。

たくさんのものを与えてくれる幼馴染の存在は私の中で大きくなっています。幼馴染のように私も、誰かを支えたり、何かを与えることができればいいなと思います。身近に、「幼馴染」という目標とする人がいることは幸せです。だから、

後悔することがないように友達や家族と良い信頼関係を築いていき、大切にして生きていきたいです。生きていくには、必ず誰かの支えが必要です。その誰かは家族だけでなく友達や幼馴染も含まれています。

まだまだ、人生は長いです。その長い人生を無駄にしないためにも、人とのコミュニケーションを大切にし、良い友人関係、信頼関係を築き、新たな発見をする。これを繰り返すことができたらいいなと思います。ときには、友人関係は人付き合いで悩むこともあるかもしれませんが、でも、それも良い経験になると思います。

私は、私を成長させてくれる幼馴染が大好きです。私と幼馴染が出会えたのは両親と茨城のおかげだと思います。茨城で生まれて育ったからこそできる経験や思い出、挑戦があります。茨城での思い出や経験は将来、役立ちます。

茨城で生まれて、育ったからこそ今の自分があるのだと思います。そして大切な幼馴染とも出会えたのだと思っています。

だから、家族や友達、幼馴染、そして茨城に感謝して、後悔しないように生きたいです。そのために、一秒一秒を大切にし、たくさんの経験を生かせるようにしたいです。大好きな幼馴染や家族、茨城に恩返しができるくらい成長したいです。

私は、私を成長させてくれる幼馴染、たくさんの思い出をくれる茨城が大好きです。大好きなものを大切にすることでなく、これを知らない人たちに伝えていきたいです。

これからの茨城に必要なこと

大成女子高等学校 一年 亀 井 美 紀

茨城県は、食材が豊富で自然いっぱいなどとも良い県だと思います。私が住んでいるひたちなか市でも自慢できる物はたくさんあります。しかし、今の茨城は知名度が低く、魅力度ランキングでは最下位という結果になっています。このことを初めて知った時、本当にショックでした。なんとか茨城のいいところを全国に伝えたい。そのためにはどうしたらいいだろうか。

そこで私は、良いところやこれから改善していきたい所を考えてみることにしました。

まず最初に自然について考えました。茨城は、海に山、国内で二位の湖面積をもつ霞ヶ浦や袋田の滝などたくさんの自然があります。私の住んでいるひたちなか市では、国営ひたち海浜公園にある「ネモフィラ」という花が有名です。毎年たくさんの観光客が来てくれます。このネモフィラは、毎年四百万以上咲かせます。国内でも何百万も咲いているのは少ないと思います。なのでこのネモフィラは絶対に全国に伝えるべきです。

逆に、私は海や川の水が汚いと思うことがあります。私はたまに海に行くことがあるのですが、周りにはゴミが落ちていたりするので。そのゴミが原因の一つなのではないかと思います。そのゴミを減らすためには、一人一人の協力が必要です。海はゴミを捨てる場所ではなく、みんなが

使う場所です。少しでもごみを持ち帰る人が増えれば水はきつときれいになるはずです。そして茨城の海の美しさを全国にアピールしたいです。

次に、食材について考えました。茨城で有名な食べ物といえば、納豆、レンコン、メロン、ほしいもなどが有名です。特にレンコンは、全国の半分以上が茨城県産で出荷量、産出額が日本一です。メロンも出荷量が日本一でさまざまな種類のメロンが栽培されています。私の住んでいる所は、ほしいもの大部分を生産しています。ほしいもには、たくさん種類があり、子供から大人まで楽しめる食材の一つだと思います。また、茨城といえば納豆というイメージを持っている方も少なくないと思います。茨城の納豆は、古くから生産が盛んです。このように茨城には、生産の盛んな食材が他にもたくさんあります。私は、食材豊富な茨城をたくさんの人に知ってもらい、たくさん食べてほしいと思いました。

しかし、たくさん食べて欲しいからにはたくさん作らなければなりません。今に社会は高齢化が進んでおり、農業従事者数や総農家数は昔と比べて減少しています。人手不足にならないように若者達にも農業について興味をもってほしいと思います。茨城は全国でも農業がさかんな県の一つで、もっと農業のことをアピールできるのではないかと思います。

私は、小学生のころ米作りをしたことがあります。田植えを行い、しばらくたってから稲刈りをして、とても大変な作業でした。現在は、全て機械でやっていますが、昔の人は全部手作業でやっていたので、体験を通して昔の人の大変さがよく分かりました。それに米作りの難しさについて実感する

ことができました。米は、茨城でさかんに作られています。茨城の米のおいしさも日本全国に自慢できると思います。

最後に、こうやって考えてみるとたくさん良い所が出て来ました。こんなにあるのに人気がないなんて、何でだろう…と不思議でした。私は、自然で溢れた、農業が盛んな茨城県が大好きです。これからもっと改善していくべきな所は、少しずつ改善したいと思います。茨城は、今は最下位かもしれないけどその分伸びるチャンスがたくさんあります。これから先へ、茨城にしかないことやものを全国に届けられるとうれしいです。私達にとって、茨城はとても大切な存在です。もし、茨城がなかったら、不便な事が山ほどあります。茨城の素晴らしさを全国の人に届けてほしいと強く思います。そして、いつか茨城の知名度が上がるように願っています。

「夢」の素晴らしさ

茨城県立常陸太田特別支援学校 高学部一年 小 又 加 奈

私は「夢」という言葉が大好きです。私は「夢」という言葉は素晴らしい言葉だと思います。そして、夢をもつ事は素晴らしいと考えます。夢をもつ事は素敵だと考えます。夢…、その言葉を口にする、あるいは頭の中に思い描くと、どんなに疲れていてもそして、どんなに落ち込んでいても、フワフワと虹の道を歩いているような、楽しく行き先を明るく照らしてくれる、そんな気持ちになれるのです。そんな素晴らしき気持ちになれるのです。つまり、モチベーションを上げる

事が出来るのです。とても素晴らしい言葉だと思いませんか？とても素敵な言葉だと思いませんか？私も、とても良い言葉だと断言します。とても素晴らしい言葉だと断言します。

さて、今の私にはたくさんの夢があります。今の私には自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程のたくさんの夢があります。祖母に、夢をもつ事は素晴らしい事だとよく言われました。また、欲張りな自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程の夢をもっています。例えば、将来就きたい職業への夢、お金持ちになって、写真でしか見たことのない海外へ行く夢、宇宙へ行く夢、その他誰もが聞いたことのないぐに実現するんじゃないかと思われる様なとてもささいな夢。そのたくさんの夢が私の中で柱になっているからこそ、今の自分があるのだと思います。その自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程のたくさんの夢が私の中で柱になっているからこそ今の自分があるのだと思います。中学校という温かい環境を卒業し、ある程度の判断を自分でくだし、行動の答えを見つけ出さなければならぬ少し大人の世界へ飛び込んだ私は、慣れない事と初めての事だらけで毎日疲れて眠さとの戦いです。そんな時たくさんの自分の夢を思い出します。自分の心の中の箱からあふれてしまいそうな程のたくさんの自分の夢を思い出します。そんなにささいな事であっても、私の気持ちを奮い起こしてくれるのです。それに向かって頑張ろう！頑張らなくては！というスイッチが入るのです。

次に「夢」は、誰もが平等に、自分の中に思い描く事が出来る、素晴らしいものでもあります。素敵なものでもあります。

す。男女差別や、大人だから、子供だからと、色々な場面でも皆さんの線引きがされてしまう日常生活の中で、周りを何も気にする事なく、誰もが自由に手に入れられる夢は、すごいものだと思いますか？素晴らしいものだと思いますか？私はまた、断言します。素晴らしいものだと。素敵なものだと。また、夢には大小もなければ、立派な夢、貧乏な夢という格付けもありません。人と比べて恥ずかしい思いをする事はありません。夢は、その人その人の心の中では誇らしくとても立派な存在なのです。その人その人の心の中では素晴らしいとても素敵な存在なのです。

更に、そんな夢をもっている人の目の輝きや体からにじみ出るオーラの様なものを感じ取る事も大好きです。そんな夢をもっている人の目の輝きや体からにじみ出るオーラの様なものを感じ取る事も素晴らしいと思います。自分だけではなく、周りの人が夢に向かって頑張る姿を見るのもまた、自分へのエネルギーを与えてくれるのです。自分へのパワーを与えてくれるのです。例えば、スポーツ選手です。夢に向かってつき進んでいる鋭い目つきや姿勢は観戦する人をくぎ付けにしています。だからこそ、得点が入ったときに私達は周りを気にせずお腹の底から大きな声を出して「やったー！」と立ち上がって大喜びするのです。いつの間にか選手からパワーをもらっているのです。それに気付いていない人もたくさんいるのではないのでしょうか。やっぱり夢は素晴らしいです。夢は素敵です。

私は「夢」という言葉が大好きです。私は「夢」という言葉は素晴らしい言葉だと思います。そして、夢をもつ事は素

晴らしいと考えます。夢をもつ事は素敵だと考えます。最低一つでも夢をもっている限り、これから先進まなくてはならない陰しく厳しい道も明るい道へと照らしてくれるはずです。明るい道へと照らしてくれます。これからも自分の夢に向かって頑張りたいと思います。



審査講評

第二十八回 大好き いばらき 作文コンクール

審査委員長 茨城大学教育学部教授 川嶋 秀之

茨城県知事賞をはじめ各賞を受賞された皆様、誠にありがとうございます。

今年度の作文のテーマは「ここが大好き、私のふるさと、私の家族」です。まずは家族やふるさと、そして自分の足元をしっかりと見つめ、そこに大切なものを見いだそうと考えたからです。応募総数は、二万二千五百五十五件あり、昨年より約八千件増えました。これは、今年度から公益財団法人日立財団さんの共催のご協力を得たことの影響が大きいと思われます。

以下、「茨城県知事賞」を受賞した作文について紹介します。小学生低学年の部…大平顕さん「家族がそろう毎日」は、お姉さんがある日病気で入院することになって、家族の生活は一変します。お母さんが家に帰ってくるのは夜の十一時。家族みんながそろっているのが普通だと思っていたのにそれが当たり前じゃないことに気づきます。お姉さんが退院したとき、うれしさとともに淋しい思いに耐えてがんばった自分

にも涙が出た、その時の気持ちがよく表現されています。小学校高学年の部…遠藤心咲さん「私の夢」。遠藤さんの夢は医者になって、医師が少ない地域で働くことです。そして、自分に知識を得る力や人間力など、医師に必要な資質があるか深く省察しています。夢の実現への厳しい道のりまで深く考えているところが立派です。中学校の部…山嶋陽菜乃さん「『魅力がない』ことこそ魅力?」。茨城県は魅力がないとされています。山嶋さんは、集客施設を持ち観光客が多く訪れることが本当に魅力なのかと根本的な問いかけをしました。心の原風景としての自然の豊かさ、食べものの豊かさ、それらに育まれた人情など身近な暮らしの豊かさこそ、見方を変えれば本当は魅力ではないかと論じます。常識をひっくり返す論法が見事で説得されます。高等学校の部…古谷滯士さん「棺に入れた手紙」。祖父が入院してからはそれまで以上にわがままになり、付き添う祖母にきつくあたって、二人の仲は悪いように見えました。しかし滯士さんは次第に、祖父は祖母に自分を安心してさらけ出し、祖母はそれをすべて受け入れ支えているのだということに気づきます。祖父が亡くなったとき、これからは僕が祖母を支えると書いた手紙を棺の中に入れました。祖父と祖母の心の奥にある絆に気づいた所が感動的でした。

新設の「日立財団 小平記念賞」を受賞した作文からも二つ紹介しましょう。

小学校低学年の部…松縄瑛希さん「はじめてのいばらきのなつ」。山梨県から水戸に引越して来て、初めて海の生き物に触れた体験が書かれています。捕った生き物を海に帰すときの淋しかったけれど、これでいいんだと命を思う気持ち が伝わりました。中学校の部…石川宙さん「私の家族」。宙さんは小学生の時に脳内出血を起こし倒れました。看病をきちんとこなし勇気づけ励ます立派なお母さんの姿と、財布を忘れたりお茶目なことをするお母さんの姿を描いて、お母さんの人間的な魅力が伝わります。

最後にご指導に当たられた各学校の先生方に謝意を表し、講評と致します。

第二十八回 大好き いばらき 作文コンクール 審査委員

川嶋 秀之	小野寺 浩幸	照井 康郎	石井 純一	森作 宜民	大高 茂樹	大窪 修二	潮田 元男	堤 義雄	山野辺 勉	爲我井 茂	池田 智子	根本 利隆	寺内 義興	島田 百子	森 賢禧	高橋 寄子	大久保 昌義	福岡 智子
-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	--------	-------